

地名警察署巡查訓授表

明治 年 月 調 何々縣警部 氏名印

一日	警察事務ノ要旨
二日	巡邏巡察ノ際最モ注意スヘキ條件
三日	行狀及心得ノ事
四日	注意申報ノ心得
五日	帶劔心得ノ要領
六日	該地方長官ノ告達ニ係ル取締規則中緊要ナル條項 自何條至何條
七日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中緊要ノ條件 應問
八日	集會條例及ヒ之レニ關スル告達中緊要ノ條項 自何條至何條或ハ何年 第何號ノ布告若クハ達
九日	嘯聚暴動及ヒ郡集喧嘩ノ警防方心得ノ事
十日	傳染病豫防規則中ノ要項及檢疫心得 自何條至何條
十一日	藥品取締規則及之ニ關スル告達中緊要ノ條項 自何條至何條
十二日	爆發物取締規則中ノ要領 自何條至何條

十三日	火藥取締規則中主要ノ條項 自何條至何條
十四日	銃砲取締規則中ノ要領 自何條至何條
十五日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中主要ノ條件 應問
十六日	賭博犯處分規則及細則中緊要ノ條項 自何條至何條
十七日	古物商及質屋條例並ニ其細則中緊要ノ條項 自何條至何條
十八日	出版條例爲眞條例新聞條例中緊要ノ條項 自何條至何條
十九日	度量衡取締規則及米商會社條例中ノ要項 自何條至何條
二十日	諸印紙稅則中緊要ノ條項 自何條至何條
廿一日	鳥獸獵規則中ノ要項 自何條至何條
廿二日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中ノ要項 應問
廿三日	墓地及埋葬取締規則中ノ要項
廿四日	水火風震等ノ變災ニ關スル心得方ノ要旨
廿五日	人命急變救援方心得ノ事
廿六日	難破船及漂流物取扱規則中緊要項 自何條至何條



廿七日	遺失物取扱規則中ノ要項自何條至何條
廿八日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中重要ナル條件 應問
廿九日	治罪法中巡查ニ必要ナル條項
三十日	刑法中最モ注意ヲ要スヘキ條項
卅一日	敎會講社祭典葬儀等取締方ノ要件

○看守訓授規則

明治二十二年十月 廿八日官第九一號 (監)

看守訓授規則別紙之通相定ム

看守訓授規則

- 第一條 看守長ハ看守ヲシテ其實務ヲ一層習熟スル爲メ獄務ニ關スル法律命令及本縣ノ令達其他職務上緊要ナル條件ヲ訓授スルモノトス
- 第二條 訓授ハ毎月八回應問ハ二回トス  
但毎回凡三十分間以内行フ可キモノトス
- 第三條 訓授應問ハ大凡別表ノ如シト雖モ適宜斟酌スヘシ
- 第四條 訓授表及應問ノ良否優劣表ハ翌月五日限リ調整シ典獄ニ出スヘシ

第五條 本則ハ押丁ニモ適宜之ヲ行フモノトス

附則

- 一 應問ノ優劣点数ヲ五等ニ切テ最上ヲ四点トシ最下ヲ零点トス
- 一 應問ノ優劣ハ毎月一回ノ平均点数ヲ調ヘ三点以上ノモノヲ優等トシ二点以下ヲ劣等トス
- 一 當日事故アリテ應問セサル者ハ其点数ヲ記入スヘキ欄内ハ朱線ヲ斜施ス可シ

○監獄看守訓授表

典獄○	明治 年 月 調	縣看守長氏 名印
三日	獄務ノ大意	
六日	在監人行狀視察ニ關スル要義	
九日	問題 (本月一日ヨリ八日ニ至ル何々ナル緊要ナル閣令省令訓令又ハ典獄ノ演達等何々ノ件) (懲治人ト稱スルモノ如何) (刑罰執行ノ目的如何) 應問	
十二日	看守行狀心得及帶劔心得并ニ非常心得	
十五日	監獄則	
十八日	監獄則施行細則并看守及監獄俯人分掌例	
廿一日	獄事衛生ノ要領	



廿四日 衣体搜索検査ニ關スル典獄ノ演達并在監人處罰内規ノ内

廿七日 問題(室密監禁者取扱方ハ治罪法第四百十三條以下ニアリ由テ其詳細ヲ答フヘシ) 處罰内規第何條時室處分(官第何年ノ本縣令本) 應問

卅日 戒護ニ關スル要義并刑法第四百二十二條ヨリ全百五十一條ニ至ル

典獄○	明治	年	監獄看守應問優劣表	縣看守長氏	名印
九日	廿七日	合	應	全上一回	優 劣 姓
點數	點數	點數	日數	平均點數	
4	2	6	二日	3	優
2	1	3	二日	1	劣
					某

○巡查点檢規則

明治廿七年六月廿六日訓令乙第二八三號 (警)

巡查点檢規則別冊之通改正ス

巡查点檢規則

- 第一條 点檢ハ巡查ノ人員服裝姿勢禮式及官給品保存ノ適否ヲ検査スルモノトス
- 第二條 点檢ヲ別テ通常点檢臨時点檢トス
- 第三條 点檢ハ署長之ヲ行フ署長不在ナルトキハ警部警部不在ナルトキハ巡查部長之ヲ代理スヘシ

通常点檢

- 第四條 通常点檢ハ毎朝内勤豫備及署在地受持當番巡查ニ對シ施行スルモノトス 駐在所巡查ニ對シテハ訓示ノ爲メ參集シタル日之ヲ行フヘシ
- 第五條 嚮導ハ巡查部長ヲ以テ之レニ充ツヘシ巡查部長差支アルトキハ上席巡查ヲシテ之レニ代ラシムヘシ
- 嚮導ハ各列ノ右翼ニ置クヘシ巡查部長餘員アルトキハ左翼ニモ之ヲ置クヘシ
- 第六條 署長ハ定刻ニ致レハ一定ノ合圖ヲ以テ各巡查ヲ点檢場ニ參集セシムヘシ
- 第七條 前條ノ合圖アリタルトキハ嚮導先ツ列ノ右翼トナルヘキ位置ニ立チ左翼ノ嚮導アルトキハ巡查整列ノ後其位置ニ就クヘシ
- 第八條 警部及嚮導ニ當ラサル巡查部長ハ列ノ背後ニ參列スヘシ
- 第九條 列ハ二列トス但人員若クハ場所ノ都合ニ依リ一列ト爲スコトヲ得 列ノ順位ハ身幹ノ長短ニ依リ長キヲ上位トシテ豫メ之ヲ定メ置クヘシ
- 第十條 各巡查ハ遲滞ナク參集シ嚮導ニ準ヒ豫定ノ順序ニ依リ嚴肅ニ整列スヘシ
- 第十一條 点檢ノ際巡查ハ降雨若クハ防寒ノ爲メ着用スルトキノ外外套ヲ席卷シ兩端ヲ連結シテ左肩ヨリ右腋下ニ斜擔スヘシ



第十二條 署長ハ列ノ前面中央ニ立テ號令ヲ以テ點檢ノ準備ヲ爲スヘシ

第十三條 嚮導ハ號令ニ應ジ自ラ標準トナリテ列員ヲ整頓スヘシ

第十四條 準備終レハ左ノ順序ニ依リ署長號令シ嚮導檢視スヘシ

一手帳

二名刺

三呼子笛

四捕繩

五頭髮

嚮導ノ檢視終レハ署長ハ右翼ノ前面ヨリ後面ニ至ル迄順次服裝ノ整否ヲ檢視スヘシ

第十五條 點檢終レハ署長解散ヲ令スヘシ

第十六條 點檢ヲ受クヘキ巡查三名以下ナルトキハ署長其席ニ召集シ前各條ヲ斟酌シテ適宜點檢ヲ行フコトヲ得

臨時點檢

第十七條 臨時點檢ハ禮式ヲ檢閲シ官給品ノ保存手入ノ精粗及代價ヲ以テ給與スル物品ノ適否并ニ刀身ヲ檢視スルモノトス

第十八條 臨時點檢ハ毎月一回之ヲ行フモノトス

但特ニ必要アルトキハ其時々之ヲ行フ

駐在所巡查ニ對シテハ禮式ノ檢閲ハ訓授ノ爲メ參集シタル日其他ノ點檢ハ監督巡視ノ際之ヲ行フコトヲ得

第十九條 物品ノ點檢ハ豫メ受檢ノ場所及其順序ヲ示シ混雜ナカラシムヘシ

第二十條 禮式ノ檢閲ハ通常點檢ト全シク整列セシメ警察禮式ニ依リ種類ヲ指示シテ前列ノ初位ヨリ順次ニ署長ノ面前ニ於テ其式ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 本則ニ依リ施行スル點檢ノ順序方法等ハ警部長細則ヲ以テ之レヲ定ム

○巡查勤務心得

明治二十一年八月廿四日官第六十六號 (警)

巡查勤務心得別冊之通改定來ル九月一日ヨリ施行ス

但明治二十年十一月官第百拾壹號中巡查勤務心得ハ同日ヨリ廢ス

(別冊)

巡查勤務心得

第一章 通則

第一條 巡查ハ一日八時間以上十八時間以内ノ勤務ニ服スヘシ



第二條 休息時間ト雖居宅ヨリ一里以外ノ地ニ出ルトハ其出先ヲ届出ツヘシ

第二章 巡查勤務

第三條 巡查部長以上ノ指揮ヲ受ケ勤務ニ服スヘシ (明治廿三年四月二日官第五十七號改正)

第四條 看守ノ勤務ニ當ル者ハ留置場取締内則ニ從フヘシ

第三章 受持巡查巡邏方法並ニ臨檢

第五條 受持ノ區畫並ニ巡邏線路及ヒ規定ナキ巡邏ノ度數ハ署長定ムル所ニ從フ

第六條 巡邏中故ナク線路外ニ出テ若シグハ定路ノ巡邏ヲ欠キ又ハ人家ニ立入等ノコアルヘカラス

第七條 巡邏中行政警察規則ニ明記アルケ條ハ勿論注意内規ノ項目ハ緻密ニ注意スヘシ

第八條 巡邏中説諭スヘキ概略ヲ掲ル左ノ如シ

一 橋上川畔其他危險ノ場所ニ於テ幼稚ノ遊戯スル者

二 危險ノ家屋墻壁等ヲ其儘ニ置ク者

三人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ率キ危險ト認ムル者

四 幼稚ヲ市街ニ獨行セシムル者

五 宅地ニ添タル通路ノ掃除ヲ怠リ及溝渠下水ヲ浚ハサル者

六 街路ニ於テ遊戯ヲ爲シ通行ヲ妨ク者

七 烈風ノ節注意ナク火ヲ焚ク者

八 過量ノ重荷ヲ駄送シ又ハ船積スル者

九 其他法律規則ニ觸ントスル者

第九條 巡邏中見聞及ヒ説諭ニ係ル事故ハ其詳細ヲ日誌ニ登記スヘシ

第十條 受持區内ノ住民ハ一般視察ヲ要スト雖戸口調査心得ノ種類ニ從ヒ綿密視察スヘシ

第十一條 受持區内ニ關シテハ興行祭典其他一切ノ取締ニ任スヘシ

但市内ノ興行祭典ハ此限リニアラス

第十二條 受持區内ハ勿論接近ノ地ハ何時上官ノ諮問ヲ受クルモ差支ナキ様常ニ人情風俗其他ノ動

靜ニ注意スヘシ

第十三條 受持巡查ハ左ノ事項ヲ取調其目錄ヲ製シ置増減アル毎ニ加除スヘシ

一 市町村長ノ住所氏名及役場位置 (明治廿四年十一月卅日官第九十五號改正)

一 縣會及町村會議員住所氏名

一 登記所ノ位置及公証人ノ住所氏名

一 代言人及町村總代ノ住所氏名

一 醫師獸醫產婆ノ住所氏名



- 一 豪商農及奇特者住所氏名
- 一 銃砲火藥烟火賣買營業人及製造人ノ住所氏名
- 一 墓地火葬場ノ位置及管理人ノ住所氏名
- 一 郵便局電信局學校病院會社々寺教會所及諸製造場ノ位置
- 一 監視者假免者及取締ニ關スル營業者ノ住所氏名
- 第十四條 受持區外ト雖モ接近地ニ於テ非常ノ災害アルモハ一時其場ニ臨ミ取締ヲ爲スヘシ
- 第十五條 左ニ記載スルモノハ其行狀ヲ視察シ及物品簿冊ヲ檢査シタルモハ其簿冊ニ檢査ノ年月日ヲ記シ認印スヘシ
- 一 監視者及假免者
- 一 質屋古物商
- 一 宿屋
- 第十六條 巡邏表配置ノ箇所ハ必ス立寄認印スヘシ
- 第十七條 巡邏及ヒ戸口調査搜索等ノ爲メ外出スルモハ其行先順路ノ概畧ヲ日誌ニ記載シ置クヘシ
- 第十八條 道路橋梁ノ破損及村落ノ岐道ニ指道標ヲク旅人ノ迷ヒ易キ場所アルモハ戸長ニ報告スヘシ

第十九條 巡邏中乗車乘馬ヲ許サス

第三章 一節 市街派出所勤務

- 第二十條 派出所勤務ノ巡査ハ隔日ノ服務トス
- 第二十一條 派出所勤務ノ巡査ハ十六時間乃至十八時間巡邏スルモノトス
- 第二十二條 重輕罪犯ヲ逮捕シタルモハ直ニ所屬署ニ送致シ違警罪ニシテ逃走ノ恐レナキモノハ告發書ヲ送致スヘシ  
(明治廿四年十一月三十日官第九十四號改正)
- 第三章 二節 町村受持勤務  
(明治廿四年十一月三十日官第九十五號改正)
- 第二十三條 町村受持ノ巡査ハ其受持區内指定ノ地ニ寄留シ宿所ヨリ一般ノ勤務ニ服スヘシ  
(明治廿四年十一月三十日官第九十五號改正)
- 第二十四條 勤務ノ時間ハ毎日九時開始トシ巡邏戸口調査其他一般ノ查察ニ服スヘシ(全上)
- 第二十五條 警察署分署所在地ノ服務割ハ其地ノ實況ニ依リ之ヲ定メ駐在所ノ服務ハ巡査線路ヲ一週シテ戸口調査ニ從事シ一ヶ月三分ノ一以上夜巡邏ヲ爲スヘシ(全上)
- 偶日 正午十二時ヨリ 午后四時迄 警邏  
午後八時ヨリ 午後十一時迄
- 第二十六條 重輕罪犯ヲ逮捕シタルモハ直ニ所屬署ニ引致シ違警罪ニシテ逃走ノ恐レナキモノハ告發書而已ヲ送致スヘシ  
(明治廿四年十一月三十日官第九十五號改正)



第二十七條 受持區外ニ出ントスルキハ所屬署長ノ指揮ヲ受クヘシ但事緊急ナルキ又ハ犯人護送等ハ執行ノ後具狀スヘシ

第二十八條 休憩時間ト雖モ猥リニ區外ニ出スヘカラス若シ止テ得サル事故アルキハ隣區派出所又ハ駐在所員ニ依頼シ置クヘシ

第二十九條 駐在所所在勤ノ者休暇及疾病其他ノ事故アリ欠勤スルキハ隣區巡查ニ於テ互ニ補助スルモノトス

第四章 豫備巡查勤務

第三十條 受持巡查ノ補欠公庭取締令狀執行看守及護送其他署内一切ノ雜務ニ服スヘシ  
三十日官第九十五号改正

明治廿四年十一月

○請願巡查心得

明治十七年七月四日  
日本乙第七十二号 (警)

請願巡查心得

第一條 請願巡查ノ職權及服務心得ハ一般巡查ニ異ナルヲナシ其職權ヲ行フニ於テハ請願者ノ干渉ヲ受クルモノニ非ス

第二條 請願巡查二名以上ナルキハ上席巡查ニ於テ派遣所ノ取締ヲ心得ヘシ

第三條 部内巡回ノ線路及勤務割ハ所屬署ニ於テ定ムル所ニ隨フモノトス

第四條 重罪輕罪ノ現行犯ヲ逮捕シタルキハ直ニ所屬ノ署ニ送致スヘシ

第五條 違警罪ヲ認メタルキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ所屬署ニ告發スヘシ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐れアルモノハ所屬署ニ引致スヘシ

第六條 變死其他檢証ヲ要スヘキ場合ニ於テハ即時其場ニ臨ミ證憑ノ湮滅セザル様取締ヲ爲シ速ニ所屬署ニ報告スヘシ

第七條 詰所ニ備付ヘキ書目左ノ如シ

一日誌 但實効見聞ノ事故ヲ詳録スルモノトス

一勤惰簿

一巡回簿 但巡回線路無之場所ハ備ルニ及ハス

第八條 持部外ト雖モ接近ノ町村ニ於テ水火等非常ノ災害アルキハ一時其場ニ臨ミ保護スルヲ得

第九條 非番ノ時ト雖モ猥ニ持部外ニ出ルヲ許サス

○請願巡查配置規則

明治二十四年三月十日  
二日縣令甲第廿三號 (警)

請願巡查配置規則左ノ通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

但明治十四年七月乙第百二十二號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

請願巡查配置規則



第一條 巡查ノ配置ヲ請願セントスル者ハ其人員配置ノ場所配置ノ期限及ヒ成規ノ費用上納スヘキ  
トシ詳記シ市町村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ願出ヘシ

第二條 請願巡查ノ費用ハ三ヶ月分宛其前月十五日限り内務部第四課へ前納スヘシ  
但シ本條ノ費用前納セサルモハ巡查ヲ配置セズ

第三條 配置ノ期限三ヶ月未滿ナルモノハ許可セズ

第四條 配置ノ巡查ハ一般ノ法規ニ從ヒ其所轄警察署又ハ分署ノ管理トス

○巡查赴任日限

明治十七年九月四 (警)  
日本乙第九十九号

巡查赴任ノ儀ハ拜命ノ日ヨリ三日以内ニ出發候儀ト可相心得此段相達候也  
但轉署ノ節モ本文同様ナルヘキ事

○警部及巡查標札掲出

明治十六年七月 (警)  
本乙第七十号

警察官吏タルモノハ自宅ニ在ツテモ人民ノ急ニ應シ保護スヘキハ其職分ニシテ各自心得モ可有之處  
其居所不分明ナルトキハ人民急ヲ報スルニ時機ヲ失スル等ノ義モ可有之ニ付自今左ノ雛形ニ依リ標  
札ヲ製シ各在勤地ノ居室へ掲ケ候様可致此段相達候也

竪七寸五分

幅二寸五分

茨城縣警部 何之誰

同上

茨城縣巡查 何之誰

○巡查名刺雛形

明治十四年七月廿 (警)  
九日本乙第百号

巡查名刺之儀ハ是迄一定ノ制無之ニ付自今左ノ雛形ニ依リ調製必ス所持可爲致此段相達候也

竪二寸五分

幅一吋

茨城縣 何警察署在勤又ハ  
何警察署何分署  
巡查 何之某

○看守(押丁)服務規定

明治二十五年七月 (監)  
七日官第三十五號

明治廿一年六月官第四十七號看守(押丁)服務規定別冊之通改正ス  
看守女監取締(押丁)勤務心得



第一章 服務規程

- 第一條 看守女監取締(押丁)ハ監獄則及監獄則施行細則看守及監獄雇人分掌例ニ基キ其職務ヲ行フモノトス
- 第二條 女監取締(押丁)ノ勤ムシテ明文ヲ掲ケサルモノハ前條分掌例ノ區別ニ抵觸セサル限りニ於テ本則ヲ適用ス
- 第三條 看官押丁ノ勤務ハ分テ晝勤夜勤ノ二部トス其夜勤ニ服スルモノハ十日毎ニ交代スルモノトス
- 第四條 女監取締ハ日勤トシ輪次夜警勤ニ服スルモノトス
- 第五條 看守出勤ノ節ハ制服ヲ着シ帶劍スルハ勿論手帖呼子笛捕繩及名刺ヲ攜帶スヘシ
- 第六條 (押丁)出勤ノ節ハ官給ノ被服着シ手帖呼子笛捕繩及名刺ヲ攜帶ス可シ
- 第七條 出勤ノ節ハ直ニ其到着ヲ届出出勤簿ニ認印シ点檢ヲ受クヘキモノトス
- 第八條 當日ノ勤務受持ハ看守長ノ命令ニ依ルヘシト雖モ出役前及罷役後一時ヲ受持ハ勤務配置表ニ依リ之ヲ認了スヘシ
- 第九條 勤務終了ノ上ハ受持中ニ係ル事故ノ有無ヲ報告シ看守長ノ命ヲ待チ退出スルモノトス
- 第十條 貸與ノ手帖ハ公務ニ關セサル他事ヲ記載スヘカラス若餘白ナキニ至レハ看守長ノ点檢ヲ受

ケ引換ヲ請フヘシ

- 第十一條 疾病ニ罹リ欠勤スルルハ醫案ヲ添當日午前十時迄ニ届出ヘシ若欠勤四日以上ニ涉ルルハ父母看護ニ係ル勤欠ハ一周日毎ニ醫案ヲ添出願許可ヲ受クヘシ
- 第十二條 勤務中疾病ノ爲メ其職務ヲ行フ能ハサルトキハ看守長ニ具申シ交代ヲ求ム可シ若病症急劇ニシテ寸時モ猶豫シ難キ場合ニ於テハ最近受持ノモノニ依囑シ一時其場ヲ離レ事由ヲ具申スルコトヲ得
- 但(押丁)ハ看守ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第十三條 父母對面ノ外允許ヲ得ヌシテ三里以外ノ地ニ至ルヲ得ス但近傍他出ト雖モ其出先ヲ宿所ニ示シ置クヘシ
- 第十四條 勤務中新聞雜誌ハ勿論法律規則ト雖モ之ヲ閱讀シ又ハ吸烟スルコトヲ得ス
- 第十五條 勤務中ハ特ニ上官ノ許可ヲ得タル場合ノ外椅子ニ倚リ又ハ脱靴スルコトヲ得ス
- 第十六條 在監人ニ親戚朋友等アリタルトキハ其旨典獄ニ届ク出ヘシ
- 第十七條 看守女監取締(押丁)ハ監獄ヨリ二十町以内ニ居住スヘキモノトス
- 第十八條 勤務中受持場ヲ離レ又ハ在監人ノ聽得ヘキ所ニ於テ公務外ノ事ハ勿論取締ニ關スル事柄ヲ談話スヘカラス



第十九條 職務ヲ行フニ際シ例規ナキモノ及ヒ取扱上疑義アルトキハト官ニ具申シ指揮ヲ受クヘシ  
第二十條 請願届ケハ知事及典獄ニ宛タルモノト雖モ總テ看守長ヲ經由スヘキモノトス

第二章 晝勤部員心得

第二十一條 晝勤部員出勤時限ハ在監人起床時十五分前ニシテ罷役還房ノ後退出スルモノトス  
但シ拘留監詰看守(押丁)及女監取締ノ出務時限ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 囚人出役ノトキハ一定ノ場所ニ於テ人員ヲ点檢シ各受持ノ工場ヘ引率スヘシ  
但監外ヘ出役ノ囚人ハ之ヲ連縛スルモノトス

第二十三條 囚人就役ノ際ハ各受持工場ヲ整理シ素品及作業器具ヲ與ヘ既定ノ業ニ就カシムヘシ  
第二十四條 罷役ノ際ハ業品及作業器具ヲ點檢シ若シ素品ニ加不足アルカ又ハ品具ニ破損分失等アリタルトキハ嚴密取調ヲナシ直ニ看守長ニ申告シ指揮ヲ受クヘシ

第二十五條 科程點檢ノ際ハ製造品ノ精粗ヲ取調粗惡品アルカ若クハ科程ヲ完了セサル者アルトキハ其事由ヲ看守長ニ申告スヘシ

第二十六條 外役先ニ於テ逃走者アリタルトキハ一面ニ殘囚ヲ取纏メ之ヲ嚴戒シ一面ハ直ニ追捕ノ手續ヲナスヘシ

但看守一名ナルトハ(押丁)ヲシテ追捕セシムヘシ

第二十七條 前條ノ場合ニ於テ直ニ捕獲シ得サルトキハ警察署及監獄署ニ急報スヘシ

第二十八條 囚人出役中ハ互ニ言語ヲ交ヘ又ハ自席ヲ離シ或ハ作業素品ヲ濫費シ及命令外ノ物品ヲ製造スル等ノトナキ様注意スヘシ

第二十九條 囚人押送ノトキハ戒具ヲ用ユヘシト雖モ刑事被告人ハ上官ノ指揮ニ依ルヘシ  
第三十條 前條戒具ヲ施シタルトキハ時々之ヲ點檢シ解脫ノ虞ナキ様注意スヘシ

第三十一條 懲罰執行ノ者アルトキハ其執行前又ハ免罰後衣体及監房ヲ搜檢スヘシ  
第三十二條 在監人入浴診察面接等ノ爲メ監房又ハ工場ヨリ出入セシムルトキハ往返トモ其人員及通身ヲ檢査シ尙途中ニ於テ物件ヲ受授若クハ拾得及談話スル等ノトナカラシムヘシ

第三十三條 刑事被告人ニ運動及入浴セシムルトキハ一房宛順次之ヲナサシメ途中ニ於テモ其犯者ト接觸セサル様注意スヘシ

第三十四條 在監人ニ貸與ノ物品及監房常置ノ器具ニ汚穢又ハ破損等アリタルトキハ其原因ヲ取糺シ看守長ニ具申スヘシ

第三十五條 囚人ニ貸與ノ物品及刑事被告人監内所要ノ衣類物件ハ交換又ハ貸借等ノトナキ様注意スヘシ

第三章 夜勤部員心得



- 第三十六條 夜勤部員出勤時限ハ罷役時十五分前ニシテ翌朝監房捜査後退出スルモノトス
- 第三十七條 囚人罷役還房ノ際ハ人員及其身体衣服ヲ搜檢シ破監ノ用ニ供スヘキモノハ勿論許可ヲ得サル物件ヲ包藏シテ入房スル等ノナキヲ要ス
- 第三十八條 戒具ハ日々之ヲ點檢シ破損又ハ脆弱ニシテ危險ト認マルモノアルトキハ現品ヲ添ヘ其旨看守長ニ報告スヘシ
- 第三十九條 囚人工場ニ携帶シタル書籍ハ還房ノ際之ヲ點檢シ各監受持看守ニ於テ配付スヘシ
- 第四十條 看守ハ受持囚名簿ニ依リ在監人員ヲ照査シ席次ヲ定メ翌日ノ作業ニ變換アルトキハ之ヲ告知スヘシ
- 第四十一條 看守ハ各受持監房ニ就キ囚人ノ訴願ヲ受付ク又(押丁)ヲシテ給與及貸與品ノ受渡ヲナサシムヘシ
- 第四十二條 夜間ハ間斷ナク受持場ヲ巡警シ其視察シタル事項ハ細大トナク之ヲ手帖ニ記載シ受持場交代ノ際ハ之ヲ言繼クヘシ
- 第四十三條 交代ヲナシタルトキハ直ニ受持場ヲ巡警シ異狀ナキヤ否ヲ檢スヘシ
- 第四十四條 交番中破監ノ企アリト思料シタルトキハ逃走ノ虞ナキ様嚴重其場ヲ警護シ直ニ上官ニ申告スヘシ

但受持所看守一名ナルトキハ最近受持ノモノニ通聲シ申告ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第四十五條 巡警中ハ百事ニ注意シ若シ不審ト認マルモノアルトキハ事ノ細大ニ拘ラス嚴密ニ其原由ヲ取調ヘシ

第四十六條 囚人出役ノ後看守長立會ヲ以テ受持監房ヲ捜査シ破監ノ用ニ供スヘキモノハ勿論許可外ノ物件アリタルトキハ之ヲ引上クヘシ

第四十七條 監房ヲ捜査シタルトキハ其時間及模様ヲ帳簿ニ記シ之ニ認印スヘシ

第四十八條 巡警中ハ常ニ火氣アル場所及燈火ニ危險ナキヤ否ニ注意スヘシ

第四十九條 監房巡警中ハ綿密ニ監内ノ勤靜反揭示事項其他ノ規則命令ヲ謹守スルヤ否ヲ視察スヘシ

第五十條 夜間ハ如何ナル事故アリト雖モ上官ノ指揮アルニアラサレハ監房ヲ開扉スルヲ得ス

但非常ノ變災ニ際シ人命救護ノ爲メ上官ノ指揮ヲ待ツ能ハサル場合ハ此限リニアラス

第五十一條 第二章第三十四條第三十五條ハ本章ニモ之ヲ適用ス

第四章 監門守衛心得

第五十二條 監門ハ常ニ之ヲ閉鎖シ上官ノ命アルニアラサレバ開扉スヘカラス

但小門ハ非常場合ノ外日出前ニ開キ薄暮ニ閉ツヘシ



第五十三條 監門ノ鑰匙ハ看守長ニ申出開扉ノ都度之ヲ受取ヘシ

第五十四條 夜間入門セント請フモノアルトキハ其姓名來意ヲ問ヒ看守長ノ指揮ヲ受クヘシ

但知事巡閱官司獄官看守長以上 護送巡查來監ノ時ハ此限リニアラス

第五十五條 知事及巡閱官裁判官檢察官警察官吏ノ外監門ヲ通行スルモノハ其姓名來意ヲ問ヒ必要

アリト認メタルトキニアラザルハ通行セシムルヲ得ス

第五十六條 物品ヲ携帯又ハ車載シテ監門ヲ出入スルモノハ其事由ヲ問ヒ且其物品ヲ檢スヘン若不

審ト認ムルトキハ上官ニ申告シ指揮ヲ受クヘシ

第五十七條 在監人ニ面對又ハ差入ヲ請フモノ及監獄ニ所用アル商工等ニ入門ヲ許シタルトキハ鑑

札ヲ渡シ之ヲ携帯セシムヘシ

但辨護人ハ此限リニアラス

第五十八條 通門鑑札ハ甲乙ノ二種トシ甲號鑑札ハ作業受負人等ニ乙號鑑札ハ臨時監獄ノ用辯ヲ爲

スモノニ交付スルモノトス

第五十九條 前條鑑札下付ノ者出門ノトキ時宜ニヨリ其衣休ヲ檢査スルヲアルヘシ

第六十條 女監構門ハ常ニ之ヲ閉鎖シ知事巡閱官裁判官檢察官司獄官看守長以上 監獄醫政詢師及特ニ典

獄ノ許可ヲ得タルモノ、外出入スルヲ許サス

但構内ニ入ルモノハ總テ女監取締ノ付添ヲ要スルモノトス

第五章 非常心得

第六十一條 非常ト稱スルハ左ノ事項トス

一反獄逃走

一水火風震

一監獄近傍ノ暴動

第六十二條 前條反獄逃走ノ事變アリタルトキハ特ニ威力ヲ示シ鎮壓捕獲ノ手配ヲナスヘシト雖モ

尙暴行ヲ逞シ防禦シ難キ場合ニ於テハ臨機ノ所置ヲナスコトヲ得

第六十三條 外役先ニ於テ暴擧アリタルトキハ速ニ鎮壓制禦ノ手續ヲ爲シ其機ヲ失スヘカラスト雖

モ事後苛虐ノ所爲アルヘカラス

第六十四條 監獄内ニ火災アリタルトキハ配置外看守(押丁)ハ勿論各監受持ノモノト雖モ一ヶ所ニ

名以上ナルトキハ其半數迄ハ消防ニ從事スヘシ

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ晝夜ニ拘ラス炊夫及掃除夫ヲシテ一時消防ニ從事セシムルコトヲ得

第六十六條 工場又ハ其近傍ヨリ發火シタルトキハ就役囚人中若干ノ人員ヲ撰定シ消防ニ從事セシ

メ其他ノ者ハ避災ノ手續ヲナシ總囚紛亂喧嘩ニ至ラシムヘカラス



第六十七條 監獄内外ノ火災ニシテ受持場ニ延焼ノ虞アルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ

- 一 監房受持看守ハ鑰匙ヲ携帶シ開扉ノ準備ヲナシ囚情ヲ鎮シ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 一 工場受持看守ハ器具素品及製造品ヲ收メ工場若クハ工場外ニ整列セシメ人員ヲ檢シ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第六十八條 前條ノ場合ニ於テ病監受持ノ看守ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其危害ノ迫ラサル以前病囚ヲ出房セシメ擲内安全ノ地ニ押送スヘシ

但輕病者ニシテ逃走ノ虞アルモノハ時宜ニ依リ之ヲ連絆スルコトアルヘシ

第六十九條 監獄則第九條ノ變災ニテ在監人ヲ他所ニ押送スルトキハ左ノ手續ニヨルヘシ

但事急遽ニシテ本文ノ手續ヲナス違アラサルトキハ此限リニラアス

刑事被告人

一 重罪事件ニ係ルモノハ手錠ヲ施シ監房別ニ連絆スヘシ

一 輕罪事件ニ係ルモノハ手錠ヲ要セス監房別ニ連絆スヘシ

但平日押送ノ際戒具ヲ用ヒサルモノハ此限リニアラス

囚人

一 強盜竊盜及危險ノ虞アル囚徒ハ施駄連絆スヘシ

第七十條 水火風震ノ事變ニ際シ在監人ヲ出房又ハ之ヲ押送スル場合ニハ老少廢疾ノ者ハ特ニ注意シ之ヲ保護スヘシ

第七十一條 第六十一條各項ノ場合ハ勿論監獄ヲ距ル拾町以内ニ火災アリタルトキハ非番看守女監取締(押丁)ハ速ニ出署シ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

但拾町以外ノ火災ト雖モ監獄ニ危害ノ虞アルトキハ又全シ

第七十二條 前條ノ場合ニ於テ出署シタルモノハ危害ノ有無ニ拘ハラヌ上官ノ指揮ナクシテ退出スルヲ得ス

第七十三條 非常事變ノ場合ハ知事巡閱官裁判官檢察官及警察官吏ノ外出入スルヲ許サス

但知事ノ使命ヲ帶ヒタルモノハ此限リニアラス

第七十四條 非常事變ノ時ハ署内警鐘ヲ打鳴ラシテ之ヲ報スルコトアルヘシ

但本條ノ場合ハ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

第六章 衛生心得

第七十五條 監獄内外ノ下水ハ常ニ其浚潔疏通ニ注意シ汚水ノ溜滯ナカテシムヘシ

第七十六條 廁圍ハ毎日之ヲ掃除シ適宜防臭藥ヲ散布スルモノトス

第七十七條 夏季ハ尤モ食料ニ注意シ若衛生ニ害アリト認メタルモノアルトキハ直ニ看守長ニ報告



スヘシ

第七十八條 放免其他出監ノ者返還ノ衣類ハ悉ク之ヲ點檢シ汚損シタルモノアルトキハ速ニ澀濯補綴ノ手續ヲ爲スヘシ

但襦袢幘鼻揮手拭ハ都テ澀濯スヘシ

第七十九條 在監人疾病ノ申立アリテ診察ヲ要スルモノト認メタルトキハ其旨看守長ニ申告シ指揮ヲ受クヘシ

第八十條 工場又ハ監房ニ於テ急劇ナル發病者アリタルトキハ全囚中指名シテ之ヲ看護セシメ速ニ前條ノ手續ヲナスヘシ

第八十一條 外役先ニ於テ重病ヲ發シ又ハ重傷ヲ負ヒタルモノアルトキハ直ニ歸監セシメ又ハ監獄醫ノ來診ヲ請フアルヘシト雖モ監獄ニ離隔セシ地ニ於テハ最寄開業醫ヲ招キ治療セシムルヲ得

第八十二條 診察ノトキ患者ハ醫師ニ對シ其症狀等ヲ答フルノ外看守ノ許可ナクシテ濫リニ申立ヲ爲サシヘカラス

第八十三條 在監人醫師ニ對シ強テ疾病ノ申立ヲ爲シ又ハ粗暴ノ舉動アルヘシト思料シタルトキハ速ニ之カ取締ヲ爲シ其旨看守長ニ申告スヘシ

第八十四條 服藥者ニシテ服藥セス若クハ其用法分量ヲ誤リ又ハ之ヲ投棄スル等ノ者ナキヤ否ニ注意スヘシ

第八十五條 病室ニ在ル飲食物ハ時々注意ヲ加ヘ腐敗ノ虞アルモノハ之ヲ用ヒシムヘカラス

第八十六條 看病夫ハ重病患者凡ノ六名ニ一名トシ傳染病及瘋癩患者ニハ一名又ハ二名ヲ付スルモノトス

第八十七條 疥癬其他皮膚病患者ニ貸與シタル衣類ハ熱湯ヲ以テ之ヲ澀濯シ他ノ衣類ト別異シ置クヘシ

第八十九條 監獄内ニ傳染病者アリタルトキハ直ニ既定ノ場所ニ移シ全房者ハ一週日以上他囚ト離隔シ發病又ハ吐瀉ノ場所ハ直ニ消毒ヲ行ヒ二週日ヲ經過スルニアラサレバ使用セサルモノトス

第九十條 押送途中傳染病ニ罹リタル者アルトキハ最寄警察署又ハ市町村役場等ニ依頼シ醫療及消毒ノ手續ヲナシ速ニ歸監セシムヘシ

但消毒方法ハ醫師ノ意見ヲ問ヒ慎重ニ之ヲナシ決テ粗忽ノ取扱アルヘカラス

第九十一條 傳染病患者ニ觸接シタル物品ハ消毒ノ上上官ノ指揮ヲ受テ燒棄スルモノトス

第九十二條 傳染病患者ノアリタル監房ハ出監ノ後直ニ消毒ヲ行ヒ二週日以上經過セサレバ使用セサルモノトス



第七章 在監人禮式

第九十三條 囚人懲治人押送途中知事巡閱官司獄官看守長監獄醫教誨師ニ出逢タルトキハ禮式ヲサシムヘシ

第九十四條 前條ノ官吏又ハ各部署長及裁判官檢察官作業場并監房ニ臨ミタルトキ又前條ニ全シ

第九十五條 在監人ニ禮ヲナサシムルトキハ左ノ号令ヲ用ユヘシ

一氣ホ付

二禮

三直レ

但第一第三ノ号令ハ場合ニヨリ之ヲ省略スルコトアルヘシ

第九十六條 病監ニ於テハ號令ヲ用ヒス看護夫及輕快患者ニハ各自ニ禮ヲ爲サシムヘシ

○拘置監詰看守押丁出勤時限

明治二十六年四月廿九日官第二十六號 (監)

拘置監詰看守押丁及女監取締出勤時限左ノ通相定ム

四月廿日ヨリ九月十日迄

午前七時

九月十一日ヨリ四月十九日迄

午前八時

○監獄署員心得方訓諭

明治二十六年七月六日官第四十號 (監)

其署員ハ家事ノ爲メ外役トシテ囚人ヲ使役スヘカラサルハ勿論監獄ニ於テ販賣スル物品ヲ購入スヘカラス

○巡查心得方訓諭

明治二十四年八月十九日官第七六号 (警、監)

今般勅令第七十號ヲ以テ巡查看守ハ判任官ヲ以テ待遇セララル、コトニ相成タルハ全ク巡查看守ノ其職任ノ重ニ對シテ相當ノ待遇ヲ與ヘラレタルト同時ニ又之レヲシテ十分ノ實效ヲ舉ケシメントノ主旨ニ外ナラサルニ付巡查看守ハ其優待ヲ加ヘラレタルカ爲メニ苟モ傲慢ニ流ル、コトナク此際益々奮勵シテ其職任ノ重ヲ盡サ、ルヘカラス殊ニ巡查ニ在リテハ公衆ニ直接シテ其職務ヲ行フ者ナレハ一層此ニ注意ヲ加ヘテ常ニ公正ト誠實トヲ以テ其職務ニ當リ親切ト丁寧トヲ以テ其ノ公衆ニ接シ以テ益々警察ノ實効ヲ舉ケシムコトヲ勉メサルヘカラス宜ク此意ヲ体シ心得違ノ者無之様厚ク訓諭セラレヘシ

○巡查看守休暇細則

明治二十七年六月廿三日官第四十五號 (警、監)

明治十八年八月本乙第八號巡查看守休暇細則別冊之通改正ス

巡查看守休暇細則

第一條 休暇ハ概則第二條ニ定メタル割合ヲ以テ給與スヘシ



第二條 皆勤日數ハ新任ノモノハ拜命ノ日ヨリ欠勤ノモノハ出勤ノ日ヨリ起算ス

第三條 左ノ各項ニ該ル日數ハ欠勤ニ算入セス

一職務上傳染病ニ罹リ療養

一慰勞休暇

第四條 休暇旅行中天災地變ニ遭遇シ休暇期日ヲ經過シタル日數及忌引日數ハ之ヲ扣除シ前後ノ皆

勤日數ヲ通算スヘシ

第五條 部署長ハ皆勤ノ届出アリタルトキハ調査ノ上休暇證ヲ下付スヘシ

第六條 休暇ノ申請アリタルトキハ其日數ヲ休暇證ノ裡面相當欄内ニ記入シ部署長之ニ檢印スヘシ

第七條 休暇ハ既ニ給與シタル後ト雖モ事務ノ都合ニヨリ之ヲ取消シ又ハ中止スルコトアルヘシ

但此場合ニ於テハ其事由ヲ休暇証裏面事故欄内ニ記入シ部署長之ニ檢印スヘシ

第八條 休暇ハ半ク年又ハ一ク年分チ一次若クハ數次ニ申請スルコトヲ得

但休暇申請ハ皆勤期日ノ翌日ヨリ一年限リトス

第九條 休暇中在勤地ヲ離ル、トキハ其旨届出認可ヲ受クヘシ

第十條 休暇証ヲ亡失シタル届出アリタルトキハ其理由ヲ調査シ更ニ之ヲ下付スヘシ

第十一條 部署長ハ賜休暇調査簿ヲ調製シ皆勤届又ハ休暇ノ申請アリタルトキハ其年月日數及殘日數

等ヲ記載シ置クヘシ

第十二條 本則ニ依リ差出スヘキ書式ハ左ノ如シ

第一號

皆勤届

自年月日  
至年月日

半年又ハ一ケ年皆勤

右皆勤之義相違無之候此段及御届候也

何部署課在勤

年月日

巡查(看守)

何

某印

何部署長宛

第二號

歸省(旅行)届

某儀

本月何日ヨリ何日迄休暇ヲ得候ニ付何日在勤地出發實家何縣郡町村大字浴地何某方ニ歸省(又ハ何縣郡町村大字ニ旅行同地何某方ニ滞在)致度候條御認可相成度此段及御届候也

何部署(課)在勤



年月日  
何部署長宛

巡查(看守) 何

某印

休暇證

巡查(看守) 何 某

半(一)夕年間皆勤ニ付(三)週間慰勞休暇ノ證トシテ之ヲ附與ス依テ左ノ事項ヲ遵守スヘシ  
 一 休暇中ト雖モ紀律ヲ遵守シ行狀ヲ慎ムハ勿論水火其他非常事變ノ場合ハ速ニ出務スヘシ  
 一 休暇中他行スルモハ必ス此證ヲ携帯スヘシ  
 一 休暇旅行中天災地變ニ遭遇シ期日ヲ經過シタルモハ其地所轄警察署又ハ分署ノ證明書ヲ深ヘ其旨上申スヘシ  
 一 本證ヲ亡失シタルモハ更ニ再渡ヲ乞フヘシ  
 此證書ハ皆勤期日ノ翌日ヨリ一ケ年間有効ノモノトス

年月日

何警察(監獄)部署

皆勤 年月日	自 年月日	至 年月日	半(一)夕年	認印		署長		期休		事故	殘日數	本人 認印
				自 年月日	至 年月日	限 日數	暇 日數					

○巡查勤務一旬毎ニ休憩ヲ與フル件

明治二十一年九月  
四日官第七十五號 (警)

毎日勤務ノ巡查ハ一旬毎ニ一晝夜ノ休憩ヲ與フルヲ得

○女監取締慰勞休暇

明治二十七年九月廿  
八日官第七十四號 (監)

女監取締皆勤ノ者ニ限り特ニ慰勞ノヲメ休暇ヲ與ヘ候條本年六月官第四五號巡查看守休暇細則ニ準シ取扱フヘシ

○擊劔ノ爲メ負傷シタル者欠勤ニ算入セサル件

明治十六年十月六  
日本乙第九十五號 (警)

本年八月本乙第七十六號ヲ以テ巡查帶劔之義相達候ニ付公務ノ餘暇擊劔ヲ講習スルハ各心得モ可有之候得共倘シ講習ノ爲メ負傷シ出勤難致モノハ特別ノ詮議ヲ以テ欠勤日數ニ算入セサル義ト可心得此段相達候也

○巡查勤務時間ノ件

明治二十二年二月  
廿日官第十一號 (警)

巡查勤務時間半數未滿ニシテ引籠タル者ハ自今不勤ノ部ニ算入ス  
 但明治十八年本乙第百廿四號達ハ廢ス

○看守(押丁)勤務時間計算ノ件

明治二十三年二月  
廿七日官第二十號 (監)



看守(押丁)出勤中發病等ノ爲メ勤務時間半數ヲ超ヘ引籠タルモノハ自今出勤ノ部ニ算入ス  
但女監取締授業手モ之ニ準ズ

○陸軍々籍ニアル巡查復習点呼ノ件

明治十七年九月  
四日本乙第百號 (警)

陸軍々籍ニ在テ巡查奉職ノ者復習點呼ノ爲メ欠勤スルモ欠勤ニ算入スヘキニ限リニ無之候條此段相  
達候也

○巡查暇願ノ件

明治十二年十一月  
月乙第二十八號 (警)

巡查疾病ニ罹リ管外へ治療等願出ノ者自今往復共三十日以内ノ日數ヲ以テ差許候條此旨相達候事  
但管内ニ於テ治療ノ儀ハ從前ノ通可相心得事

○巡查暇願ノ件

明治十二年十一月十  
九日乙第三十三號 (警)

巡查疾病ニ罹リ管外へ治療等願出ノ者往復共三十日以内ヲ以テ差許云々客月乙第二十八號ヲ以テ相  
達置候處滿二ケ年以上勤績ノ者ハ病疴ノ難易ヲ量リ三十日以外許可候儀モ可有之候條此旨相達候事

○茨城縣警察官吏召集規則

明治廿年九月二  
日官第八十二號 (警)

茨城縣警察官吏召集規則

第一條 召集ハ第一召集第二召集第三召集ノ三種トス

第二條 第一召集ハ事變ノ緩急ニ應ジ總員若シハ幾部ヲ(本部)又ハ指定ノ地ニ召集スルモノトス

第三條 第二召集ハ事ノ緩急ニ從ヒ警察署ハ所屬各分署員ヲ分署ハ同所屬内接近ノ分署員若シハ

本屬警察署員等ノ幾部ヲ警察署分署又ハ指定ノ地ニ召集スルモノトス

但時機ニ依リ所屬外最近ノ警察署分署員ノ幾部ヲ召集スルヲ得

第四條 第三召集ハ警察署ハ其警察署員分署ハ其分署員(派出所員  
モ包含ス)ニ限リ其署又ハ指定ノ地ニ召

集スルモノトス

第五條 第一召集ハ警部長第二第三召集ハ警察署長分署長之ヲ行フ

第六條 (本部)又ハ警察署分署ヨリ警察署分署へ發スル召集命令書式及ヒ召集票ノ雛形左ノ如シ

第七條 召集票ハ赤白二種ニ分テ其赤票ハ車馬急行白票ハ急歩參集ノ票トス

第八條 召集票ハ(警察本部)又ハ警察署分署ニ備置キ召集ヲ要スル場合ニ於テ急行巡查若シクハ便

宜瞬速ノ方法ニ依リ配付スヘシ

第九條 召集票ノ配付ヲ受ケタルモノハ直ニ正裝ヲ爲シ該票攜帶參集スヘシ

第十條 召集票ノ配付ヲ受ケ可キモノ不在ノ時ハ家族若クハ宿主ニ渡シ行ク先々へ傳送セシムヘシ

第十一條 召集票ハ指定ノ地若クハ官署ニ到着シタル時直チニ上官ニ差出スヘシ

第十二條 前條召集票ヲ受ケタル官吏ハ其裏面ニ參着月日時刻ヲ記入シ置クヘシ



第十三條 第一召集ヲ行フ場合左ノ如シ  
 一 嘯集暴動其他全員舉テ警戒ヲ要スル時  
 第十四條 第二召集ヲ行フ場合左ノ如シ  
 一 多囚反獄逃走若シクハ其模様アル時  
 一 多衆ノ罪犯ヲ捕獲シ及ヒ之カ手配ヲ要スル時  
 一 洪水ノ爲メ堤防決潰ノ虞アル時  
 第十五條 第三召集ヲ行フ場合左ノ如シ  
 一時機切迫部下各自ノ命令ヲ要スル時  
 一 其署一局部ニ止マル事件ニシテ部下總員ヲ要スル時  
 第十六條 總員召集ノ場合ト雖モ囚人看守及ヒ一時内事ノ處務ニ足ルヘキ人員ヲ殘シ置クヘシ  
 第十七條 (警察本部)又ハ警察署分署ニ乗車切付附切付ノ二種ヲ備ヒ置キ急行召集ヲ要スル場合ニ於テハ豫メ召集地ノ里程ヲ量リ各一枚又ハ數枚ヲ召集票ト共ニ配付スルモノトス  
 第十八條 切付ノ使用ハ馬車人力車ノ駐車場及ヒ旅人宿ニ限ルヘシ  
 但シ切付ハ使用者在勤署及ヒ官氏名捺印ノ上宿主又ハ營業人ニ渡スヘシ  
 第十九條 切付ハ使用セサルカ若シクハ殘餘アルトハ必ス完納スルモノトス

召集命令書式

何々之事件ニ依リ(總員又ハ若干名) (本部)又ハ何署何地へ(赤色票)召集ス

何警察署又ハ何分署

年月日

表面

茨城縣 警察本部 全補 何 某 巡查  
 警察本部何警察署分署  
 又ハ何々地へ第一二 召集ヲ命ス  
 明治何年何月何日午 前何時何分  
 茨城縣(警察本部)

裏面

參着時間	何月何日午 前何時
里程	何里何丁
發付之署名	某警察署

裏

乗車之 證  
 本部印

此證ヲ受取タルモノハ十日以内ニ出發  
 又ハ參着地ノ所管警察署若クハ分署へ  
 持參賃錢ヲ受取ヘシ



賄之

証  
本部印

此証ヲ受取タルモノハ十日以内ニ所管警察署又ハ分署へ持參賄料ヲ受取ルヘシ

○茨城縣警察官吏召集心得

明治二十年九月二日  
日官第八十二號

(警)

茨城縣警察官吏召集心得

- 第一條 第一召集ノ場合ニ於テ赤色票ノ配付受ケタルモノ參集ノ途次如何ナル事變ニ遭遇スト雖モ時ヲ遷サズ指定地ニ參着スヘシ
- 但シ兇徒行路ニ塞リ正裝ニテ通行シカタクキ場合ハ臨機微行スルモ苦シカラス
- 第二條 第一召集ノ場合ニ於テ白色票ノ配付ヲ受ケタルモノ及第二第三召集ノ場合ニ於テ赤色票ノ配付ヲ受ケタルモノ參集ノ途次人命ニ關スル事件ニ遭遇シタルハ一時救護ノ處置ヲナスヘシ
- 第三條 第二第三召集ノ場合ニ於テ白色票ノ配付ヲ受ケタルモノ參集ノ途次放火強盜其他重罪ニ關スル犯人ヲ認メタルハ臨機捕獲ノ手配ヲ爲スヘシ
- 但シ迂回ノ追跡ハ爲スヘカラス

第四條 前二條ノ場合ニ於テ犯人ヲ捕獲シタルハ最近ノ警察署分署巡查派出所若シクハ戸長ニ引渡シ速ニ指定地ニ參着スヘシ

第五條 召集ノ命ヲ受ケタルモノ參集ノ途次假令天災地變ニ遭遇スト雖モ可成指定地ニ參着スルヲ要スヘシ

第六條 召集ノ命ヲ受ケタルモノ參集ノ途次旅行シ能ハサル疾病ニ罹リタルハ醫接ヲ添ヘ最近ノ警察署分署へ報告シ指揮ヲ請フヘシ其報告ヲ受ケタル警察署分署ハ召集地へ報告スヘシ

第七條 第一召集ヲ要スヘキ場合アリト思料スルハ其事件ノ大小輕重ヲ詳記シ(警察本部)ニ急報スヘシ

第八條 警察署分署ニ於テ規則第五條ノ召集ヲ行フハ直ニ(警察本部)ニ急報スヘシ分署ニ於テハ全時ニ所屬警察署ニ急報スルモノトス

第九條 第二條第三條ノ手續ヲ爲シタルハ參着ノ上直ニ上官ニ具狀スヘシ

第十條 規則第十七條ニ依リ請求スル車賃賄費ハ其切符ト引替下渡シ置キ追テ使用者在勤ノ署へ消還方請求スヘシ但賄費ハ本人日當ヨリ上納セシムヘシ

○警部巡查非常心得

明治十三年十二月廿一日乙第百四十三號

(警)

警部巡查非常心得



- 第一條 凡ソ非常トハ一揆暴動破監水火風震ノ災害等ヲ云フ
- 第二條 非常ノ事アルヲ宿所其他ニ於テ聞知スルモハ制服ヲ着シ出署スルハ勿論ナリト雖モ事急遽ニ際シ制服着用ノ暇ナキモハ私服ヲ着スルモ妨クナキモノトス  
但非常ノ場ニ接近スルモハ直ニ其場ニ趣ケ妨ケナシ
- 第三條 現場ニ至レハ左ニ掲クル事項ヲ取扱ヒ其他變ニ應シ處分スルハ勿論ト雖モ其事柄ニ依リ署長又ハ上席者ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第一罹災ノ者ヲ保護スル事
- 第二負傷者ヲ看護シ治療セシムル事
- 第三 災害ヲ豫防スル事
- 第四 犯罪ヨリ生スル事項ハ其犯人ヲ捕獲スル事
- 第五 家財運搬ノ自由ヲ導キ賊難ヲ豫防スル事
- 第六官署ニ於テハ帳簿等ヲ專一ニ保護スル事
- 第七不審ノ者ヲ監査スル事
- 第八遺失物ニ注意スル事
- 第九暴動破監火災等ノ原因ヲ求ムル事

第十罹災人ノ住居姓名ヲ調査スル事

- 第四條 暴動破監ハ勿論水火風震災ノ甚シキハ本署ヘ急報スヘシ  
但シ分署ニ在テハ一面所管警察署一面(本署)ヘ急報スヘシ
- 第五條 災害ヲ防止シ又ハ危難ヲ救援スル等ノ者ハ詳細取調ノ上書類ヲ遞達スヘシ
- 第六條 在署ノ者ハ署内外ヲ巡視シ帳簿官金其他ノ物品ヲ看護スヘシ

○巡查看守精勤證書授與規則心得

明治二十二年七月  
五日官第五十六號 (警、監)

巡查看守精勤證書授與規則心得左ノ通相定ム

巡查看守精勤證書授與規則心得

- 第一項 精勤證書ハ規則第三條第一項乃至第四項ノ一ヲ欲キ若クハ第四條ニ抵觸スル者ハ之ヲ具狀スルヲ得ス
- 第二項 規則第三條ノ調査ハ滿三年間素行上一ノ缺点ナクシテ紀律ヲ守リ勉勵超衆拔群ニシテ内外ノ事務ニ兼通シ其執行機敏ニシテ熟練ノ實蹟アラモノヲ撰擇スヘシ  
(明治廿七年十二月廿七日官第九十號改正)
- 第三項 規則第三條第四項ノ年限ハ拜命ノ日ヨリ起算シ第四條ノ處分ヲ受クル者ハ其處罰ノ翌月ヨリ起算ス  
(明治廿二年九月十八日官第七十二號改正)
- 第四項 精勤證書ヲ所持スルモノニシテ再任ヲ求ムル者アルモハ先ツ退職後ノ行狀ヲ審査シ及年齡



体格ヲ検査スヘシ

第五項 規則第六條ノ場合ニヨリ證書ノ再授ヲ要スルルハ警察署長若クハ典獄ヨリ本人届書ヲ添ヘ具狀スヘシ  
(明治廿七年十二月廿七日官第九十號改正)

第六項 規則第七條ニ依リ證書ヲ沒收スルルハ警察署長若クハ典獄(警察本部)ハ課長ヨリ其事由ヲ具狀スヘシ

第七項 精勤證書ヲ授與スヘキ具狀ハ左ノ書式ニ依ルヘシ  
具狀書式

茨城縣 巡查 氏 名  
看守

- 一行狀 方正ニシテ云々平素ノ品行ヲ詳記ス
- 一勤務 勉勵衆ニ超ヘ其實効云々ノ事ヲ記ス (明治廿七年十二月廿七日官第九十號改正)
- 一事務 内勤ニ在テハ云々外勤ニ在テハ云々其熟達ノ成績ヲ詳記ス
- 一奉職 明治何年何月拜命何年何月ニテ滿三年ト記ス

(授與規則第四條ノ處分ヲ受ケタル者ハ其處罰ノ日ヨリ明治何年何月何日ニテ滿三年ト記ス)

右成績之通相違無之依テ精勤證書授與可相成モノト思料候條規則第二條ニヨリ具狀候也

年月日

知事宛

具狀者 官 氏 名 印

○巡查賞與上申心得

明治十七年六月十四日 (警)  
日本乙第五十五號

巡查賞與上申心得

- 第一條 凡ソ巡查職務上功勞アル者ト認ルルハ其實際ヲ查察シ意見書ヲ添テ上申スル者トス
- 第二條 犯罪人ヲ探偵若クハ逮捕セシ者(及助力者)ヨリ其手續書始末書等ヲ取纏メ調査ノ上相違ナキ旨ヲ証告シ上申スヘシ
- 第三條 告發ノ犯罪人既ニ處刑濟ニ至リシナラハ宣告書寫ヲ添ヘ未タ處刑濟マサル者ハ訊問調書ヲ添ヘ上申スヘシ
- 第四條 事他縣ニ涉ル者ハ其縣ハ照會シテ證憑トナルベキ書類ノ謄寫ヲ乞ヒ之ヲ添申スヘシ
- 第五條 賞與ヲ上申スヘキ者大概左ノ五項トス
  - 第一 貨幣偽造人殺放火強盜ヲ探偵及逮捕スル者
  - 第二 人命ヲ救助セシ者
  - 第三 竊盜逮捕ニ格外盡力セシ者
  - 第四 火災ヲ撲滅セシ者及之ヲ撲滅セザルモ非常ノ功勞アル者



第五 前數條ノ外警察上非常ノ功勞アル者  
第一號

何署詰  
巡查 何 某  
何署詰  
巡查 何 某

右之者賞スヘキ其功績ヲ因テ相當ノ御賞與有之度別紙書翰相添此段上申候也  
委詳記載スヘシ  
何警察署長

年月日 官 氏 名 印

令 何 某 殿

第二號

何國何郡何村何番地  
何ノ誰何男或ハ弟

何 之 某

右ハ強盜人殺ハノ見込又ハ巡查又ハ雇探何ノ誰夫々探索其確証ヲ得遂ニ何年何月何日何府縣何村何

地ニ於テ捕獲於當署取調候處罪跡左之通候也

一何年何月何日何府縣何町村何地ニ於テ何々ノタメ何某ヲ謀故殺

一何年何月何日何府縣何町村何某方持兇器又ハ不持兇器押入贖之有無

何國何郡何村何地産

士族平民  
又ハ無籍何ノ子弟

何 之 某

右者々々々

一々々々々

何警察署長

年月日 官 氏 名 印

罪犯各別ニ記ス可シ

第三號

本貫士族或ハ無籍

犯人ノ名前一  
一記載スヘシ

々々々々々

何 之 某



右之者拒捕強盜贖貨ノ所業有之趣ヲ以テ何月何日探偵ノ命ヲ奉シ或ハ強盜ノ訴有之ヲ以テ探索注意スル云々或ハ平素不行跡且種々惡評モ有之候ニ付其舉動ヲ探偵スルニ何ノ確証有之ニ付何月何日逮捕シカ其兇暴ノ狀ヲ詳記スルヲ要ス其助力スル者アラハソノ姓名云々其探索逮捕ノ手此段上申候也

巡查又ハ雇

年月日

何之誰

第四號

何月何日巡行或ハ下宿ニ罷在候所何署管轄内何郡何村何ノ某方ヨリ出火ノ場所原因其廣狹等ヨリ記ス出火致シ候ニ付直ニ駆付種々盡力同僚ノ助力者アラハ姓名其他ノ助力消留中候此段上申候也

何警察署

年月日

何某

第五號

何月何日午前(後)何時巡行或ハ下宿罷在候所何署管轄内何郡何村ニ於テ急劇發病或ハ何川へ陷溺候

者アルヲ見認メ又他ノ報直ニ駆付候處水ノ深淺廣狹及本人疵傷アラハ其種々盡力救援救援ノ模力者アラハ致シ取調候所何郡何村何某又ハ子弟孫妻女又ハ雇ナル者ニ付車或ハ自ラ背負等ニテ其人員姓名シ其宿所迄送り届ケ或ハ署へ連行候此段上申候也

何警察署

年月日

何之某

○賞與上申ノ件

明治十七年四月十二日 日本乙第四十二號 (警)

罪犯捕拿賞與ノ義ハ從來裁判宣告後賞與ノ上申致來候處今後ハ各警察署長ニ於テ強盜及ヒ人命放火犯等ト信認シ其筋へ証告候ハ、該宣告ヲ待タズ直ニ賞與申出候義ト心得ヘシ此旨相達候也

但人民賞與ノ義モ本文ニ準スヘシ

○巡查着服心得

明治十八年二月廿一日 日本乙第十二號 (警)

巡查着服心得

- 第一條 職務上必ラス制服制帽帶劍可致事
- 但探偵密行等ノ節ハ本文ノ限ニ非ラス
- 第二條 制服制帽帶劍ノ節ハ手傘等携用不相成事
- 第三條 制服制帽帶劍ノ節ハ私用ヲ辨スルハ一切不相成事



但私事ト雖出署ノ節ハ必ス洋服着用可致事

第四條 制服制帽帶劍ノ節ハ頸卷(切レ地ヲ以テ咽 喉ヲ卷クヲ云フ)並ニ呼吸器ハ決テ使用不相成事

但可成(白シャツ)襟ヲ相用ユヘシ

第五條 制服ヲ着シタル節ハ卸テ外スハ一切不相成事

第六條 外套ハ寒胃ヲ豫防スル爲メ晴雨ヲ論セス十一月十五日ヨリ翌年四月三十日迄着用不苦ト雖

ニ拜賀拜命ハ勿論署内ニ在テ上官ニ對シ開申應接等ノ場合ハ必ス脱スヘキト

第七條 外套ハ夜間或ハ降雨雪霰ノ外ハ必ス襟ヲ折り着用可致事

但村落出張巡回等ニ限リ寒氣ノ節ハ晝間ト雖ニ適宜外套ノ襟ヲ立ツルモ不苦候事

第八條 出張巡回ノ節ハ外套並ニ桐油ヲ必ス携フヘキ事

但携方ハ外套ト桐油ヲ一纏シ細長ク卷キ其兩端ヲ紐ヲ以テ締左肩ヨリ右腋下ニ斜擔可致事

第九條 職務上降雨雪霰等ノ節ハ曾テ渡シ置ク雨衣ノ外ハ決シテ着用不相成事

第十條 當番ハ勿論探偵密行又ハ非番等ニシテ他行ノ節ト雖ニ左ノ物品ハ必ラス携フヘキ事

一手帖 一呼子笛

一取繩 一名刺

○巡查擊劍出署ニ角袖着用ノ件

明治十八年二月廿一日日本乙第十六號

(警)

本年本乙第十二號達巡查着服心得第三條但書ニ據リ私事ト雖ニ出署ノ節ハ必ラス洋服着用スヘキ等ニ有之候得共擊劍ノ爲メ出署ニ限リ角袖着用不苦候條此段相達候也

○巡查帶劍心得

明治十六年八月三十一號

(警)

巡查帶劍心得

第一條 劍ハ護身ノ用具ナルニヨリ明治十五年內務省乙第七十一號達ヲ遵守シ止テ得サル場合ニアラサレハ決シテ抜劍スヘカラス

第二條 公務ヲ帶フル際ハ勿論出署退署ノ時ト雖ニ必ス帶劍スヘシ

但署内ニ於テハ脱劍スルヲ得

第三條 私事他行ノ節ハ帶劍スルヲ許サス

第四條 外套ヲ着用シタルトキハ「サンチヨロ」ヲ外套ノ下ニシ劍ヲ其上ニ出スヘシ(明治十六年三月廿三日 本乙第十六號改正)

但降雨ノ節ハ外套ノ下ニ帶ヒ劍ノ柄頭ヲ顯スモノトス

第五條 劍及ヒ屬具ハ丁寧ニ保存シ金屬ノ部分ハ常ニ研磨シ錆銹ヲ生セサル様注意スヘシ

第六條 劍及屬具ハ毎月三回警部ノ検査ヲ受クヘシ

第七條 検査ノ際劍ニ錆銹ヲ生シ其他屬具等ヲ毀損シタルトハ職務上ノ怠慢ナリトス

○巡查部長提燈徽章

明治二十三年五月一日官第七十二號

(警)



巡查部長提燈徽章ハ制規之通ニシテ府縣警察署等ノ文字ヲ除キタル騎馬提燈ヲ用ユヘシ

○巡查部長外套釦

明治二十四年一月八日官第一號

(警)

巡查部長外套釦ハ真鍮製日章ノ釦ヲ用ユヘシ

○看守部長提燈及外套釦

明治二十五年七月一日官第三十二號

(監)

看守部長提燈及外套釦ノ儀左之通心得ヘシ

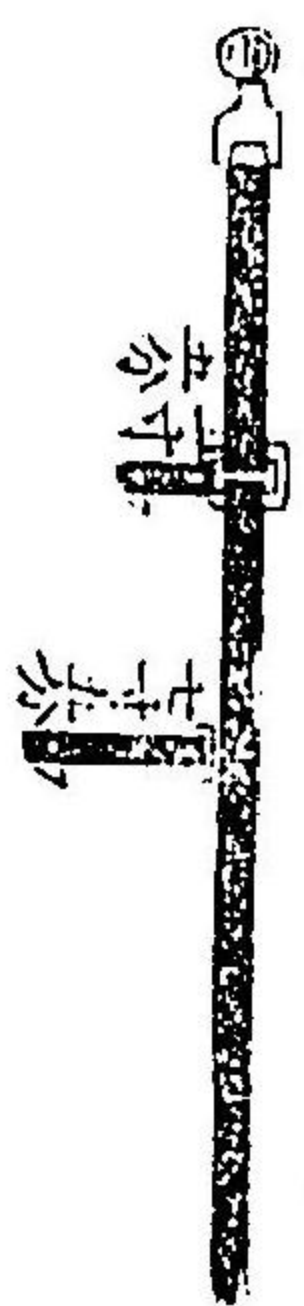
提燈徽章ハ制規ノ通りニシテ縣名署名及看守ノ字ヲ除キタル騎馬提燈ヲ用ユヘシ  
外套ハ真鍮櫻釦ヲ付着スヘシ

○看守帶劔鈎革寸法

明治二十六年十二月廿一日官第八十三號

(監)

看守帶劔鈎革寸法左ノ通相定ム



○新聞紙雜誌發賣届出ノ件

明治十九年二月廿日甲第十六號

新聞紙及雜誌類ノ發賣所及發賣人ヨリ之レカ受賣ヲ爲サントスルモノハ其族籍氏名ヲ詳記シ所管警察署及分署ニ届出ヘシ

但從來營業ノ者モ此際届出候義ト心得ヘシ

○銃砲取締細則

明治二十五年八月十八日縣令甲第五十三號

銃砲取締細則左ノ通相定ム

銃砲取締細則

第一條 免許銃製造又ハ銃砲修理ノ營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳へ願出免許ヲ受クヘシ

第二條 免許銃ヲ新タニ製造シタルトキハ賣買免許商人ヲ經スシテ直賣スルカラス

第三條 銃砲賣買ノ營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ

第四條 營業者改氏名轉居シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

但廢業シタルトキハ亦同シ

第五條 免許商人ハ毎月賣買シタル銃砲ノ種類員數及賣買主ノ住所氏名等ヲ記シ買入免許手形ヲ添へ翌月十日迄ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第六條 免許商商ヨリ軍用銃ヲ買入レントスル者ハ其免許商人ノ住所氏名及銃名ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳へ願出免許手形ヲ受ク買入濟ノ上ハ十日以内ニ其銃名玉目番號等ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳へ届出ヘシ

但免許手形ヲ受三十日ヲ過クルモ買入レサレバ其効ヲ失フモノトシ該手形返納スヘシ



第七條 番號ナキ軍用銃ヲ買入レタル者ハ十日以内ニ銃名玉目等ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ届出檢印ヲ受クヘシ

第八條 免許商人ヨリ免許銃ヲ買入レタルモノハ十日以内ニ其免許商人ノ住所氏名及其銃名玉目ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ(明治廿六年五月二日縣令第八號改正)

第九條 軍用銃ノ讓受渡ヲナサントスル者ハ其銃名玉目番號等ヲ記シ双方連署讓渡人ノ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受ク十日以内ニ現品ヲ受授シ尙ホ双方連署シテ各其所轄警察官署ニ届出ヘシ(明治廿六年五月二日縣令第八號改正)

第十條 免許銃ノ讓受渡ヲナシタルトキハ十日以内ニ其銃名玉目等ヲ記シ双方連署シテ各其所轄警察官署ニ届出ヘシ(全上)

第十一條 銃砲所持ノ者改氏名代替又ハ管内ニ於テ轉居シタルトキハ十日以内ニ其事由及銃名玉目番號等ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ(明治廿六年五月二日縣令第八號改正)

第十二條 銃砲所有者ニシテ銃砲ヲ携帶シテ他府縣ヘ轉住シ又ハ他府縣ヨリ轉住シタルトキハ十日以内ニ其銃名玉目番號等ヲ記シ所轄警察官署ヘ届出ヘシ本縣下ノ者他府縣ニ居住中銃砲ヲ買入若クハ讓受ケ販住シタル時亦同シ(全上)

第十三條 所有銃砲ヲ廢銃ニナサントスル者ハ其銃名玉目番號等ヲ記シ銃砲相添ヘ所轄警察官署ヘ

届出認可ヲ受クヘシ

第十四條 軍用銃ヲ改造セントスル時ハ銃名玉目番號及銃砲製造營業人ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受ケ改造濟ノ上ハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ(明治廿六年五月二日縣令第八號改正)

第十五條 免許銃ヲ改造シ銃名玉目ニ變更ヲ生シタルトキハ十日以内ニ銃名玉目等ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十六條 猥リニ發砲スルトハ勿論軍用銃ハ貸借スルトヲ得ス(全上)

第十七條 免許銃ヲ貸借シタル者ハ双方連署所轄警察官署ヘ届出ヘシ

第十八條 本則各條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以内ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但他ノ法律規則ニ明文アルモノハ其法律規則ニ從ヒ處分ス

○銃砲取締細則取扱手續(明治二十六年五月二日官令第二十五號)

明治廿五年八月官令第四十二號銃砲取締細則取扱手續左ノ通改正ス

銃砲取締細則取扱手續

第一條 各警察官署ニ於テ細則第一條第三條ノ願ヲ受ケタルトキハ性行履歷等ヲ取調意見ヲ付シ警



察部ニ送致スヘシ

- 第二條 細則第四條ノ届ヲ受ケタルトキハ營業臺帳ヲ加除シ其届書ハ警察部ニ送致スベシ
- 第三條 細則第五條ノ届ヲ受ケタルトキハ翌月十五日限り警察部ニ送致スベシ
- 第四條 細則第六條ノ願ヲ受ケタルトキハ品行身元及ヒ使用ノ目的等ヲ取調警察部ニ送致スベシ同條ノ届ヲ受ケタルトキハ銃砲臺帳ニ登記シ其届書ハ警察部ニ送致スヘシ
- 第五條 細則第七條ノ届ヲ受ケタルトキハ本人又ハ代人ヲシテ銃砲携帶警察部ニ出頭檢印ヲ受ケシムベシ檢印濟ノ上ハ警察部ノ報告ニ依リ銃砲臺帳ニ登記スベシ
- 第六條 細則第九條第十四條ノ願ヲ受ケタルトキハ品行身元及ヒ使用ノ目的等ヲ取調許否スヘシ
- 第七條 細則第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條ノ届ヲ受ケタルトキハ銃砲臺帳ニ登記若クハ加除シ其銃籍ノ異動ヲ毎月製表シ翌月十日限り警察部ニ報告スベシ
- 第八條 細則第十三條ニヨリ廢銃ノ認可ヲ與フルトキハ檢印又ハ火門ヲ潰却セシムベシ
- 第九條 細則第十七條ノ届ヲ受ケタルトキハ貸借ノ事由期限等ヲ記シ銃砲臺帳ニ附符シ置クベシ
- 第十條 細則第九條ノ願ヲ許可シ又ハ第十二條ノ届ヲ受ケタルトキハ讓受人ノ所轄警察官署ニ報告スベシ
- 第十一條 細則第四條第十一條中轉居ノ届ヲ受ケタルトキハ前住地所轄警察官署ニ報告スヘシ
- 第十二條 銃砲臺帳ハ軍銃免許銃ヲ區別シ各市町村毎ニ口譯ヲナシ雛形ノ如ク一定調製スベシ

銃砲種別及番號	玉目及挺數	買讓受先及賣讓先處	所有者住所氏名
銃	玉目 夕分	明治年月日 明治年月日	郡町村大字
霰銃	玉目 夕分	明治年月日 明治年月日	郡町村大字

○火藥類營業人心得

明治二十三年十二月八日 縣令甲第五十七號

火藥類營業人心得左之通り相定ム

火藥類營業人心得

- 第一 火藥取締規則第二條第十三條第十五條第廿條ノ願書ハ所轄警察署分署ヲ經テ差出スヘシ
- 第二 火藥類拂下ヲ受ケントスル者ハ必ス營業鑑札ヲ携帶シ陸軍省ハ東京砲兵工廠及大坂砲兵工廠海軍省ハ海軍火藥庫ヘ願出ヘシ
- 第三 火藥取締規則第七條第二條ノ届書ハ左ノ書式ニ從ヒ正副三通ヲ所轄警察署分署ヘ差出スヘシ  
書式 用紙半紙

明治 年 月

火藥類賣買表

市郡町村

免許商 氏

名

月日	種類	數量	賣渡人住所氏名	年月日	種類	數量	免狀又ハ免許ノ類	買受人住所氏名



	高越	リヨ	月前	種	類	數	量	種	類	數	量
合計					品	在現	引	差			
合計											

右之通相違無之此段御届申上候也

年月日

右

氏

名

茨城縣何警察署長分署長宛

第四 日出前日没後ニ於テ火藥類ヲ賣買運搬其他荷造等ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

○火藥類取扱手續

明治二十三年十二月九日官第四十七號

(警)

官第四十七號ヲ以テ火藥取扱手續別冊之通相定メラル

別冊

火藥類取扱手續

第一條 火藥類賣買營業ヲ免許スルハ左ノ區別ニ從フ

東茨城 新治 二郡

各二名

西茨城 筑波 眞壁 那珂 久慈 多賀 北相馬 七郡

各一名

信太 二郡

鹿島 行方 二郡

各一名

河内 二郡

西葛飾 二郡

各一名

結城 岡田 三郡

猿島 二郡

各一名

第二條 所轄警察署分署ハ臨時警察官ヲ派シ火藥賣買營業者若クハ所持主ノ家宅ニ臨ミ火藥及之ニ屬スル簿冊類ヲ検査スヘシ

第三條 規則第六條ニ依リ出願スル者アル時ハ其事實ヲ審査シ止ヲ得サル情況アルニアラザレハ免

許ヲ與フヘカラス

第四條 規則第七條第十二條ノ届書ハ正副二通ヲ徴シ正本ヲ警察署分署ニ止メ副本ヲ警察部ヘ差出

スヘシ

第五條 所轄警察署分署ニ於テ規則第十條第廿二條ニ係ル願書ヲ受ケタル時ハ其種類數量及其旨趣

使用ノ場所等ヲ審査シ不都合ナシト認ムルハ第一號書式ニ倣ヒ許可ヲ與フヘシ



第六條 火藥類ノ運搬ヲ許可シタルトハ警察部及沿道警察署分署へ豫メ通報スヘシ

第七條 規則第二條第十三條第十五條第二十條ノ願書ハ所轄警察署分署ニ於テ之ヲ受ク其場所及事實ヲ檢案シ意見ヲ付シ警察部へ差出スヘシ若シ願書中不都合ノ廉アリト認メタルトハ更正セシムルヲ得

第八條 「ハトロン」ノ類ニシテ鉛丸銅管等ノ裝置アル者ハ其量目ヲ扣除シ火藥ノ量ヲ算出スヘシ

第九條 規則第五章ノ罰則ニ觸ル、者アリタル時ハ其都度事情ヲ詳記シ警部長ニ報告スヘシ

第十條 此手續ニ依リ取扱ヒタル事件ハ第二號書式ニ依リ月表ヲ製シ翌月二十日迄ニ第四條ノ書類ト共ニ警察部へ差出スヘシ

第一號書式 用紙西ノ内四ツ切

何縣何國何郡何町身分職業

一火藥又ハ何々何貫目

何ノ誰

但箱又ハ何々々入

年 齡

右銃砲用又ハ何所ニ於テ使用スル何々用ノ爲メ買入又ハ年月日時何處ヲ發シ何處々々ヲ經テ何所迄運搬許可候事

年 月 日

茨城縣何警察署分署印

第二號書式 用紙常用十行野紙

明治 年 月 火藥類事務取扱表

件名	許否	區別	處分	月日	事	故	住所	氏名
火藥買受	○		○			○		
全運搬	○		○			○		
營業者檢査	○		○			○		
○								

○火藥類賣買許可取扱ノ件 明治廿三年十二月八日 (警) 告示第二百六十二號

火藥類賣買許可ノ儀ハ警察署ニ限リ取扱來候處自今分署ニ於テモ之ヲ取扱ハシム

○烟火取締規則 明治二十四年十二月廿二日縣令甲第六十六號

明治廿四年一月茨城縣令甲第三號烟火取締規則左ノ通改正ス

烟火取締規則

第一條 烟火製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ添付シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳へ差出免許ヲ受クヘシ



- 一 製造場及火藥類置場ノ位置ヲ示シタル縮圖
- 二 人家公道ノ距離
- 三 烟火ノ種類及其置場
- 第二條 烟火販賣ノ營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ其種類及置場ヲ記載シ所轄警察官署ヘ差出免許ヲ受クヘシ
- 第三條 烟火ハ行商スルヲ得ス
- 第四條 轉居改名シタル者ハ二日以内ニ製造者ニ在テハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ販賣者ニ在テハ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 但廢業シタル時亦全シ (明治廿五年七月二日 日甲第四十號改正)
- 第五條 烟火ノ貯藏ハ製造者ニ在テハ其使用セントスル火藥類ト既ニ製造シタルモノト併セテ成規火藥取締規ノ量目ヲ超過スルヲ得ス又販賣者ニ在テハ其烟火ニ配合シタル火藥三百目ヲ超過スルヲ得ス
- 第六條 烟火製造場及火藥類若クハ烟火置場ニ於テ喫烟ヲ爲シ又ハ發火質ノ物品ヲ取扱フヘカラス
- 第七條 烟火ハ日出前日没後製造又ハ販賣スルコトヲ得ス
- 第八條 烟火製造人ハ簿冊ヲ製シ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ左ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

シ若シ誤寫等アルモ其紙數ヲ除却スルヲ得ス

一 火藥類ヲ買入シタルトハ其年月日種類斤量及賣渡人ノ住所氏名

二 製造シタル烟火ノ種類及員數

三 烟火ヲ賣渡シタルトハ其年月日種類員數斤量及買受人ノ住所氏名

四 毎月末火藥類及烟火ノ現在高

第九條 烟火販賣人ハ簿冊ヲ製シ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ左ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

シ若シ誤寫等アルモ其紙數ヲ除却スルヲ得ス

一 烟火ヲ買入シタルトキハ其年月日種類員數斤量及賣渡人ノ住所氏名

二 烟火ヲ賣渡シタルトキハ其年月日種類員數斤量及買受人ノ住所氏名

三 毎月末烟火ノ現在高

第十條 本則第八條第九條ノ簿冊ハ其使用終リタル日ヨリ滿一年間保存スヘシ

但廢業シタルトキハ此限リニアラス

第十一條 烟火興行ヲ爲サントスルモノハ願書ニ其日時場所人家公道ノ距離烟火ノ種類員數ヲ詳記シ所轄警察官署ヘ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十二條 警察官吏ハ烟火製造烟火販賣ニ供スル帳簿又ハ烟火製造場及火藥類若クハ烟火置場ヲ臨



檢スルコトアルヘシ

第十三條 烟火興行許可シタルモノト雖モ烈風等ニテ危險ト認ムルトキハ一時停止ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 本則第一條第二條ノ免許ヲ受クスシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者ハ刑法第四百廿五條第三項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 本則第五條ニ背キ烟火ヲ貯藏シタル者ハ刑法第四百廿五條第二項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十六條 本則第三條第四條ノ本項第六條第七條第八條第九條第十條ノ本項第十一條ヲ犯シ又ハ第十二條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十三條ノ停止ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○街路取締規則

明治二十四年十二月廿四日甲第七十號

明治二十年十二月茨城縣令甲第九十號街路取締規則左ノ通改正ス

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及ヒ道敷ニ沿フタル下水並ニ橋梁トス

第二條 本則ハ市街ノ道路ニ施行ス

但其區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 街路ノ安寧及保存

第三條 街路ニ建物軒擔旗柱招牌物干等ヲ設ク或ハ出スヘカラス

第四條 左ノ事項ハ街路ニ出スコトヲ得尤モ往來ノ妨害ト認ムルトキハ取除カシムルコトアルヘシ

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル壹丈以上ニ限リ二尺以内

二 軒擔ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内

三日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内

四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内

第五條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シテ縣廳ニ願出允許ヲ受クヘシ

一 街路ニ柵欄支柱ヲ設ク又ハ齒止石ヲ置クコト

二 街路ニ華表碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スルコト

三 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ井戸下水ヲ設ルコト

四 街路ニ於テ定期アル市場ヲ設クルコト

第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出允許ヲ受クヘシ



- 一 第四條ノ場合ニ於テ止ヲ得ス制限外ニ及フモノ
- 二 街路ニ床店葺張ヲ設クルコト
- 三 工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍細張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スルコト
- 四 一時街路ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歳市等ノ節)及店飾ヲ設クルコト
- 五 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スルコト
- 六 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出スコト
- 七 街路ニ街燈便所消防具置場火ノ見櫛子ヲ設ケ其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置クコト
- 八 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スルコト
- 九 神佛祭典開業式興行等ノ節街路ニ飾物ヲ出シ又ハ建札招旗ヲ建ツルコト
- 十 街路ニ於テ一時荷造木挽等ノ作業ヲナスコト
- 第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタルモノハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設ケ其堅樋ハ家屋ニ附着スヘシ  
但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限リニアラス
- 第九條 一街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境界ニ塙塀ヲ設クヘシ

- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木類ヲ立置クトキハ鉄鎖其他強靱ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ頓仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十一條 街路ニ沿フタル建物及樹木等崩壞頓仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十二條 街路ニ沿フタル樹木竹篠等路上ノ妨害ヲナスモノハ木障打スヘシ
- 第十三條 街路ニ竹木土石類ヲ置ク時ハ標識ヲ設クヘシ
- 第十四條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲クヘシ
- 第十五條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲナスヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
- 第十六條 道路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
- 第十七條 制札指道標便所及塙壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス
- 第十八條 街路ニ於テ濫リニ火器ヲ并シ又ハ焚火スヘカラス
- 第十九條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲナスヘカラス
- 第二十條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス



第二十一條 街路ニ於テ濫リニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發スヘカラス

第二十二條 街路ニ於テハ所轄警察官署ヨリ指定シタル區域ノ外露店屋臺店ヲ出スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十三條 街路ハ常ニ掃除ヲナシ塵芥雜草ヲ存スヘカラス且夏日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ

第二十四條 街路ノ掃除ハ兩側居住人ニ於テ分擔其片側ナルモノハ一方ノ居住人ニ於テ負擔スヘシ

但シ居住人ナキトキハ借地人借地人ナキトキハ地主借地人ナキ官有地ハ市町村ニ於テ負擔スヘシ

第二十五條 溝渠下水等ノ淤泥ヲ街路ニ布キ其他塵芥ヲ路傍ニ置キ又ハ穢物ヲ洗滌シタル汚水ヲ路上ニ注洒スヘカラス

上ニ注洒スヘカラス

第二十六條 下水ハ毎年二回(四月、十月)浚渫スヘシ

但定期ニ拘ラス臨時浚渫セシムルコトアルヘシ

第二十七條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムルヘカラス

第二十八條 街路ニ於テ敷物疊敷類其他ノ塵芥ヲ掃フヘカラス

第二十九條 街路ヲ運搬スルハ品物墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十條 蓋ナキ容器ヲ以テ糞尿ヲ運搬スヘカラス

第三十一條 街路ニ臨ミタル屋根干物窓手摺等ニハ危險又ハ見苦シキ物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十二條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十三條 車ハ小兒車ヲ除クノ外跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第三十四條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第三十五條 口附ナキ駄馬ニ乘リ通行スヘカラス

第三十六條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第三十七條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス

但賣買ノ爲メ輸送スル牛馬又ハ牝馬ハ此限りニアラス

第三十八條 車馬及歩行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第三十九條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十條 前車徐行シ後車疾行セントスルトハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右

ヲ通過スヘシ

第四十一條 郵便用消防用ニ供スル車馬及ヒ濯水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第四十二條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及ヒ街角橋上ヲ通行スル馬車ハ徐行スヘシ



第四十三條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲナシ左ハ小廻リヲナスヘシ  
 第四十四條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横フヘカラス  
 第四十五條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ヘカラス  
 第四十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス  
 第四十七條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス  
 第四十八條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス  
 第四十九條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噉シ又ハ驚逸セシムヘカラス  
 第五十條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲スヘカラス  
 第五十一條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ク又ハ囃樂羽子手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス  
 第五十二條 街路又ハ店前ニ於テ裸体袒裼ヲナスヘカラス

第五章 罰例

第五十三條 本則第三條第五條第六條第十三條第十四條第十六條第十七條第十八條第十九條第廿  
 五條第廿七條第廿八條第三十條第三十二條第三十五條第三十六條第四十五條第四十七條第四十  
 九條第五十條第五十一條ヲ犯シタル者第四條ノ取除キノ命ニ從ハサル者第七條第八條第九條第  
 十條第十一條第十二條第十五條第廿三條第廿六條第三十四條ニ違ヒ督促ニ從ハサル者第廿條第

廿一條第廿二條第廿九條第三十一條第三十三條第三十七條第四十四條第四十六條第四十八條第  
 五十一條ニ違ヒ制止ヲ肯セサルモノ第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四  
 十三條ニ違ヒ妨害ヲナシタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以  
 下ノ科料ニ處ス  
 第五十四條 前條ニ記載シタル條項中刑法ニ正條アルモノハ刑法ノ處分ニ從フ

附則

一 工事ノ爲メ一時竹木土石類ノ置場板圍繩張取設ケ其他街路ノ使用及ヒ荷造木挽等ノ許可ヲ得  
 ル者ハ左ノ標識ヲ掲出スヘシ

何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何十日間

警察署 願 濟

住所 姓名

豎一尺以上 横三寸以上 板適宜

一定期アル市場ノ許可ヲ受ケタルトキハ其地ニ左ノ標識ヲ建設スヘシ

何々市場

四寸角ニテ長六尺木質適宜







久慈郡	多賀郡	西茨城郡
太田町 大子町大字大子 小里村大字大中 久慈町 櫻田村大字馬場 河内村大字町屋	平瀧町 關南村大字仁井田 大津町 松原町大字高萩 全町大字安良川 豊浦町大字川尻 高鈴村大字助川	笠間町 寒戸町大字平町 全町大字橋爪 全町大字太田町 東那珂村大字加茂部 全村大字西小墾 西那珂村大字岩瀬
一圓 一圓 一圓 字本町全南町全泉町全行戸全荒宿 縣道筋人家稠密ノ場所 全上	一圓 國道筋人家稠密ノ場所 全上 全上 全上 全上 全上	一圓 一圓 一圓 停車場通 縣道筋人家稠密ノ場所 全上 全上

眞壁郡	結城郡	西葛飾郡	猿島郡	豐田郡 水海道 宗道村大字本宗道 石下村大字新石下 全村大字本石下
下館町 下妻町大字下妻 眞壁町大字眞壁 全町大字飯塚 伊譚村大字菅ヶ谷 竹島村大字市ノ邊 全村大字稻ノ邊	結城町大字結城 古河町大字古河 全町大字原 新郷村大字中田	境町 岩井村大字岩井 幸島村大字諸川	水海道 宗道村大字本宗道 石下村大字新石下 全村大字本石下	
一圓 一圓 一圓 一圓 縣道筋人家稠密ノ場所 全上 全上	一圓 一圓 一圓 一圓	一圓 一圓 一圓 縣道筋人家稠密ノ場所 一圓	一圓 一圓 縣道筋人家稠密ノ場所 全上	



筑波郡	谷田部町大字谷田部 北條町大字北條	一圓 一圓
新治郡	土浦町 石岡町大字石岡 高濱町大字高濱 柿岡町大字柿岡 眞鍋町	一圓 一圓 一圓 一圓 國道筋人家稠密ノ場所
信太郡	江戸崎町大字江戸崎 中家村大字下高津	一圓 國道筋人家稠密ノ場所
河内郡	龍ヶ崎町 駒柴村大字駒馬 大宮村大字大徳 牛久村大字牛久 取手町大字取手 布川町	一圓 字戸張 字戸張 國道筋人家稠密ノ場所 一圓 一圓
北相馬郡	山王村大字山王 相馬町大字宮和田 全町大字片町 全町大字藤代宿	一圓 一圓 一圓 全上

鹿島郡	銚田町大字銚田 鹿島町大字宮中	一圓 一圓
行方郡	湊來町大字湊來 麻生町大字麻生 王造町 香澄村大字牛堀 津知村大字辻 手賀村 麻生町大字粗毛 全町大字富田	一圓 一圓 一圓 縣道人家稠密ノ場所 全上 全上 全上 全上

○渡船場取締規則

明治廿一年三月廿九日  
日縣令甲第二十七號

渡船場取締規則

第一條 渡船場ヲ開設シ營業セントスルトキハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
但シ擬止シタルトハ其旨届出ツヘシ  
(明治廿四年四月七日  
甲第四十三号改正)

第二條 前條出願ノトハ左ノ各項ヲ記載セル書面並其場所ノ略圖及兩岸町村ノ承諾書ヲ添フヘシ  
一 川名並川幅及深淺(平水増減水共)  
一 水源及流末

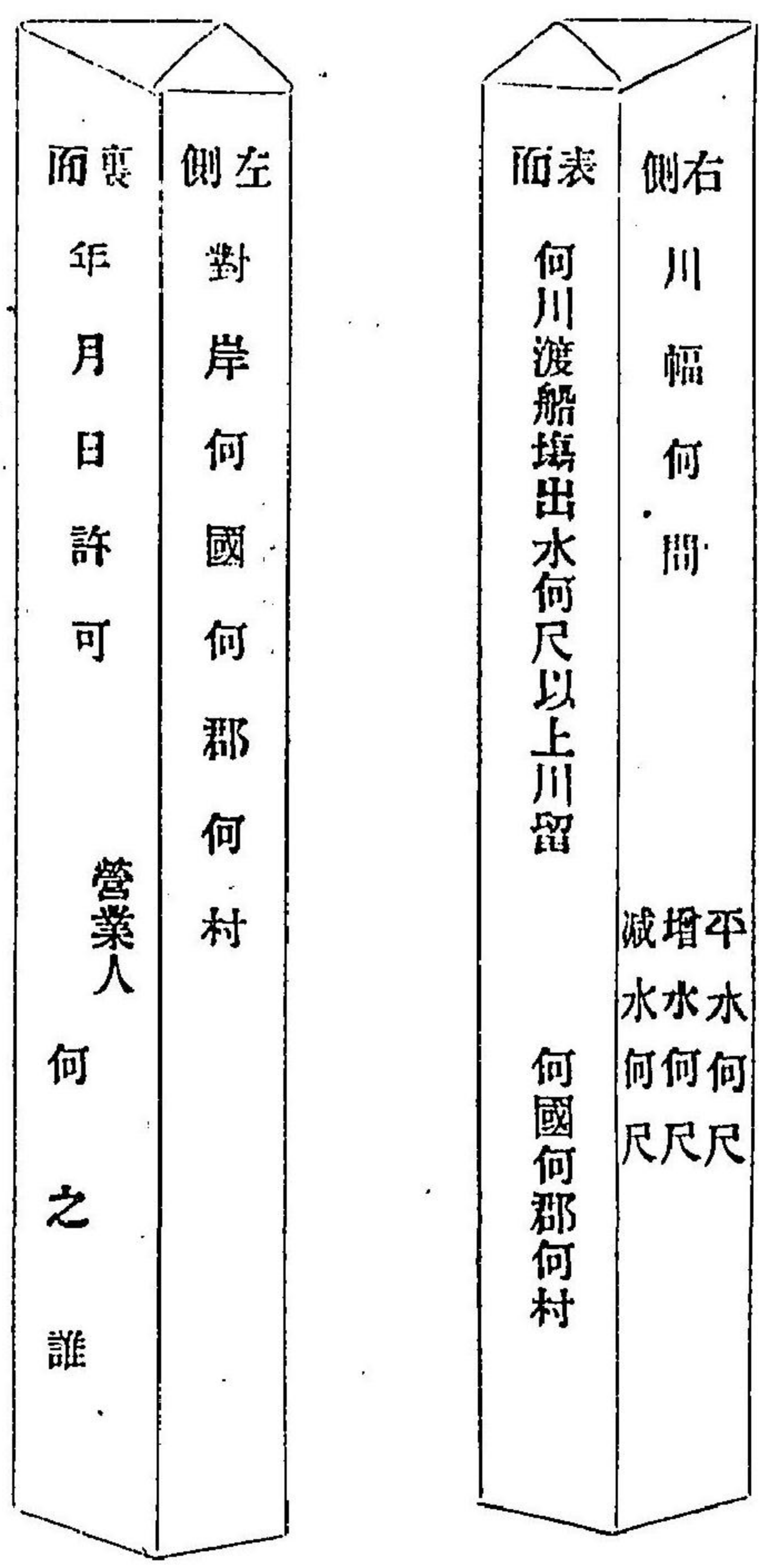


- 一 對岸地名
  - 一 街道ノ名稱
  - 一 共同等ノ區別
  - 一 船ノ種類及其員數
  - 一 舟夫ノ人員 平素 何人
  - 一 川留ノ制限 出水ノ時 何人
  - 一 賃錢定額
  - 一 賃錢一ケ年ノ受收見積高
- 第三條 一村又ハ數人共同シテ開設營業スルモノハ共同者ノ内ヨリ一人乃至二人指定シ其業務ヲ擔當セシムヘシ
- 第四條 渡船場ニハ左ノ標杭<sup>第一</sup>第一<sup>第二</sup>ヲ建設川留ノ制限ヲ明示シ又賃錢表<sup>第二</sup>表<sup>第三</sup>ヲ行人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 一 渡船場目標
  - 一 水量標
  - 一 賃錢標札

- 第五條 渡口ニハ乗客ノ出入ニ便利ナル構造ヲ爲スヘシ
- 第六條 兩岸ニ開設ノ渡船場ニ於テハ日々必ス双方ヨリ出船ヲ爲スヘシ
- 第七條 身体ノ羸弱ナル舟夫及船体ノ堅牢ナラサル渡船ハ使用スヘカラス
- 第八條 行人ノ渡船ヲ請フルハ速ニ渡過セシムル勿論ト雖モ特ニ多衆ナルルハ其船体ニ應シ人員ヲ限リ乘載セシムヘシ
- 但暴風雨出水等ノ節ハ勿論平素ト雖モ危殆ヲ招カサル様專ラ注意スヘシ
- 第九條 左ノ各項ニ限り賃錢ヲ請求スルコトヲ得ス
- 一 軍隊々伍ヲ組行進ノ時
  - 一 憲兵制服着用巡行ノ時
  - 一 警部巡查制服着用巡行又ハ派出ノ時
  - 一 囚人護送ノ看守長看守(押丁)
  - 一 電信配達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達ノ時
  - 一 郵便集配人並ニ郵便及飛信遞送脚夫タルヲ証スル服ヲ着シ又ハ鑑札ヲ所持シ集配遞送ノ時
- 第十條 許可外ノ賃錢ハ一切請求スヘカラス
- 第十一條 (明治廿四年四月七日)  
(甲第四十三號刪除)

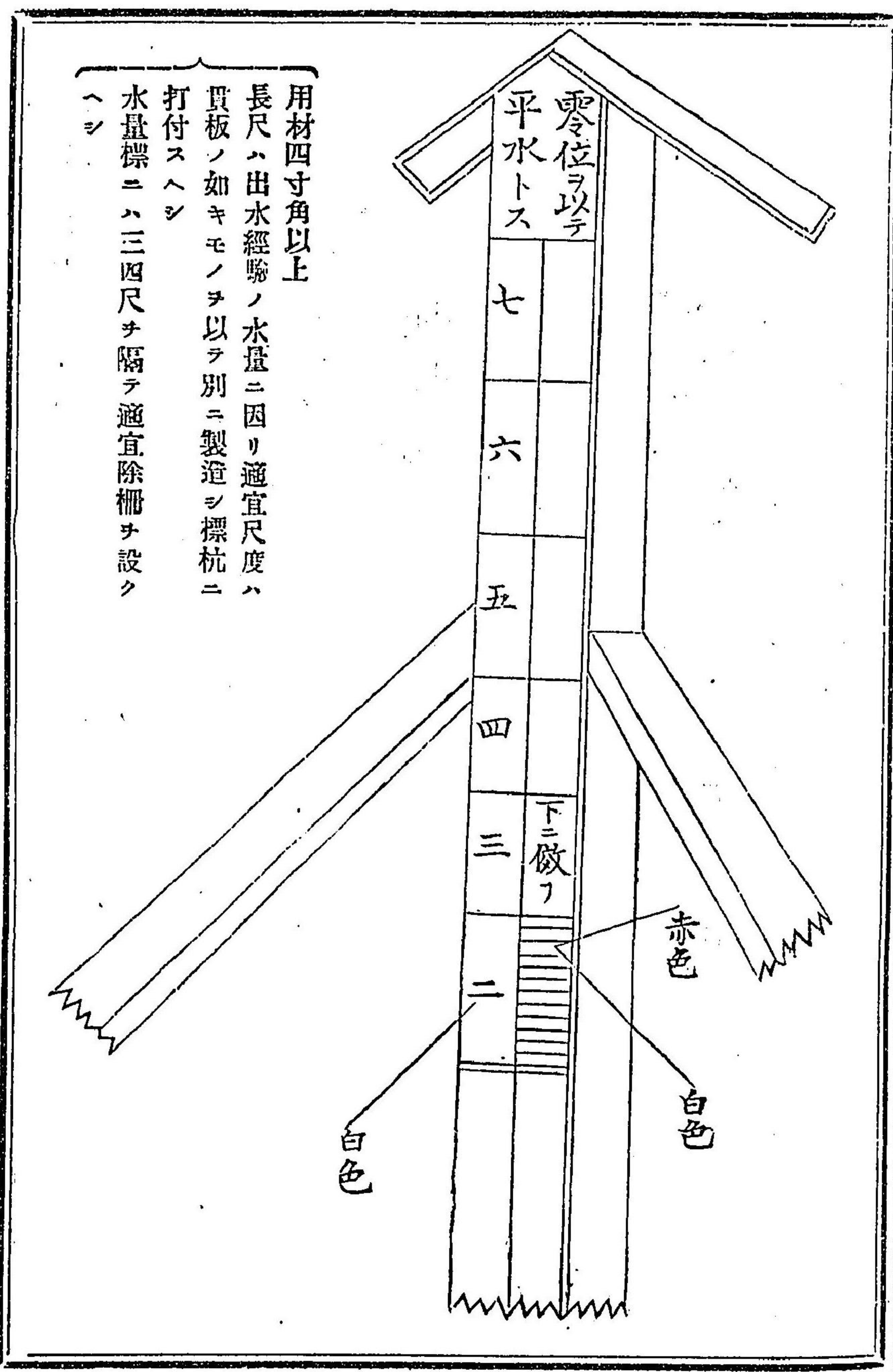


第一圖 用材六寸角地上六尺



共同ナレハ(共同營業擔當人何誰)

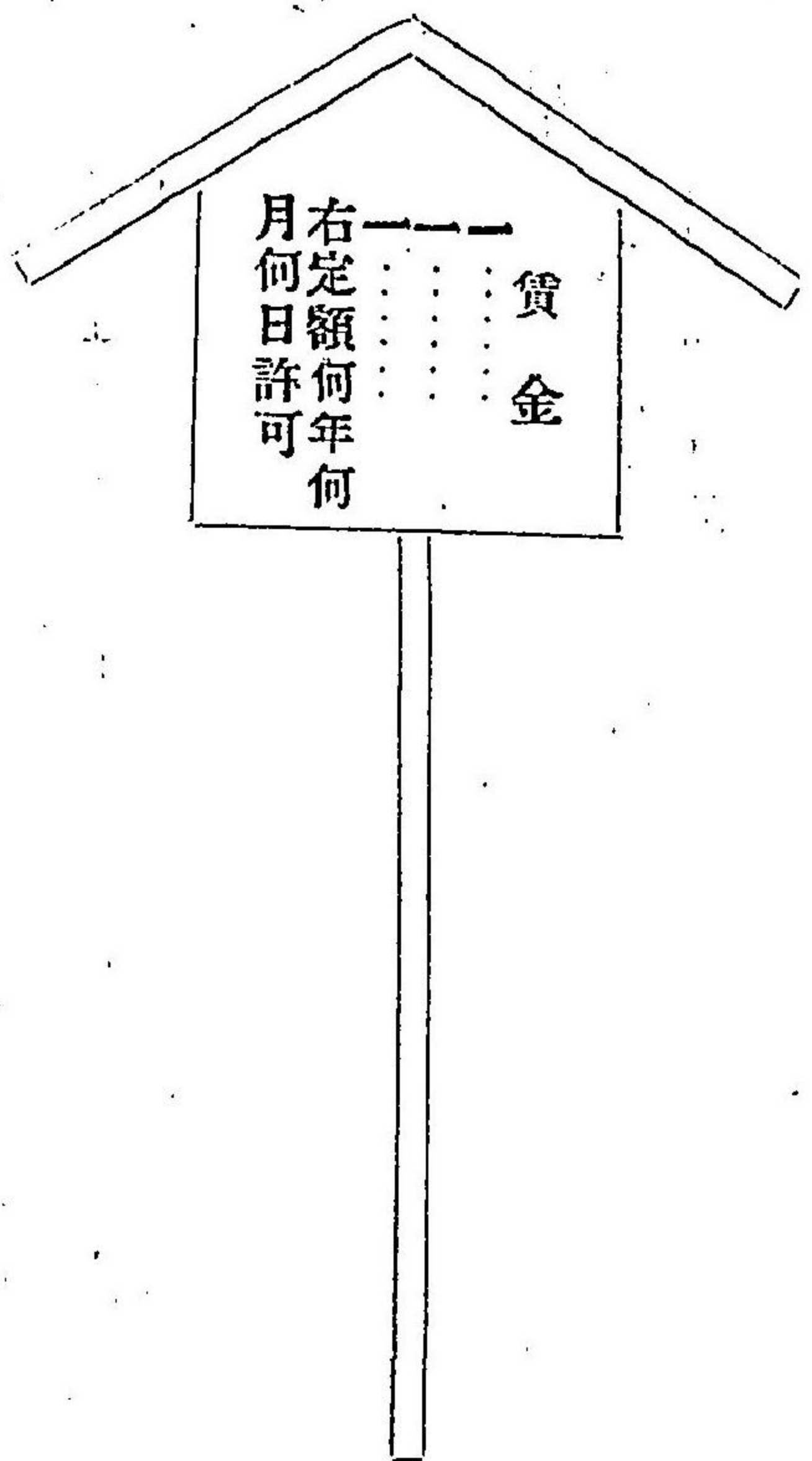
ト記載スヘシ



用材四寸角以上  
 長尺ハ出水經驗ノ水量ニ因リ適宜尺度ハ  
 貫板ノ如キモノヲ以テ別ニ製造シ標杭ニ  
 打付スヘシ  
 水量標ニハ三四尺ヲ隔テ適宜除柵ヲ設ク  
 ヘシ



第三圖 (用材寸法第適宜)



○渡津橋梁等軍隊ニ對シ賃錢請求スヘカラサル件  
 明治十三年四月廿二日丙第十五号

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津自今軍隊隊伍ヲ紐ミ行進ノ節ハ其賃錢請求不相成候條其旨兼テ許可有之架橋渡船願人共ヘ無洩可觸示此旨相達候事

○渡津橋梁等郵便脚夫ニ對シ賃錢請求スヘカラサル件  
 明治十五年三月三十日丙第二十三号

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シノ時ニ限り賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及ヒ開路願人共ヘ無漏可告示此旨相達候事

○渡津橋梁等電信配達人ニ對シ賃錢請求スヘカラサル件  
 明治十六年九月十五日丙第八十号

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ道路等電信配達人配達特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シ配達スル件不相成候條其旨免許人共ヘ無漏可相達此旨相達候事

○渡津橋梁等鑑札所持ノモノ賃錢請求スヘカラサル件  
 明治十六年七月十四日丙第六十号

人民私費ヲ以テ架設之橋梁渡津及ヒ私費開鑿之道路等郵便脚夫之飛信遞送並ニ郵便物集配特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シノ時ニ限り賃錢請求不相成候條其旨免許人等ヘ無洩可相達此旨相達候事



水製

第号
何國
何地郵便局脚夫
何ノ誰

二寸五分

明治六年
年月日
何國 郵便局

此印ハ會ヲ驛  
遞局ヨリ各郵  
便局ヘ渡シテ  
ル局印

二百五十六

立船營業取締規則

明治廿四年三月十一日  
日縣令甲第十八号

明治十二年十月丙第五十一号布達立船營業取締規則左之通改正ス

立船營業取締規則

- 第一條 立船營業ヲ爲サントスル者ハ舟艇ノ間敷并ニ乗合人員ヲ定メ所轄警察官署ヘ届出ヘシ  
(廿四年十二月廿六日  
甲第七十七号改正)
- 第二條 船敷住所氏名ニ異動アリタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ  
(但廢業シタルモ亦全シ)  
(明治廿四年十二月廿六日甲第七十七号及  
明治廿五年七月二日甲第四十四号改正)
- 第三條 船賃ノ金額ハ乗船場又ハ營業者門前見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 第四條 正當ノ理由ナクシテ出船ヲ拒ムヘカラス

明治

第五條 定員外ニ客ヲ乗載スヘカラス

第六條 賃錢外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第七條 風雨及満水等ノ節ハ危険ナキ様注意スヘシ

第八條 本則第二條ノ届ハ口述ヲ以テ爲スコトヲ得

第九條 本則第一條ノ届出ヲ爲サスシテ營業シタル者第二條本項届出ヲ爲サルモノ第三條ニ背

キ督促ニ應セサルモノ第四條第五條第六條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ

二十錢以上一圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス  
(明治廿四年十二月廿六日  
日甲第七十七号改正)

質屋取締細則

明治二十五年十一月二日  
日縣令甲第六十号

質屋取締細則左ノ通改正ス

質屋取締細則

- 第一條 質屋營業ヲナサントスル者ハ住所身分氏名年齢等ヲ記シ所轄警察官署ヘ届出テ免許ヲ受クヘシ
- 第二條 轉居改氏名又ハ廢業シタルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 第三條 他ノ警察官署所轄内ヘ轉居シタルモハ七日以内ニ前住地所轄警察官署ヘ届出テ更ニ現住地所轄警察官署ヘ届出テ免許ヲ受クヘシ

二百五十七



第四條 質屋ハ取締條例第二條ニ從ヒ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ質品ノ出入アルニ左ノ文例ニ依リ記載シ現品ヘ彙帳ノ符号ヲ付シ置クヘシ

第一普通ノ文例

年月日

第何号

住所

一何品

質入主 何

某

但品質模様等詳記

一何品

但全上

合幾点

此貸金幾千

第二取締條例第四條但書及ヒ第五條第一項ニ依リ證人ヲ要シタル時ノ文例

年月日

第何号

住所

一何品

質入主 何

某印

但品質模様等詳記

住所

一何品

證人 何

某印

但全上

合幾点

此貸金幾千

右ハ身元不詳又ハ十五歳未満モノ白痴瘋癲者雇人ニシテ父母後見人雇主誰其他證人誰ヲ要シ受取

ル

第三取締條例第五條第二項ニ依リ證人ヲ要シタル時ノ文例

年月日

第何号

住所

一何品

質入主 何

某印

但品質模様印章記号等詳記

住所

一何品

證人 何

某印



但全上

證人 何

某印

合幾点

此貸金幾千

右ハ何官廳何町村何學校何病院何社寺何會社ノ記號印章アルモ證人ノ證明ニ依テ受取ル

第四受戻入換又ハ流質ノ時原簿ニ記入文例

明治何年何月何日受戻又ハ入換若クハ流質

第五條 取締條例第六條ニ依リ盜罪詐欺取財又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シ所轄警察官署へ届出テタルトキハ質物臺帳中其物主ノ肩書ニ罪名ヲ記載スヘシ

第六條 質屋ハ流質物賣拂帳ヲ製シ置キ取締條例第八條第九條ニヨリ目錄ヲ所轄警察官署へ届出テ流質物ヲ賣拂タルトハ右ノ文例ニ依リ記載スヘシ

年月日

住所

一何品

質入主

何

某

但品質模様記號印章等詳記

一何品

但全上

代金幾千

右ハ明治何年何月何日届濟ノ上縣郡町村何某へ賣渡ス

第七條 質屋ハ品觸寫帳ヲ製シ置キ品觸ノ回達アル毎ニ品目年月日時ヲ登記シ其回達書ニハ日時ヲ記載シ速ニ順達ノ手順ヲナシ回尾ヨリ所轄警察官署へ返納スヘシ

第八條 質屋組合ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署へ届出ヘシ  
但規約ヲ設ケ又ハ變更シタルトキ亦同シ

第九條 取締條例第二條第六條第七條第八條第十一條第十二條及ヒ細則第二條ノ願届ハ口述ヲ以テ之ヲナスコトヲ得

第十條 第九條ヲ除クノ外本則ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニヨリ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス  
但質屋取締條例ニ明文アルモノハ其條例ニ從ヒ處分ス

○古物商取締細則

明治二十五年十一月二

日縣令甲第六十一號

古物商取締細則左之通り改正ス

古物商取締細則



第一條 古物商營業ヲ爲サントスルモノハ住所身分氏名年齢營業ノ種類等ヲ記シ所轄警察署へ願出テ取締鑑札ヲ受クヘシ

第二條 營業人支店ヲ設ケントスル時ハ住所身分氏名年齢營業ノ種類等ヲ記シ開設地所轄警察署へ願出テ願出テ免許ヲ受クヘシ

第三條 營業ノ種知ヲ増減セントスルトキハ所轄警察署へ届出取締鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第四條 營業人行商ヲ爲ストキハ取締鑑札ヲ携帯スヘシ

第五條 營業人家族雇人ヲシテ行商セシメントスル時ハ其住所身分氏名年齢營業ノ種類ヲ記シ所轄警察署へ届出テ取締鑑札ヲ受ク携帯セシムヘシ

第六條 改氏名轉居水火盜難其他ノ事故ニ依リ取締鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ要スルトキハ七日以内ニ所轄警察署へ届出テ更ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ受クヘシ

但他ノ警察署所轄内へ轉居シタルトキハ前住所々轄警察署へ届出取締鑑札ヲ返納シ更ニ現住所々轄警察署へ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

第七條 廢業又ハ禁止ノ命ヲ受ケタルトハ三日以内ニ所轄警察署へ取締鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 古物商ハ住所氏名及ヒ營業ノ種類ヲ記シタル看板ヲ店頭又ハ門口ニ掲クヘシ

第九條 古物商ハ取締條例第三條ニ從ヒ賣買交換ノ區分ヲナシタル帳簿ヲ製シ其紙數ヲ記シ所轄警察署

警察官ノ檢印ヲ受ケ賣買交換シタルトハ左ノ各項ノ文例ニ依リ記載スヘシ

第一普通賣買交換ノ文例

月 日

一何品 價幾千

但品質模様等詳記

一何品 價幾千

但品質模様等詳記

右ハ何所ニ於テ何郡町村何某ヨリ買取又ハ何某ニ賣渡何品ト交換ス 買主讓受主ノ身元ヲ知ラサル時ハ其住所氏名ヲ記載セサルナモ妨ナシ

第二取締條例第四條但書及ヒ第六章ニ依リ物品買取交換寄藏ノ文例

年 月 日

一何品 價幾千

但品質模様等詳記

一何品 價幾千

但品質模様等詳記



右ハ警部又ハ巡查誰ノ認可ヲ受ケ或ハ證人何郡町村何某ヲ以テ何郡町村何某ヨリ何所ニ於テ買取交換寄藏ス

第三取締條例第五條ニ依リ物品買取交換ノ文例

年月日

一何品 價幾干

但品質模樣等詳記

一何品 價幾干

但品質模樣等詳記

右ハ賣主何某ノ父母後見人雇主誰又ハ何郡町村何某々ニ於テ證人若クハ何官廳何町村何學校何病院何社寺何會社ノ記號印章アルモ何郡町村誰々ニ於テ其賣却シ得ヘキコトヲ證明シタルヲ以テ何所ニ於テ何郡町村誰ヨリ買取交換又ハ寄藏ス

第十條 取締條例第四條第六條ニ依リ警察官吏ノ認可ヲ受ケ若クハ證人ノ證明ニ依リ物品買取交換寄藏シタル時其認可證又ハ證明書ハ賣買交換帳ト共ニ保存スヘシ

第十一條 刀劔又ハ刀劔ヲ仕込タル器具ヲ賣渡サントスル時ハ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタルヲナキテ確メタル上之ヲ賣渡シ帳簿ニ買主ノ住所氏名年齢等ヲ文例ニ依リ記載スヘシ

第十二條 取締條例第九條ニ依リ物品ヲ他府縣へ運送セントスルハ品質模樣等ヲ詳記シタル目錄

二通ヲ作り發送一日前ニ所轄警察署へ届出其一通ニ檢印ヲ受ケ物品ト共ニ送付スヘシ又他府縣ヨリ運送シ來リタルトキハ其府縣警察官署ノ檢印アル目錄ヲ添へ二日以内ニ所轄警察官署へ届出ヘシ

第十三條 取締條例第十條ニ依リ品觸寫帳ヲ製シ置キ品觸ノ回達アル毎ニ品目年月日時ヲ登記シ其

回達書ニハ日時ヲ記載シ速ニ順達ノ手續ヲナシ回尾ヨリ所轄警察官署へ返納スヘシ

第十四條 取締條例違反ニ依リ特別取締ニ付セラレタルモノハ其期限間左ノ文例ニヨリ賣買交換帳

ニ記載スヘシ

年月日時

一何品 幾個

徽章番號編柄模樣損所等詳記

此代價幾干

右ハ何所ニ於テ何郡町村番地何某年齢何年ノ者ヨリ之ヲ買取又ハ何品ト交換ス

年月日時

一何品 幾個



徽章番號柄模様等詳記

此代價幾千

右ハ何所ニ於テ何郡町村番地何某ニ賣渡シ又ハ交換ス 買主讓受主ノ身元ヲ知ラサル時ハ其住所氏名ヲ記載セサルモ妨クナシ

第十五條 古物商組合ヲ設ケタルルハ所轄警察官署ノ届出ヘシ但規約ヲ設ケ又ハ變更シタルトキ亦全シ

第十六條 取締條例第四條第六條第九條第十一條第十二條第十六條第五項第六項及ヒ細則第七條

第九條第十二條ノ願届ハ口述ヲ以テ之ヲナスコトヲ得

第十七條 第八條第十六條ヲ除クノ外本則ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一

日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス但古物商取締條例

ニ明文アルモノハ其條例ニ從ヒ處分ス

○質屋古物商取扱手續

明治二十五年十一月 二日官第五十四號 (警)

質屋古物商取扱手續別冊ノ通改正ス

質屋古物商取扱手續

第一條 警察官署ニ於テ質屋古物商取締細則第一條ノ願ヲ受ケタル時ハ身元品行及ヒ前科ノ有無又ハ文字知得ノ如何等ヲ取調許可スヘシ若シ許可スヘカラスト見認ルモノハ事狀ヲ具シ警部長ノ指

揮ヲ受クヘシ

但許可シタルトキハ住所身分氏名年齢及ヒ鑑札ノ番號等ヲ營業臺帳ニ登記スヘシ

第二條 古物商取締細則第二條ノ願ヲ受ケタルトキハ必要ノ事項ヲ取調許可スヘシ

但許可シタルルハ住所身分氏名年齢鑑札ノ番號及ヒ開設地名番地等ヲ營業臺帳ニ登記スヘシ

第三條 古物商取締細則第三條ノ届ヲ受ケ鑑札ノ書換ヲナシタルルハ營業臺帳ヲ加除スヘシ

第四條 白痴瘋癲及ヒ未丁年者ニシテ後見人ノ定メナキモノハ免許ヲ與ヅル限リニアラス

第五條 盜罪詐欺取財及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケ改悛ノ情ナキモノハ古物商

營業ヲ許可スル限リニアラス

第六條 古物商取締細則第一條第五條ノ鑑札ハ左ノ雛形ニ依リ下付スベシ

古物商取締鑑札	
縣國郡市町村番地身分	
(何某雇人又ハ家族)	
番號	何 某
生年月	何々何々
營業	何々何々

裏	
茨城縣	
何 警察官署	
明治何年何月何日授與	



第七條 質屋取締細則第三條及ヒ古物商取締細則第六條但書ニ依リ届テ受ケタルトキハ身分品行其他必要ノ事項ヲ前住地所轄警察官署ヨリ現住地所轄警察官署へ通知スヘシ

第八條 取締條例ニヨリ營業禁止又ハ指令ヲ取消シ若シハ特別取締ニ付サントスル時ハ事狀ヲ具シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

但古物商ニシテ營業指令ノ取消ヲ執行シタルトキハ取締鑑札ヲ返納セシムヘシ

第九條 古物商取締細則第七條ニ依リ取締鑑札ノ返納ヲ受ケタル時停止ニ係ルモノハ其鑑札ヲ解停ノ日ニ下付スヘシ

第十條 質屋取締細則第四條ニ依リ質物蠶帳檢印ノ願アルトキハ表紙ノ裏面ニ署名及ヒ下付ノ年月日ヲ記シ署印ヲ捺捺スヘシ

第十一條 古物商取締細則第九條ノ帳簿ハ古物買取交換帳古物賣渡交換帳ノ二冊ヲ調製セシメ其檢印ヲ與フル手續ハ第十條ノ如シ

第十二條 古物商取締細則第四條第六條ニ依リ買取交換寄藏等ノ届出アル時ハ贓物ノ如何其他必要ノ点ヲ取調不審ナキモノト認ムルトキハ左ノ証票ヲ下付スヘシ

認許証

住所

一何品

但品質模樣等

賣主 何 某

住所

買主 何 某

一何品

但全上

右ハ買取交換寄藏ヲ認許ス

年月日

官氏

名印

第十四條 特別取締ニ付セラレタルモノ古物商取締細則第十六條第五項ニ依リ賣買交換ノ帳簿ヲ差出シタルトキハ之ヲ檢査シ物品記載ノ末尾へ年月日ヲ記シ官署ノ印ヲ捺捺スヘシ

第十四條 品觸ヲナサントスルトキハ回達書ヲ作り其物品ノ種類ニ依リ取扱フ營業人ニ回達スヘシ第十五條 毎月四回以上受持巡査ヲシテ質屋古物商ノ店舗ニ臨檢セシムヘシ

但臨檢シタルトキハ帳簿へ年月日ヲ記シ檢印セシムヘシ

○乗合馬車取締規則

明治二十四年十二月二十四日縣令甲第六十九號

明治二十一年一月茨城縣令甲第七號乘合馬車取締規則左ノ通改正ス

乘合馬車取締規則



第一章 通則

- 第一條 乗合馬車營業ヲナサントスルモノハ所轄警察署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ
- 第二條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢等ヲ詳記シ本人ヲ同行シ所轄警察官署ニ届出テ一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ
- 第三條 營業者自ラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ総テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ
- 第四條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年七月所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサル者ハ無効タルヘシ
- 第五條 車体及馬匹ハ毎年一月七月ノ兩度所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其証ヲ受クヘシ其買受ケ讓受ク又ハ車体ヲ新造改造シタルトキハ定期ニ拘ラス直ニ検査ヲ受クヘシ
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
  - 一 轉居改氏名其他車馬検査証鑑札而ニ異動ヲ生シタルトキ
  - 一 車馬検査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタルトキ
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出テ車馬検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
  - 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタルトキ

- 二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ
  - 三 馭者馬丁ヲ解僱シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタルトキ
- 第八條 甲署ノ所轄地ヨリ乙署ノ所轄地ニ轉居スルトキハ甲署へ其旨ヲ届出テ尙車馬検査證鑑札ヲ添へ乙署ニ届出テ書替ヲ請フヘシ
- 第九條 検査証鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
- 第十條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ欠クヘカラス
- 第十一條 乗客ノ員數ハ車体馬力ニ應シ之ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十二條 車体検査証ハ検査毎ニ檢印ヲ受ケ馬匹検査証ハ馬匹ノ頸輪ニ結着シ車体検査証ハ車体内部ノ見易キ處ニ釘付スヘシ
- 第十三條 検査証アル車馬ト雖モ第十六條第十七條ノ制限ニ適セス又ハ其車体器具ノ破損ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十四條 營業者中ニ於テ組合ヲ設ケタルトキハ其旨所轄警察官署ニ届出ヘシ其變更アリタル時亦同シ
- 第十五條 本則第六條第七條第八條ノ届ハ口述ヲ以テナスコトヲ得

第二章 車体馬匹及器具



第十六條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘシ

二車体ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ風雨ニ對ユヘキモノヲ用ユヘシ

三客坐ハ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

但一人ノ坐席ハ巾壹尺二寸ニ下ルヘカラス

四車輪ニハ泥除ヲ設クヘシ

五車体前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘシ

六運轉器心棒發條力車手綱其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用ユヘシ

第十七條 馬匹ハ四歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ル

第十八條 馬匹ハ檢査証ヲ結着スル爲メ頸輪ヲ設クヘシ

第三章 馭者馬丁ノ服裝

第十九條 馭者ハ滿廿年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナルモノ且ツ馭者ハ馭術ニ熟達ス

ルモノニ限ルヘシ

第二十條 馭者馬丁ハ左ノ項目ニ從ヒ服裝ヲナスヘシ

一馭者ハ筒袖ワポズ

二馬丁ハ法被股引半股引

但雨具ハゴム引又ハ桐油製ヲ用フルモ妨クナシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 鑑札ハ所持スヘシ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ゾトテ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 類冠鉢巻其他不体裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十三條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス若シ不得已事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ヲ管守セシムヘシ

第二十四條 老幼及ヒ婦女昇降ノ際ハ總駕ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十五條 乘客着席シ又ハ降車シ畢リタル后ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十六條 乘客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十七條 馭者登ニ客ヲ載セ又ハ構造ナクシテ屋根ノ物品ヲ載スヘカラス

第二十八條 酩酊シテ馬ヲ馭シ又ハ他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第二十九條 行車中ハ飲食又ハ喫煙スヘカラス

第三十條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス



第三十一條 行人ニ對シ濫リニ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス

第三十二條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ競争スヘカラス

第三十三條 馬車ノ通行及ハ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後者ハ右ヲ通

過スヘシ

五郵便用消防用ニ供スル車馬及濯水車又ハ葬送ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十四條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シテ相當ノ合圖ヲ爲シ且ツ

馬丁ヲシテ前行セシメ街角ニ於テハ右ハ大廻リヲナシ左ハ小廻リヲナスヘシ

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十八條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十九條 定員三分一以上ノ乗客ナルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ニ拒ムヘカラス

第五章 乗載制限

第四十條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス

但十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未満ノ者ハ定員外トス

第六章 賃錢及駐車場

第四十一條 賃錢額ハ同業者中ニ於テ之ヲ定メ其定メタル額ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ其變更アリ

タルトキ亦同シ

第四十二條 賃錢額ハ車体及ヒ駐車場見易キ所ニ掲ケ置クヘシ (明治廿五年七月二日 令甲第四十二號改正)

第四十三條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢額外ノ金錢ヲ請求ス可カラス

第四十四條 途中ニ於テ車馬ヲ運轉スルコト能ハサル事故生シタルトキハ他ノ車馬又ハ人力車ヲ以

テ速ニ約定ノ通り送達スヘシ若シ乗客ノ下車ヲ求ムルトキハ里程ノ割合ヲ以テ賃錢ヲ返還スヘシ

第四十五條 駐車場ハ其場圖ヲ添ヘ所轄警察官署ノ認可ヲ得標識ヲ設クヘシ

第四十六條 駐車場ノ外濫リニ車馬ヲ置クヘカラス

第四十七條 駐車場ノ地盤ハ石煉瓦石敲キ又ハ板ヲ敷キ且ツ馬尿溜ヲ設クヘシ

第四十八條 駐車場ハ日々掃除ヲナスヘシ



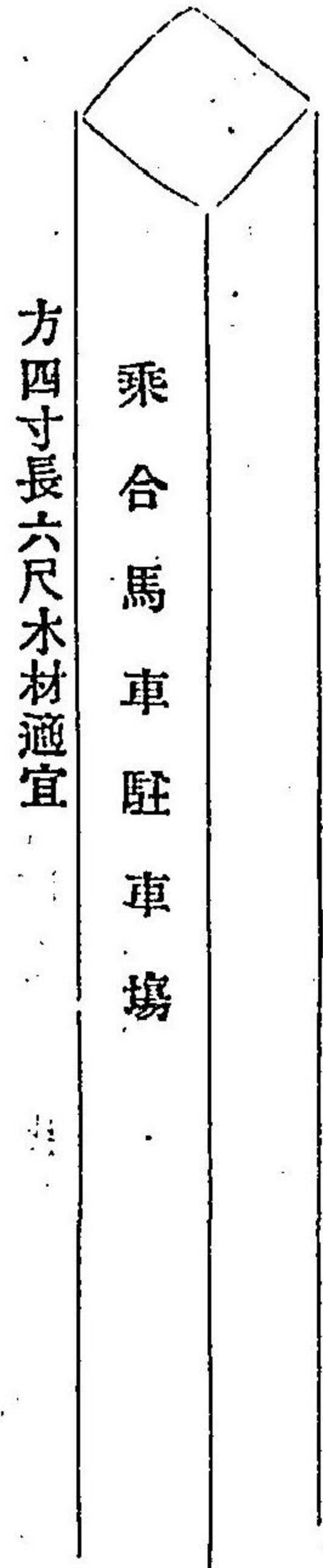
第七章 罰例

第十四九條 本則第一條第二條第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第二十一條第二十三條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十三條第四十四條第四十五條ヲ犯シタル者第十三條ノ停止ヲ犯シタル者第十六條第十八條第二十條第四十二條第四十七條第四十八條ニ違ヒ督促ニ從ハサル者第二十二條第三十二條第四十六條ニ違ヒ制止ヲ肯セサル者第二十四條第二十五條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條ニ違ヒ妨害ヲ爲シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五拾條 前條ニ記載シタル條項中刑法ニ正條アルモノハ刑法ノ處分ニ從フ

附則

駐車場標識



方四寸長六尺木材適宜

- 一 右面ニハ明治年月日ト記スヘシ
- 一 左面ニハ從是東又ハ西南北何間ト記スヘシ
- 一 裏面ニハ營業人何ノ誰又ハ外何名ト記スヘシ

○營業人力車取締規則

明治廿四年十二月廿二日  
日縣令甲第六十七号

明治廿一年一月茨城縣令甲第六号營業人力車取締規則左ノ通改正ス

營業人力車取締規則

第一章 通則

第一條 人力車營業者トハ輓子ヲシテ人力車ヲ輓カシメ又ハ自ラ人力車ヲ輓キ營業スル者ヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 營業者ニ於テ輓子ヲ雇入ル、トキハ其族籍住所氏名年齢等ヲ詳記シ本人ヲ同行シテ所轄警察官署ニ届出一名毎ニ鑑札一個ヲ受クヘシ

第四條 營業者自ラ車ヲ輓ク時ハ總テ輓子ノ例ニ從フヘシ

第五條 輓子ノ鑑札ハ毎年七月所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ  
但検査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ

第六條 車体ハ毎年一月七月ノ両度所轄警察官署ノ検査ヲ受ク其証ヲ受クヘシ其新造改造又ハ買受



讓受ケテサシタル者ハ定期ニ拘ラヌ検査ヲ受クヘシ

第七條 車体検査証ハ車ノ蹴込ニ釘付スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出書替又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 轉居改氏名其他検査証鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ

二 検査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ文字不分明ニ至リタルトキ

第九條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出検査證又ハ鑑札ヲ返納ス

ヘシ

一 廢業又ハ廢車シタルトキ

二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ

三 輓子ヲ解雇シ又ハ輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタルトキ

第十條 甲署所轄地ヨリ乙署所轄地へ轉居スルトキハ甲署へ届出尙ホ乙署へハ検査證鑑札ヲ添ヘテ

届出書替ヲ請フヘシ

第十一條 検査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十二條 検査証アル車ト雖モ第十五條ノ制限ニ適セス又ハ破損ニ至リタルヲ認ムルトキハ其使用

ヲ停止スルコトアルヘシ

第十三條 營業者中ニ於テ組合ヲ設ケタル者ハ其旨所轄警察官署ニ届出ヘシ變更アリタルトキ亦同

第十四條 本則第八條第九條第十條ノ届ハ口述ヲ以テテスコトヲ得

第二章 車体構造及附屬品

第十五條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 一人乗ハ横巾内法二尺未満二人乗ハ二尺以上トス

二 車体ハ無地漆黒塗中張ハ革天鵝絨羅紗等ヲ用ニヘシ

三 車体ニハ同シキ塗色ノ泥除ヲ備フヘシ

四 護謨製又ハ桐油製ノ母衣及ヒ前掛クヲ備フヘシ

五 蒲團及ヒ膝掛ヲ備フヘシ

六 細長提灯ヲ備ヘ且ツ蠟燭摺附木ヲ用意スヘシ

第三章 輓子服裝

第十六條 年齢滿十八年以上ニシテ身体強壯ナル者ニアラサレバ輓子ト爲ストヲ得ス

第十七條 輓子ノ服裝ハ法被筒袖股引半股引雨具護謨引又ハ桐油製ヲ着用スヘシ

第四章 輓子就業制限



第十八條 腕子ハ鑑札ヲ携帶シ警察官吏又ハ乘客ノ求メアルトキハ之ヲ示スヘシ

第十九條 類冠リ鉢巻其他不体裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十條 路上ニ彷徨シ又佇立スヘカラス

第二十一條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス

但乘客用弁ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル場所ニ駐車スルハ妨ケナシ

第二十二條 乘客ノ承諾ヲ得スシテ途中ニ於テ乘客ヲ他ノ車ニ乗セ換ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカス

第二十三條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第二十四條 乘客ノ指定セサル宿屋飲食店及ヒ其他ノ場所ニ輓入ヘカラス

第二十五條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他雜踏ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第二十六條 行人ニ對シ濫リニ乗車ヲ勤メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス

第二十七條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第二十八條 人力車ノ通行及ヒ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二車馬及歩行者ヘ行逢フトキハ左ニ避ケ軍体并ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路バ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸聲ヲナシ前車左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五郵便用消防用ニ供スル車馬及漕水車又罪送ニ行逢フトキハ其妨害トナラサル場所ニ避讓スヘシ

六往來雜踏又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行スヘシ

七街角ヲ右ニ過クルトキハ大廻リヲナシ左ニ過クルトキハ小廻リヲ爲スヘシ

第廿九條 二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十條 夜中燈火ナクシテ疾驅ヌヘカラス

第三十一條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第五章 乘載制限

第三十二條 一人乗ニ二人或ハ乗ニ三人以上ヲ乗スヘカラス

但十年未滿者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第六章 車賃

第三十三條 人力車ノ賃錢ハ所轄警察官署内ノ全業者中ニ於テ之ヲ定メ其定メタル額ヲ所轄警察官

署ニ届出ヘシ其變更シタル時亦同シ

第三十四條 賃錢額ハ車ノ蹴込及ヒ駐車場見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第三十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

(明治廿五年七月二日縣令甲第四十一號改正)



第三十六條 乗客ニ於テ單ニ行先キヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算ス

ヘシ

第七章 駐車場

第三十七條 駐車場ヲ分ケテ左ノ二種トス

- 一 公設駐車場（一般營業人ノ爲メ所轄警察官署ニテ定メタル場所ヲ云フ）
- 二 私設駐車場（一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スル場所ヲ云フ）

第三十八條 私設駐車場ヲ設ケントスル者ハ所轄警察官署ニ届出許可ヲ受ケ標識ヲ設ケヘシ

第三十九條 客ノ乗用ニ應シ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス

第四十條 公設駐車場ニアル人力車ハ整列ノ順序若クハ闊取ヲ以テ出車スヘシ

但シ客ノ特ニ指示シタル場合ハ此限りニアラス

第四十一條 駐車場ハ日々掃除ヲナスヘシ

第八章 罰例

第四十二條 本則第二條第三條第六條第七條第八條第十條第十一條第十八條第二十二條第二十三

條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第三十二條第三十五條第三十六條第三

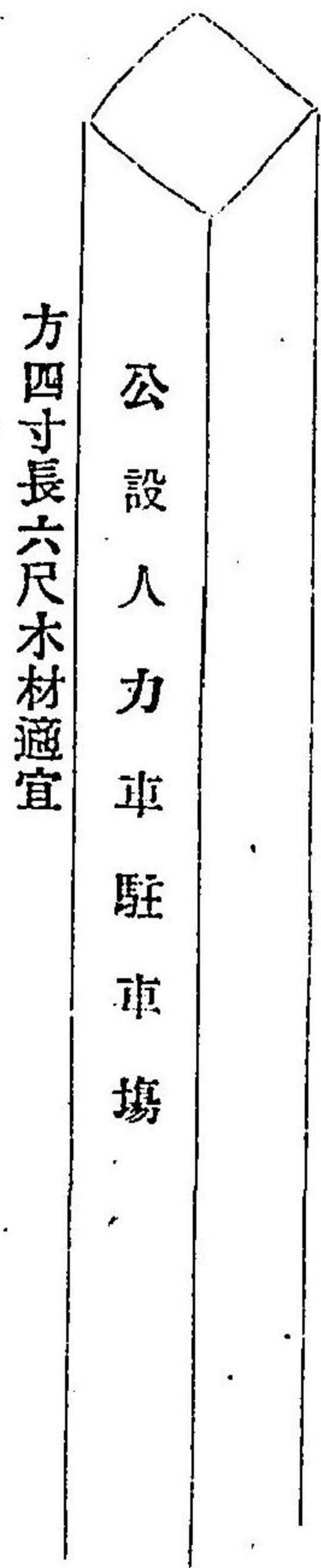
十八條第三十九條ヲ犯シタル者第十二條ノ停止ヲ犯シタル者第十五條第十七條第三十四條第四十

- 一 條ニ違ヒ督促ニ從ハサル者第十九條第二十條第二十一條第二十九條ニ違ヒ制止ヲ肯セサル者
- 第二十八條第三十一條ニ違ヒ妨害ヲ爲シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上
- 一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十三條 前條ニ記載シタル條項中刑法ニ正條アルモノハ刑法ノ處分ニ從フ

附則

駐車場標識



- 一 右面ニ明治何年月日ヲ記スヘシ
- 一 左面ニ從是東又ハ西南北何間ト記スヘシ
- 一 裏面ニハ何警察官署ヲ記スヘシ
- 一 私設前面ニハ私設人力車駐車場ト記スヘシ
- 一 右面左面ハ公設ニ做ヒ記スヘシ



一裏面ニハ營業人何之誰又ハ外何名ト記スヘシ

○宿屋取締規則

明治二十一年一月  
十三日縣令第四號

宿屋取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類並ニ營業用ニ供スル建物ノ坪數及ヒ間取ヲ記シタル明細圖ヲ添ヘ所轄警察署分署ヘ願出テ免許ヲ受クヘシ其建物間取坪數變更増減シタルハ其圖面ヲ添ヘ願出認可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス

一未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二白痴瘋癲

三強盜詐欺取財ノ罪ヲ犯シクル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認ムル者

第四條 改氏名又ハ廢業シタルハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

第六條 宿引ヲ出シテ客ヲ誘引スヘカラス

第七條 宿泊人ノ携帶品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セザル様注意スヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ直ニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第九條 宿泊人疾病ニ罹ルハ醫藥食物等其求ニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十條 宿泊人傳染病ニ罹リタルハ速ニ所轄警察署分署巡查出所巡查駐在所市役所又ハ町村役場ヘ届出ツヘシ

第十一條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルハ即時所轄警察署分署巡查出所巡查駐在所若クハ巡行巡查ニ届出ツヘシ

第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ客ノ求メナキ飲食物ヲ出スヘカラス

第十三條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收シ又ハ受領スヘカラス

第十四條 外國人宿泊スルハ速ニ所轄警察署分署若クハ巡查出所巡查駐在所ニ届出ツヘシ

第十五條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ

第十六條 宿泊人及雇人ニ關シ取締上警察官吏ノ尋問アルハ事實ヲ申告スヘシ  
(明治廿七年八月  
縣令第三十六號)

(改正)

第二章 旅人宿



第十七條 旅人宿ハ貸坐敷ヲ兼業スルコトヲ得ス

第十八條 旅人宿ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ

但シ客室八坪以上ト雖モ檢査ノ上特ニ許可スルコトアルヘシ

第十九條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ

第二十條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸柵ヲ設クヘシ

第二十一條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ石敲キ陶器油樽厚板ノ

類ヲ以テ堅固ニ構造スヘシ

第二十二條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十三條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第二十四條 客ノ依頼アルト雖モ藝娼妓ヲ招聘スヘカラス

第二十五條 營業者ハ宿泊人名簿ヲ調表シ宿泊人發着アル毎ニ之ニ登記シ毎日午后十二時限り所轄

警察署分署巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ差出シ檢査ヲ受ク可シ

但宿泊人名簿ハ甲乙二冊ヲ調製シ交互甲ハ初日乙ハ次日ニ差出スコトヲ得

宿泊人名簿

雛形 用紙美濃紙

各番	室號	族籍住所職業	氏名	前夜宿泊所	行先地	到着日時	出發日時	相貌特徵事故
全								
全								
全								

官公吏ハ其官職氏名ノミヲ記スルモ妨クナシ (明治二十七年八月縣令第三十六號改正)

第二十五條 營業者ハ宿泊人名簿ヲ調製一々之ニ記載スヘシ

但三泊以上帶在スルモノアルトハ所轄警察署分署又ハ巡査派出所ニ届出スヘシ

第二十六條 宿泊人名簿ハ翌一年間保存スヘシ

第三章 下宿屋

第二十七條 下宿屋トハ一ヶ月ノ賄料坐敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

第二十八條 營業者ハ下宿人投宿翌日下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏名年齢並ニ下宿ノ事由

ヲ記シ所轄警察署分署又ハ巡査派出所巡査駐在所へ届出ツベシ

第二十九條 第二十二條第二十五條第二十六條ハ下宿屋ヘモ之ヲ適用ス

但宿泊人名簿ハ差出スニ及ハス (明治二十七年八月縣令第三十六號追加)

第三十條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ揭示スヘシ



第三十一條 下宿人他へ轉居シ又ハ五日以上外出シテ所在不分明ナルトハ其旨所轄警察署分署又ハ  
巡查派出所巡查駐在所へ届出ツヘシ

第四章 木賃宿

第三十二條 木賃宿ハ指定ノ場所外ニ於テ營業ヲ爲スヲ得ス  
但其場所ハ別ニ之ヲ定ム

第三十三條 第二十二條第二十五條第二十六條ハ木賃宿ニモ之ヲ適用ス

第五章 罰例

第三十四條 第二條第六條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十六條第廿三條第  
廿四條第廿五條第廿六條第廿八條又ハ第三十一條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ  
又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス(明治廿七年八月縣  
令第三十六號改正)

附則

一從來ノ旅人宿下宿屋木賃宿ニシテ引續キ營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二  
條ニ依リ出願免許ヲ請フヘシ  
一客室ノ構造第十九條第二十條第二十一條ニ觸ル、者ト雖モ本則施行ノ日ヨリ一ケ年以内ハ營業ス  
ルコトヲ得

一指定ノ場所外ニアル木賃宿ハ本則施行ノ日ヨリ二ケ年以内ハ營業スルコトヲ得

旅人宿 又ハ下宿 屋木賃宿 營業願書式

私儀何郡何町村何番地ニ於テ旅人宿 又ハ下宿 屋木賃宿 營業仕度候間御免許被成下度別紙建物坪數及間取明  
細圖相添此段奉願候也

原籍寄留身分

年月日

姓

名印

(營業者未丁年ナルトハ後  
見人連署ノコト以下倣之)

警察署又ハ分署宛

前書之通相違無之候也

(戸長)

姓

名印

建物坪數 又ハ變更 又ハ届書式 間取 増減

私儀是迄營業用ニ供シ來リ候建物坪數 又ハ別紙圖面ノ通建増 又ハ間取 仕候間御認可被成下度此段  
御届仕候也

肩書前ニ全シ



年月日

姓

名印

警察署又ハ分署宛

轉居營業願書式

私儀是迄何郡何町村何番地ニ於テ旅人宿又ハ下宿屋木賃宿營業仕居候處今般何郡何町村何番地へ轉居引續全營業仕度候間御允許被成下度建物坪數間取明細圖并ニ從前御允許ヲ受ケタル願書ノ寫相添へ此段奉願候也

肩書前ニ全シ

年月日

姓

名印

警察署又ハ分署宛

前書之通相違無之候也

(戸長)

姓

名印

下宿人届書式

府縣國郡町村番地身分

姓

名

年齢

右ハ本日又ハ昨日ヨリ私方へ下宿致候ニ付此段御届仕候也

郡町村番地

下宿屋營業

年月日

姓

名印

右下宿人

姓

名印

警察署又ハ分署宛

看板雛形

□ 旅人宿 又ハ下宿 屋木賃宿 屋號 氏名

竪曲尺三尺 横全八寸 木質適宜

○料理店並飲食店營業取締規則

明治二十年十一月三十日甲第八十七號

料理店並飲食店營業取締規則

第一條 料理店飲食店ノ營業ヲ爲ス者ハ(戸長)ノ奥印ヲ受ク所管警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ク

ヘシ



第二條 左ノ各項ニ觸ル、者ニハ營業ヲ許サズ

一後見人ナキ未丁年者

二白痴瘋癲者

三風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認ムルモノ

第三條 改名轉居廢業ノトキハ(戶長)ノ與印ヲ受ク所管警察署又ハ何分署へ届出ヘシ

第四條 營業者ハ業名屋號及氏名ヲ記シタル看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

但シ夜中ハ點燈ヲ以テ之ニ換フヘシ

第五條 來客ヲ私擅ニ宿泊セシムヘカラス

第六條 客ノ招聘シタル藝妓ヲ宿泊セシムヘカラス

第七條 婦女ヲ客席ニ出シ藝妓ニ紛ハシキ業ヲナサシムヘカラス

第八條 夜間十二時后歌舞音曲ヲナサシムヘカラス

第九條 酒肴料ノ抵償トシテ私擅ニ客ノ所有品ヲ押收シ又ハ受領スヘカラス

第十條 客ノ需メサル酒肴ヲ出スヘカラス

第十一條 便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル場所ニ設クヘシ

第十二條 客席其他便所等ハ日々掃除ヲナシ清潔ニスヘシ

第十三條 第一條第三條第五條第六條第七條第八條第九條第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處セラルヘシ

○雇人受宿取締規則

明治廿四年十二月廿六日縣令甲第七十一號

明治十五年六月乙第百五號布達雇人受宿取締規則左ノ通改正ス

雇人受宿取締規則

第一條 雇人受宿營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 轉居又ハ改氏名ヲ爲シタルトハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

但廢業シタルト亦全シ

第三條 甲署所轄内ヨリ乙署所轄内へ轉居シタルトキハ甲乙ノ兩署ニ届出ヘシ

第四條 營業者ハ雇人受宿ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

第五條 營業者ハ雇人口入帳ヲ製シ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條 雇人口入帳ニハ雇人ヨリ口入ノ依囑ヲ受ケタルトキ其原籍身分氏名年齢及年月日等詳記スヘシ

但雇入ラン又ハ解雇サレタルトキハ其年月日モ附記シ置クヘシ

第七條 雇人口入帳ハ使用終日ヨリ滿一年間保存スヘシ



但廢業シタルトハ此限リニアラス

第八條 雇人口入手數料ハ所轄警察官署内ノ同業者中ニ於テ之ヲ定メ其定メタル額ヲ所轄警察官署ニ届置クヘシ

但變更アリタルトキ亦同シ

第九條 手數料ハ店內見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十條 營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ手數料ノ外報酬ヲ受クヘカラス

第十一條 雇期中ノ者ヲ勧誘シ他ニ口入ヲ爲スヘカラス

第十二條 身元分明ナラサル者ハ口入レヲナスヘカラス

第十三條 口入ニ托シテ雇入ニアラサルモノヲ宿泊セシムヘカラス

第十四條 警察官吏ハ臨時帳簿等檢査スルコトアルヘシ

第十五條 本則第二條第三條ノ届ハ口述ヲ以テ爲スコトヲ得

第十六條 本則第一條第二條ノ本項第三條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十三條ヲ犯シタル者第九條ニ違ヒ督促ニ從ハサルモノ第十四條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○貸座敷引手茶屋娼妓取締規則

明治廿二年三月十七日  
日縣令甲第十四號

貸座敷引手茶屋娼妓取締規則別冊之通改定ス

但明治十五年六月乙第百十三號布達廢止ス

貸座敷引手茶屋娼妓取締規則

貸座敷

第一條 貸座敷營業ハ允許シタル地ニ限ルモノトス

第二條 貸座敷ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢樓名ヲ詳記シ(戸長)ノ與印ヲ受ク所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クハシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ貸座敷營業ヲ許サス

一 後见人ナキ未丁年者

二 白痴瘋癲者

三 幼者ヲ略取誘拐シタル罪猥褻姦淫ノ罪強盜ノ罪ヲ犯シ處刑セラレタル者

四 公權剝奪停止中ノ者

第四條 廢業又ハ族籍住所氏名樓名ヲ變換シタルトハ三日以内ニ其官所轄警察署又ハ分署ヘ願出ヘ

シ

第五條 營業者ニシテ管内他ノ允許地ニ移轉營業セントスル者ハ一旦廢業シ更ニ願出許可ヲ受ク可



第六條 營業者ハ左ノ離形ニ倣ヒ店頭ニ看板ヲ掲グベシ

長三尺

貸座敷	樓名
何ノ誰	

第七條 營業者ハ帳簿ヲ製シ置キ遊客ノ族籍住所氏名年齢及年月日其他金錢ノ遣ヒ拂高ヲ詳記スヘシ

第八條 娼妓揚代金ノ額ハ所管警察署又ハ分署へ届出尙ホ變更シタルトキハ其都度届出ヘシ

第九條 許可ヲ受ケサル婦女ニ客座ヲ貸與スベカラス

第十條 疾病ニ罹リタル娼妓ニ客座ヲ貸與スベカラス

第十一條 通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ客ノ需メサル酒肴ヲ出スヘカラス

第十二條 娼妓ノ轉居又ハ廢業セントスルトキハ無謂故障スヘカラス

第十三條 交際又ハ物日杯ト唱ヘ濫リニ出費ヲ娼妓ニ強ユヘカラス

第十四條 粧飾シタル娼妓ヲ通行人ニ觀スベカラス

第十五條 娼妓ノ他行ヲ濫リニ拒ムヘカラサルハ勿論ナルモ故ナク外出ヲ許スヘカラス

第十六條 酒肴揚代等ノ抵償トシテ遊客ノ物品ヲ押收又ハ受領スヘカラス若シ賣却質入等ノ委託ヲ受ケタルハ警察官吏ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 遊客中金三圓以上消費シ其他舉動不審ト見認メ又ハ娼妓ヨリ申告アリタルトキハ速ニ警察官吏ニ密告スヘシ

第十八條 貸座敷營業ヲ爲スモノハ宿屋ヲ營業スルコトヲ許サス

第十九條 營業上ニ付テハ家屬雇人ノ所爲ト雖モ營業者其實ニ任ス

引手茶屋

第二十條 引手茶屋營業ハ貸座敷營業允許ノ地ニ地ニ限ルモノトス

第二十一條 引手茶屋營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢屋號ヲ詳記シ(戸長)ノ奥印ヲ受ケ所管警察署又ハ分署へ願出許可ヲ受クヘシ

第二十二條 本則第三條第四條第五條第七條第十一條第十六條第十七條第十八條第十九條ハ引手茶屋營業者ニモ之ヲ適用ス

第二十三條 營業者ハ左ノ離形ニ倣ヒ店頭ニ看板ヲ掲クヘシ



長三尺

引手	茶屋	屋號	何ノ誰
----	----	----	-----

第二十四條 客人及娼妓ヲ宿泊セシメ又ハ強テ遊興ヲ勸ムヘカラス

娼妓

第二十五條 娼妓稼ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢妓名及其事情ヲ詳記シ父母若クハ最近ノ親屬二人以上并ニ稼クヘキ貸座敷主連署ノ上該地檢査所醫員ノ檢査証ヲ添ヘ(戶長)ノ與印ヲ受ケ本人貸座敷主同道所管警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二十六條 年齢十六歳ニ滿タサル者ハ娼妓稼ヲ許サス

第二十七條 廢業又ハ族籍住所氏名妓名ヲ變換シタルトキハ貸座敷主連署三日以内ニ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第二十八條 管内他ノ允許ノ地ニ移轉稼ヲ爲サントスルトキハ一旦廢業更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二十九條 貸座敷ニ於テ見世ヲ張り又ハ通行人ニ強テ遊興ヲ勸ムヘカラス

第三十條 貸座敷外ニ於テ營業スルヲ許サス

第三十一條 微毒疥癬ヲ患フル者ハ營業スルヲ許サス

第三十二條 貸座敷主ノ許諾ヲ得ズ猥リニ貸座敷外ニ出ルヲ許サス

第三十三條 細帶ノ儘屋外ニ出ルヲ許サス

第三十四條 毎週一回ノ規定ノ日時該地檢査所ニ於テ身体ノ檢査ヲ受クヘシ若シ疾病ニ罹リ出場シ難キ者ハ貸座敷主ト連署定時前幹事ニ届出ヘシ

但微毒感染ノ兆候アルモノハ期日ニ拘ラス速カニ届出治療ヲ受クヘシ

第三十五條 遊客ヨリ財物ヲ預リ又ハ貰受ケタルトハ速ニ貸座敷主ニ申告スヘシ

第三十六條 遊客ニ於テ兇器ヲ密帶シ又ハ身分不相應ノ古金銀其他財物ヲ所持スルコトヲ認知シタルトキハ速カニ貸座敷主ニ申告スヘシ

罰則

第卅七條 本則第二條第廿一條ノ許可ヲ得ズシテ營業ヲ爲シ第四條第八條第廿七條ノ届出ヲ爲サス

第七條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第廿四條第廿九條

第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條ニ違犯シタル者ハ

一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十八條 本則ニ違背シタル者ハ前條ノ刑ヲ科スルノ外行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ停止若クハ禁

止スルコトアルヘシ



附則

第三十九條 從來ノ貸座敷引手茶屋娼妓ハ本則ニ依リ明治廿二年三月三十一日迄願出許可ヲ受クヘシ

但鑑札アル者ハ願出ノ際其鑑札返納スヘシ

第四十條 願出許可ヲ受ケタル指令書ハ許可ノ証トナルヘキモノニ付若シ紛失毀損シタルトキハ前キノ指令書再渡ヲ三日以内ニ願出スヘシ

第四十一條 本則第四條第八條第廿七條第四十一條ノ願届ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

第四十二條 貸座敷引手茶屋ニ於テ組合ヲ設ケタル者ハ其旨所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

但規約ヲ設ケ又ハ取締人ヲ置クトキハ其規約及取締人住所氏名年齢等ヲ届出ヘシ其變換アリタルトキ亦同シ

○劇場取締規則 明治二十四年三月十日 縣令甲第十九號

劇場取締規則左ノ通相定メ明治十六年七月乙第九十號演劇取締規則ハ之ヲ廢ス

劇場取締規則

第一條 本則ニ於テ劇場ト稱スルハ俳優ノ演技ヲ衆庶ノ觀覽ニ供スル公開ノ場所ヲ云フ

第二條 劇場ヲ建設セントスルモノハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ヘ願出許可ヲ受クヘシ其改造

變更ヲ要スルトキ亦同シ (明治廿四年十二月廿六日 日甲第七十三號改正)

但劇場ノ設置アル市町村ニアツテハ臨時場所ヲ設クルヲ許サス

一 場所並建物ノ圖面構造ノ仕様書及落成ノ時日

二 四隣ノ距離

三 觀客ノ定員

第三條 前條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ヘ届出検査ヲ受クルニアラサレバ之ヲ使用スルコトヲ得ス (明治廿四年十二月廿六日 日甲第七十三號改正)

第四條 劇場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但臨時ニ場所ヲ設クル時ハ土地ノ狀況ニ依リ警察官署ニ於テ斟酌スルコトアルヘシ (明治廿四年十二月廿六日 日甲第七十三號改正)

一 建物ノ前后左右ニハ二間以上(道路河川ハ其間數ヲ算入ス)ノ空地ヲ存スヘシ

二 建物ノ前面又ハ側面ニ外開キノ扉若クハ横引ノ戸ヲ附シタル非常口二個以上ヲ設クヘシ

三 空氣ノ疎通ヲ要スル爲メ場内ニハ適宜ノ窓扉ヲ設クヘシ

四 觀客ノ座席ハ一人ニ付曲尺方一尺五寸以上ノ割合ヲ設クヘシ

五 棧敷ニハ幅二尺以上ノ廊下ヲ附シ天井ハ床上ヨリ六尺以上ノ高サニ設クヘシ



六棧敷ニハ扶欄ヲ附シタル幅三尺以上ノ階段二個以上ヲ設クヘシ

七土間ノ客席ニハ二樹毎ニ堅若クハ横ニ通路ヲ設クヘシ

第五條 族籍住所氏名ニ異動アルトキハ三日以内ニ所轄警察官署へ届出ヘシ

但劇場ヲ廢シタルモ亦全シ(明治廿四年十二月二日  
十六日甲第七十三號)

第六條 劇場ハ警察官吏ヲ派遣シ臨時検査ヲ爲シ危険ノ虞アリト認ムルトキハ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第七條 演劇ノ興行ヲ爲サントスルトキハ藝人ノ族籍氏名年齢興行ノ日敷時間ヲ詳記シ演劇ノ仕組帳及藝人ノ鑑札(鑑札ナキモノハ此限リニアラス)ヲ添へ開場二日以前ニ所轄警察署又ハ分署へ願出許可ヲ受クヘシ

但日延興行願ハ開場前日迄ニ出願スルヲ得

第八條 興行中一時休業スルトキハ其都度所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第九條 劇場内ハ火災其他危険ノ虞ナカラシムヘシ

第十條 客席ヲ暗黒ニシ又ハ觀客ヲ藝人休息所ニ入ラシメ若クハ藝人ヲ客席ニ入ラシムヘカラス

第十一條 觀客へ闖ヲ出シ景物ヲ與ヘ其他種々ノ名義ヲ附シテ出錢ヲ促スヘカラス

第十二條 劇場内ハ清潔ニシ興行中便所ハ毎日掃除スヘシ

第十三條 定員外ノ客ヲ容ルヘカラス

第十四條 興行時間ハ日出ヨリ午後十一時迄トス

第十五條 木戸錢席料下足錢等ハ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十六條 警察署分署ハ興行中警察官吏ヲ臨檢セシメ演劇ノ所作ニシテ安寧秩序ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第十七條 演藝中觀客ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一放談高話其他喧嘩ニ渡リ他ノ妨ヲナスヘカラス

二濫リニ舞臺ニ上リ又ハ花道ヲ徘徊スヘカラス

三帽子ヲ冠リ他ノ妨クヲ爲スヘカラス

四袒裼裸体類冠リ其他之レニ類セル不体裁ノ所爲アルヘカラス

第十八條 前條ノ所爲アルヲ認ムルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルモノアルトキハ退場セシムルコトアルヘシ

第十九條 本則第三條第五條第八條ノ届ハ口述ヲ以テ爲スコトヲ得

第二十條 本則第二條第三條ニ背キ開場シタル者第六條第十六條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ改修及停止ヲ肯セサルモノ第七條ノ許可ヲ受クスシテ興行シタル者第十二條第十五條ニ背キ督促ニ應セサルモノ



第五條本項第十條第十一條第十三條第十四條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

一從來ノ劇場ニシテ本則第四條ノ構造ニ抵触スルモノハ大修繕ヲ要スルトキ改造スヘシ

但危險ノ虞アリト認ムルトキハ特ニ改造ヲ命スルコトアルヘシ

二從來ノ劇場ト雖モ觀客定員ハ本則第四條第七項ニ依リ之ヲ定メ來ル三月三十日マデニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

○定寄席取締規則

明治二十四年三月十二日縣令甲第廿二號

明治廿年十一月茨城縣令甲第八十六號定寄席取締規則左ノ通改正ス

定寄席取締規則

第一條 本則ニ於テ寄席ト稱スルハ藝人ノ演藝(講談落語淨瑠璃唄音曲寫繪手踊手品操人形足藝祭文讀)ヲ衆庶ノ聽聞若クハ觀覽ニ供スル爲メ兼テ許可シタル場所ヲ云フ

第二條 寄席營業ヲ爲セントスル者ハ建物ノ構造間取坪敷ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヒ所轄警察官署ヘ願出許可ヲ受クヘシ其改造變更スルトキ亦同シ(明治廿四年十二月廿六日甲第七十四號改正)

第三條 族籍氏名ヲ轉換シタル者ハ三日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ

但廢業シタル時亦全シ(全上)

第四條 演藝ヲ爲サントスル時ハ藝人ノ族籍氏名年齢演藝ノ種類日敷時間ヲ詳記シ藝人ノ鑑札(鑑札ヲキモノハ此限リニアラス)ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ届出ヘシ(全上)

第五條 一時演藝ヲ休マントスルトキハ其都度所轄警察官署ヘ届出ヘシ(全上)

第六條 警察官署ハ警察官吏ヲ臨檢セシメ安寧秩序ニ害アル演藝ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ(全上)

第七條 客席ヲ暗黒ニシ又ハ藝人ノ休息所ニ客ヲ入レ若クハ藝人ヲ客席ニ入ラシムヘカラス

第八條 來客ヘ鬧ヲ出シ景物ヲ與ヘ其他種々ノ名義ヲ附シテ出錢ヲ促スヘカラス

第九條 木戸錢席料下足錢等ハ見易キ場所ヘ揭示スヘシ

第十條 席内ハ火災其他危險ノ虞ナカラシムヘシ

第十一條 席内ハ空氣ノ流通ヲ便ニシ便所其他總テ清潔ニ掃除スヘシ

第十二條 演藝時間ハ日出ヨリ午後十一時迄トス

第十三條 演藝中觀客ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一放談高話其他喧嘩ニ涉リ他ノ妨クシナスヘカラス

二帽子ヲ冠リ他ノ妨クテ爲スヘカラス



三袒褻裸體類冠リ其他之レニ類セル不体裁ノ所爲アルヘカラス(明治廿四年十二月廿六) 日甲第七十四號追加

第十四條 前條ノ所爲アルヲ認ムルトキハ之ヲ制止シ若シ肯ヒサルモノアルトキハ退場セシムルコトヲルヘシ(全上)

第十五條 本則第三條第五條ノ届ハ口述ヲ以テ爲スコトヲ得(明治廿四年十二月廿六) 日甲第七十四號線下ケ

第十六條 本則第二條ノ許可ヲ受ケス第四條ノ届出ヲ爲サスシテ演藝ヲ爲サシメタル者第六條ノ臨

檢ヲ拒ミ又ハ停止ヲ肯セサル者第九條第十一條ニ背キ督促ニ應セサル者第三條本項第七條第八條

第十二條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百廿七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ廿錢

以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○諸興行取締規則

明治廿四年三月十二 日縣令甲第二十號

明治二十年十二月茨城縣令甲第九十八號諸興行取締規則左ノ通改正ス

諸興行取締規則

第一條 諸興行トハ相撲擊劍輕業曲馬手踊手品足藝操人形寫繪茶番狂言八人藝講談落話祭文讀淨瑠璃獨樂回鳥獸使ノ類ヲ云フ

第二條 本則ハ寄席内ノ興行ニハ之レヲ適用セス

第三條 凡ソ興行ヲ爲サントスル者ハ興行主ヲ定メ其興行主ヨリ藝人稼人ノ族籍氏名年齢及興行ノ

種類日數時間場所ヲ詳記シ藝人稼人ノ鑑札ヲ添ヘ(鑑札ナキモノハ此限リニアラス)所轄警察官署

ヘ願出許可ヲ受クヘシ(明治廿四年十二月廿六) 日甲第七十五號改正

第四條 興行中一時休業スルモ其都度所轄警察官署ヘ届出ヘシ(全上)

第五條 警察官署ハ興行中警察官吏ヲ臨檢セシメ安寧秩序ニ害アル興行ト認ムルトキハ之ヲ停止ス

ルコトアルヘシ(全上)

第六條 客席ヲ暗黒ニシ又ハ來客ヲ藝人ノ休憩所ニ入ラシメ若クハ藝人ヲ客席ニ入ラシムヘカラス

第七條 來客ヘ鬮ヲ出シ景物ヲ興ヘ其他種々ノ名義ヲ附シテ出錢ヲ促スヘカラス

第八條 木戶錢席料下足等ノ額ハ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第九條 興行場ハ構造ヲ堅固ニスルハ勿論其他總テ危險ノ虞ナカラシムヘシ

第十條 興行場ハ空氣ノ流通ヲ便ニシ便所其他總テ清潔ナラシムヘシ

第十一條 興行時間ハ日ノ出ヨリ午后十一時迄トス

第十二條 本則第四條ノ届ハ口述ヲ以テ爲スコトヲ得

第十三條 本則第三條ノ許可ヲ受ケスシテ興行シタル者第五條ノ停止ヲ肯セサル者第八條第十條ノ

督促ニ應セサル者第六條第七條第十一條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ一日ノ

拘留又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス(明治廿四年十二月廿六) 日甲第七十五號改正



○觀物取締規則

明治廿四年三月十一日  
日縣令甲第廿一號

明治二十年十二月茨城縣令甲第九十七號觀物取締規則左ノ通改正ス

觀物取締規則

- 第一條 觀物興行ヲ爲サントスルトキハ興行主ヲ定メ其興行主ヨリ稼人ノ族籍氏名年齢及觀物種類興行ノ場所日數時間ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 興行中一時休業スルルキハ其都度所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第三條 警察署分署ハ興行中警察官吏ヲ臨檢セシメ安寧秩序ニ害アル觀物ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第四條 猛獸鷲鳥等ヲ觀物トスルトキハ危險ノ虞ナキ柵堅固ニ柵欄ヲ設クヘシ
- 第五條 來客ヘ圍ヲ出シ景物ヲ與ヘ其他種々ノ名義ヲ附シテ出錢ヲ促スヘカラス
- 第六條 見料下足錢等ノ額ハ見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 第七條 興行時間ハ日出ヨリ午后十一時迄トス
- 第八條 本則第二條ノ届ハ口述ヲ以テ爲スコトヲ得
- 第九條 本則第一條ノ許可ヲ受クスシテ興行シタル者第三條ノ停止ヲ肯セサルモノ第四條第六條ノ督促ニ應セサルモノ第五條第七條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百廿八條第五項ニ依リ一日ノ拘留又ハ

十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

○遊技場取締規則

明治二十年十一月廿八日  
甲第八十四號

遊技場取締規則

- 第一條 遊技場トハ大弓揚弓投扇競室內射的玉突吹矢碁將棋集會ノ類ヲ云フ
- 第二條 遊技場ヲ設ク營業セントスルモノハ其屬籍氏名年齢營業ノ種類及場所ヲ詳記シ(大弓揚弓吹矢ハ略) (戸長)ノ奥印ヲ受ク所管警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ(室內射的圖ヲ添)
- 第三條 屬籍住所氏名ヲ轉換シ又ハ廢業シタルルキハ所管警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ
- 第四條 大弓揚弓室內射的吹矢ヲ營業スルモノハ危險ノ虞ナキ場所ヲ撰ミ繞圍ヲ設クヘシ
- 第五條 玉突吹矢ハ家屋外ニ於テ營業チナスヘカラス
- 第六條 遊技場ハ夜十二時限リ閉場スヘシ
- 第七條 大弓場ヲ設クルモノハ營業ニアラスト雖モ本則ニ從ヒ所管警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第八條 第二條第三條第六條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ヲ以テ處セラルヘシ

○競馬取締規則

明治二十年十一月十七日  
甲第八十一號

競馬取締規則



- 第一條 競馬ヲナサントスルトハ會主ヲ定メ其會主ヨリ競馬ノ年月日及ヒ場所ヲ詳記シ略圖ヲ添ヘ  
(戶長)ノ奥印ヲ受ケ所管警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ
- 第二條 競馬ヲ爲スニハ危險ノ虞ナキ地ヲ撰ムヘシ
- 第三條 競馬ハ日出前日没后ニ爲スヘカラス
- 第四條 十五年以下及酌前者ニハ競馬セシムヘカラス
- 第五條 認可ヲ受ケスシテ競馬ヲ爲シタルモノハ五錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○湯屋取締規則

明治廿四年十二月廿六  
日縣令甲第七十二號

明治二十年三月茨城縣令甲第二十一號湯屋取締規則左ノ通改正ス

湯屋取締規則

- 第一條 湯屋(藥湯湯共)營業ヲナサントスル者ハ湯質ヲ記シ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願  
出許可ヲ受クヘシ
- 但浴場火焚所天井裏烟出等變更スルトキハ其圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 廢業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ  
但改氏名シタルトキ亦全シ
- 第三條 火焚所天井裏烟出シ等ハ危險ノ虞ナキ操繕造シ烟出シノ天井裏等ハ毎月三回以上掃除スヘシ

シ

- 第四條 浴場ハ必ス男女ノ區域ヲ設ケ混浴セシムヘカラス  
但八年未滿ノ小兒ハ此限リニアラス
- 第五條 浴場ハ外面ヨリ見ヘサル操繕又ハ其他ノ物ヲ以テ見隱ヲ設クヘシ
- 第六條 營業時間ハ日出ヨリ午后十二時迄トス  
但烈風ノ節ハ時間ニ拘ラス焚火ヲ停止スヘシ
- 第七條 湯錢ハ場内見易キ所ヘ掲ケ置クヘシ
- 第八條 浴客ノ衣類物品等紛失セサル様注意スヘシ
- 第九條 警察官吏ハ浴場火焚場天井裏等臨時検査スルコトアルヘシ
- 第十條 本則第一條第二條但書第三條第六條ヲ犯シタル者第九條ノ検査ヲ拒ミタルモノハ刑法第四  
百廿五條第五項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處  
ス
- 第十一條 本則第四條第五條ヲ犯シタル者第七條ニ違ヒ督促ニ從ハサル者ハ一日以上三日以下ノ拘  
留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○印判取締規則

明治廿四年三月十一  
日縣令甲第十七號



明治十五年六月乙第百五號布達印判職取締規則左之通改正ス

印判職取締規則

第一條 印判職ノ營業ヲ爲サントスルモノハ注文帳印鑑帳二冊ヲ製シ所轄警察官署へ届出檢印ヲ受クヘシ  
(明治廿四年十二月廿六日甲第七十六號改正)

第二條 住所氏名ニ異同アリタルハ三日以内ニ所轄警察官署へ届出ヘシ甲署ヨリ乙署ノ所轄へ轉居シタルハ甲乙ノ署へ届出ヘシ

但廢業シタル時亦全シ  
(明治廿四年十二月廿六日甲第七十六號及廿五年七月二日甲第四十三號改正)

第三條 檢印ヲ得タル注文帳印鑑帳ハ紙數ヲ増減スヘカラス紙數盡キタルトキハ更ニ調製届出檢印ヲ受クヘシ

第四條 注文帳印鑑帳ハ使用終日ヨリ滿一年間保存スヘシ  
但廢業シタルトキハ此限ニアラス  
(明治廿四年十二月廿六日甲第七十六號追加)

第五條 注文帳ニハ印判彫刻ノ依託アリタルトキ依託者ノ住所氏名及其年月日ヲ記載シ若シ他人ノ依屬ニ係ルモノナル時ハ本人ノ住所氏名ヲモ併記シ置クヘシ  
(明治廿四年十二月廿六日甲第七十六號ヲ以テ以下順次繰下ケ)

第六條 印鑑帳ニハ印判ヲ彫刻セシ毎ニ之ヲ押捺シ受取人ノ住所氏名及印判ヲ渡セシ年月日ヲ記載シ置ヘシ

第七條 舊印影ノ如ク彫刻ノ依託アリト雖モ字体ノ幾分ヲ變更シテ彫刻スヘシ

第八條 警察官吏ハ臨時諸帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 第一條第二條第三條ノ届出ハ口述ヲ以テ爲スコトヲ得

第十條 第一條第二條本項第三條第四條本項第五條第六條第七條ヲ犯シタル者第八條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ刑法第四百廿七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス  
(明治廿四年十二月廿六日甲第七十六號明  
治二十五年七月二日甲第四十三號改正)

○牛馬賣買營業人取締規則

明治十五年六月十日乙第百五號

牛馬賣買營業人取締規則

第一條 本則ハ牛馬賣買規則  
明治五年第三百三十號布告明治七年第四十五號布告ニ明示セルノ外牛馬賣買營業者取締ノ爲メ設クルモノトス

第二條 牛馬賣買營業ヲナス者ハ警察區畫ニ從ヒ便宜組合ヲ設ク正副取締一名宛ヲ撰舉シ戶長ノ與印ヲ受ケ所管警察署又ハ分署へ届出ヘシ

但警察一區畫内ニ該營業者五名以下ナルハ組合ヲ設ケサルモ妨ケナシト雖モ各自其事由ヲ所管警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第三條 取締ハ組合中營業ニ關スル諸事ノ取締ヲ爲シ及諸達ヲ廻達スヘシ



第四條 取締ハ組合名簿二通ヲ作り一通ヲ所管警察署又ハ分署ニ差出し一通ヲ手許ニ備置キ組合ノ出入アル毎ニ加除スヘシ

第五條 新ニ營業ヲ爲ントスルモノハ戸長ノ與印ヲ受ケ所管郡役所へ願出鑑札ヲ受ケ該地組合ニ入リ取締運印ノ上所管警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第六條 改代名替轉居廢業ノ節モ前條ノ手續ヲ爲スヘシ  
但甲ノ郡内若クハ警察區内ヨリ乙ノ郡内若クハ警察區内ニ轉スルトハ甲乙ノ郡役所及ヒ警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第七條 水火盜難其他ノ事故ニテ鑑札ヲ失ヒタルキハ第五條ノ手續ニ從ヒ鑑札ヲ受クヘシ

第八條 此營業者ハ牛馬賣買帳牛馬体格帳ヲ製シ置クヘシ

第九條 牛馬賣買帳ニハ賣買ノ都度牛馬ノ産所毛色年齢代金及ヒ賣人買人ノ住所氏名年月日ヲ詳記シ賣人ノ實印ヲ捺捺セシムヘシ若シ住所氏名ヲ熟知セサル者ヨリ買入ル、時ハ証人住所氏名ヲ立テ連印セシムヘシ牛馬体格帳ニハ回達セル逃走又ハ盜難ニ係ル牛馬ノ体格ヲ詳記スヘシ

第十條 營業上他出スル時ハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第十一條 賣買ノ場合ニ於テ盜難若クハ逃走ニ係ル牛馬ト認メ又ハ賣人ノ舉動不審ト思料スル時ハ最近ノ警察署又ハ分署巡查派出所巡行ノ巡查ニ密告スヘシ

第十二條 警察官吏ハ臨時諸帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ

○斃牛馬届出ノ件

明治二十六年八月十日  
一日縣令第二十六號

斃牛馬アリタルトハ埋没若クハ燒棄解体前ニ獸醫ノ檢按書ヲ添へ所轄警察分署又ハ巡查駐在所へ届出ヘシ違フ者ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス  
但傳染病ニ罹リタルモノハ獸醫傳染病豫防規則ニ依ル

○瘋癲人取締規則

明治二十五年八月十八日  
日縣令甲第五十四號

瘋癲人取締規則左ノ通相定ム

瘋癲人取締規則

第一條 瘋癲人アル時ハ看護ノ義務アルモノヨリ醫師ノ診斷書ヲ添へ診斷ノ日ヨリ七日以内ニ所轄警察官署へ届出ヘシ若シ死亡シタルトハ埋葬前ニ所轄警察官署へ届出ヘシ

第二條 瘋癲人ヲ鎖鑰若クハ病院ニ入レ治療セントスルトキハ其事由鎖鑰ノ方法場所及建物ノ構造等ヲ記シ最近ノ親族貳名以上連署シ醫師ノ診斷書ヲ添へ所轄警察官署へ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 瘋癲人ノ居室ハ空氣ノ流通ヲ能クシ常ニ掃除ヲナスヘシ

第四條 瘋癲人ヲ虐待シ其他苛酷ノ所爲アルヘカラス

第五條 瘋癲人ヲ看診人ナクシテ徘徊セシムヘカラス



第六條 瘋癲人逃走シ又ハ全治シ若クハ鎖鑰ヲ解キタルキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ  
 第七條 瘋癲人ヲ放置シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ警察官署ニ於テ鎖鑰ヲ命スルヲアカヘシ其看護人ハ之ヲ拒ムヲ得ス

但危險ノ事態止ミ鎖鑰ヲ解カントスルキハ醫師診斷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第八條 警察官吏ハ臨時瘋癲人ノ居室ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 瘋癲人着衣ノ襟裡ニハ其住所氏名ヲ記シタルモノヲ縫付置クヘシ

第十條 本則第一條第二條第六條第七條ノ届出ヲ怠リ又ハ命令ヲ拒ミ又ハ第四條ニ違背シタルモノハ二日以上五以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス第五條ニ違背シタルモノハ刑法第四百廿六條第七項ニ依リ處分セラルヘシ

○瘋癲人取締規則取扱手續  
 明治廿五年八月十日  
 九日官第四十一號 (警)

瘋癲人取締規則取扱手續

瘋癲人取締規則取扱手續

第一條 規則第一條ノ届アリタルキハ受持巡查ニ命シ常ニ嚴密視察ヲ爲サシメ患者表ヲ作リ翌月十日限り警察部ニ送致スヘシ若シ死亡ノ届ヲ受ク疑アルトキハ臨檢スヘシ

第二條 規則第二條ノ届アリタルトキハ警察官吏ニ於テハ實地ニ臨檢シ事實又ハ鎖鑰室ノ構造等ヲ取調許スヘシ

但疑アルモノハ醫師ヲ伴ヒ診斷セシムヘシ

第三條 規則第七條ニ依リ鎖鑰ヲ命シタルトキハ室内ノ構造等ヲ取調ヘシ

第四條 規則第六條ノ届アリタルトキ又ハ第七條但書ノ届ヲ認可シタル時ハ受持巡查ニ命シ常ニ注意ヲ爲サシムヘシ

第五條 警察官署ニ於テハ受持巡查ニ命シ毎月二回以上瘋癲人ノ居室ニ臨檢其取扱方等ヲ視察セシムヘシ

明治何年何月癲患者表										何警察官署	
發病ノ月日	發病ノ原由	届出ノ月日	鎖鑰入院ノ月日	解鑰出院ノ月日	全治ノ月日	死亡ノ月日	住所ノ分業	氏名	年齢		

○墓地及埋葬取締規則細則  
 明治十八年五月四日  
 日甲第四十四號

墓地及埋葬取締規則細則

第一條 墓地ハ從前許可シタル者ニ限ル



但已ムヲ得サル事情アリテ新設廢止若クハ其區域ヲ伸縮セントスル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ第一號及ヒ第二號書式ニ倣ヒ地元長并衛生委員ノ與印ヲ受ケ出願許可ヲ受クヘシ  
一耕地宅地ニアラサル民有地ニ係ルモハ郡役所ニ出願スルモノトス  
二前項外ノ地及墓地ヲ取狹メ又ハ廢止セントスルモノハ郡役所ヲ經由シテ縣廳ニ出願スルモノトス

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ノ地ヲ隔ルルヲ凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ニ限ルモノトス

第三條 墓地ヲ取狹メ又ハ廢止スルモハ其遺骨ヲ改葬シ素地ニ復スルモノトス  
但飲料ニ供スル井ヲ穿ツヲ得ス

第四條 墓地ハ種族宗旨ヲ別カラス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第五條 傳染病虎列刺發疹死屍埋葬所ハ墓地ノ一隅ニ區畫ヲ定メ傳染病死者埋葬地ナルヲ標示スヘシ

但火葬遺骨ノ埋葬ハ本文ノ限リニアラス

第六條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非ラサル地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限リニアラス

第七條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第八條 火葬場ヲ新設廢止若クハ其區域ヲ伸縮セントスル場合ニ於テハ第一條但書ノ手續ニ從フヘシ

第九條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防ノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニテ人家隔絶ノ場所ナルモハ格別ナリトス

第十條 火葬ハ成リヘク日没後之ヲ行フヘシ

第十一條 壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ格別ナリトス

第十二條 墓地及火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ所轄警察署又ハ分署及戶長役場ニ届置クヘシ

第十三條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及ヒ生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マリ誌銘傳贊



等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ警察署ニ出願許可ヲ受クルノ限ニアラス

但碑表ハ第三號書式ニ從ヒ出願スヘシ

第十四條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ自己ノ届書ニ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ戸長ノ

認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナク死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案書  
ヲ乞ヒテ差出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差

出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

第十五條 戸長ハ前條ノ届書證書ヲ領收シタルトキハ第四號書式ニ從ヒ埋葬ノ認許證ヲ與フヘシ

第十六條 改葬ヲナサントスルモノハ第五號書式ニ倣ヒ地元戸長ノ與印ヲ受ク所轄警察署又ハ分署

ハ出願許可ヲ受ク管理者ニ其正本ヲ示シ寫シ差出スモノトス

第十七條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル戸長ノ認許證ヲ編纂シ第六號書式ノ届書ニ添ヘ毎三ヶ月

三月六月所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ受ク之ヲ戸長役場ヘ差出スヘシ

第十八條 管理者ハ墓地ノ繪圖及第七號書式ニ倣ヘ墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第一號書式 用紙半紙二通以下倣之

墓地又ハ取廣  
火葬地新設願

何國何町  
村字番地

一地目  
何々反別若干

官有地拂下ヲ請フトハ  
相當代價ヲ付スヘシ

右ハ私共(町)墓  
地(無之)(或ハ從來何地ニアルモ)(衛生上害アリ)(若クハ何々ノ事故ニテ)實

際差支候ニ付前記ノ地所ヲ以テ(墓地取廣メ)(又ハ新設)仕度候間 前書ノ代價ニテ別紙圖面 縱横間

及ヒ飲料水ノ距離ヲ記入シ隣 地ノ景狀ヲ色分記載スヘシ 相添此段奉願候也 御拂下被成下度 數人家

縣國郡町總代

年月日

氏

名印

縣令又ハ郡長宛

前書願出ニ付調査候處相違無之ニ付與書調印候也

戸長 氏

名印

第何番衛生區衛生委員

氏

名印



第二號書式

墓地又ハ廢止  
火葬場取狹メ願

何國郡町  
村字番地

一 墓地反別若干  
火葬場

右ハ私共町方從來ノ火葬場(衛生上害アリ)(又ハ何々ノ事故ニテ)(實際差支候ニ付廢止)(又ハ前記ノ反別取狹メ)ノ上素地ニ復シ度別紙圖面相添此段奉願候也

縣國郡町  
村

氏 名 印

年月日

縣令宛

前書之通願出ニ付調査候處相違無之ニ付與書調印候也

戶長 氏 名 印

第何番衛生區衛生委員

氏 名 印

第三號書式

碑表建設願

縣國郡町  
村番地身分

氏 名

右ハ祖先又ハ親戚若クハ舊友某何處何墓地ニ埋葬有之處今般該墓地へ(又ハ某ノ事蹟ヲ表スル爲メ墓地外何所へ)別紙碑表建設致シ度候間此段奉願候也

右

氏 名 印

年月日

警察署長宛

前書之通願出ニ付調査候處相違無之ニ付與書調印候也

戶長 氏 名 印

碑表 縱何尺何寸  
橫何尺何寸

誌銘傳贊等其碑表ニ刻スル全文ヲ表裏左右ヲ別テ記載スヘシ

第四號書式

火葬認許證

縣國郡町  
村番地

身分

氏 名

病名 死産ハ此項ヲ除ク妊娠何ケ  
月以上ノ胎兒ト記スヘシ



右埋  
火葬認許候也

何年月日何時死亡(死産)

年 齡

右町或ハ何村

戸長 氏

名 印

第五號書式

年 月 日

改葬 願

縣國郡町  
村番地身分

氏

名

右ハ祖先又ハ親戚其何所何墓地ニ埋葬有之候處今般何々ノ故ヲ以テ何所ニ改葬仕度候間此段奉願  
候也

右

氏

名 印

警察署長宛

前書之通願出ニ付與書調印候也

戸長 氏

名 印

第何番衛生區衛生委員

第六號書式

何年 何月ヨリ 何月 何月マテ 埋葬及火葬認許證檢閱届

氏

名 印

縣國郡町  
村番地身分

氏

名

何月何日埋葬

年 齡

全

何月何日火葬

氏

名

年 齡

合計何人内 何人埋葬  
何人火葬

右之通ニ候條御檢閱被下度別紙認許證何通相添御届申上候

縣國郡町  
村何墓地又ハ何火葬場

管理者

年 月 日

氏

名 印

警察署又ハ分署長宛



第七號書式

墓 籍

縣國郡町  
村番地身分

何年月日何時埋葬又ハ火葬或  
ハ何所ヨリ改葬主住所氏名

氏

名

年 齡

全

全

全

全

○狩獵規則ニ關スル願届ノ件

明治廿八年四月十  
九日縣令第十七號

狩獵法ニ關スル諸願届ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ但狩獵免狀請求願ニハ狩獵法施行細  
則第三條ノ事項及地租又ハ所得收納額(家族ニ在テハ戶  
主ノ納稅額共)若クハ其納稅セサル旨ヲ記入シ納稅ニ關  
シテハ市町村長ノ證明ヲ受クヘシ

○狩獵法及付屬規則執行心得

明治二十八年四月  
十八日官第三十號

狩獵法及附屬規則執行心得

第一條 警察署又ハ警察分署ニ於テ狩獵免狀請求願ヲ受ケタルトハ願人ノ身元及獵具獵法等ヲ調査

シ狩獵法又ハ同施行細則ニ照合シ不都合ナシト認ムルモノニ限り之ヲ下附スヘシ

但免狀ハ每葉原簿ト契印シ下附スヘキモノトス

第二條 警察署又ハ警察分署ニ於テ狩獵免狀ヲ下附シタルトハ其請求願書ニ免狀下附年月日及其  
級ヲ朱記認印シ之ヲ所轄收稅署ニ送致スヘシ

第三條 狩獵免狀原簿ハ別紙書式ニ據リ調製スヘシ

但免狀原簿ハ甲乙種ノ區別ヲ爲シ耳札ヲ附シ置クヘシ

第四條 狩獵者ニシテ免狀ヲ亡失毀損シ若クハ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所移轉ヲ届出テタルトキハ  
其旨原簿ニ記入シ置クヘシ

但免狀亡失地又ハ移轉他府縣管轄ニ屬スルトハ其免狀ノ種類番號族籍住所職業氏名年齢及亡失

若クハ移轉ノ年月日ヲ警察部ニ報告スベク亡失地又ハ移轉地管内他警察署又ハ警察分署管内ニ

屬スルトキハ其旨所轄警察署又ハ警察分署へ通知スヘシ

第五條 警察署又ハ警察分署ニ於テ禁獵制札建設願ヲ受ケタルトキハ其事由ヲ調査シ不都合ナシト  
認ムルモノニ限り之ヲ許可シ願人ヲシテ狩獵法施行細則第七條ニ據リ制札ヲ調製差出サシメ制文

ヲ記入シテ之ヲ交附スヘシ

第六條 警察署又ハ警察分署ニ於テ取締上禁獵制札建設ヲ必要ト認ムルトハ其事由ヲ具シ警部長ノ



指揮ヲ受クヘシ

第七條 警察署又ハ警察分署ニ於テ共同狩獵地設置願又ハ區域變更願ヲ受ケタルトキハ狩獵法施行細則第八條乃至第十條ノ規定ニ據リ場所ノ狀況及従前ノ狩獵慣行狩獵者ノ員數若クハ故障ノ有無等ヲ詳查シ利害ノ意見ヲ附シテ之ヲ警察部ニ進達スヘシ

第八條 警察署又ハ警察分署ニ於テ鳥獸ノ捕獲願又ハ驅除願ヲ受ケタルトキハ狩獵法取扱手續第七條ノ事項及捕獲又ハ驅除ヲ要スル事由及其方法等ヲ調査シ必要ト認メタルモノニ限り之ヲ許可スヘシ

前項許可シタルトキハ捕獲又ハ驅除シタル鳥獸ノ種類員數ヲ適宜届出テシメ取扱手續第二條第二項ノ書式ニ據リ合表シ翌月十日限り警察部ニ報告スヘシ

第九條 警察署又ハ警察分署ニ於テハ適宜狩獵ニ關スル臺帳ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載シ置キ増減變更アル毎ニ加除訂正スヘシ

- 一 共同狩獵地ノ位置及地種反別許可ノ年月日願人ノ族籍住所氏名並共同狩獵者ノ人員
- 二 共同狩獵地木標ノ位置建設年月日及員數
- 三 禁獵制札建設ノ場所及建設年月日建設人族籍住所氏名並ニ禁制ノ事項
- 四 營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ノ族籍住所氏名及飼養鳥獸ノ種類員數

第十條 警察署又ハ警察分署ニ於テハ毎年各種狩獵免狀ノ使用高ヲ概算シ六月三十日限り警察部ニ請求スヘシ

第十一條 前條概算ヲ以テ領收シタル免狀ノ剩餘セルモノ及期滿獵者ヨリ返納シタル免狀ハ斷裁スヘシ

第十二條 警察署又ハ警察分署ハ狩獵法取扱手續第八條ニ據リ免狀統計表ヲ調製シ甲種ハ十一月三十日マテ乙種ハ四月三十日マテニ警察部ヘ進達スヘシ

免狀獵具ノ種類	免狀下付年月日	全再渡又ハ書換年月日	全返納又ハ亡失毀損年月日	免狀番號	地租又ハ所得稅收納額	族籍住所職業	氏名	生年月日	備考
---------	---------	------------	--------------	------	------------	--------	----	------	----

○遺物取扱手續

明治二十三年四月廿五日官第七十號 (警) 明治廿年官第廿號遺失物取扱手續別冊ノ通改定ス

遺失物取扱手續

第一條 凡ソ遺失物ヲ拾得届出アルトキ其事由ヲ詳記シ取調臺帳ニ記入領收證ヲ付與シ十日間警察署分署又ハ巡查出所前ハ揭示スヘシ



第二條 拾得届出タル物品耐久シ難クシテ賣却スルモ望人ナキモノト認ムルハ直ニ得者ニ給スヘシ

第三條 拾得届出タル物品ノ價保存ノ費用ヲ償ハサルモノハ賣却シテ其代金ヲ領置スヘシ

第四條 郵便物ヲ拾得届出タルトキハ最寄郵便局ヘ交付スヘシ

第五條 應禁物ヲ拾得届出タルトキハ其旨得者ニ説キ示シ直ニ官沒スヘシ

第六條 遺失物一ケ年内物主明白ナルトキハ双方(代理ニテモ妨ケナシ)呼出シ台帳ヘ記入シテ下付スヘシ若シ物主得者ト其入費又ハ報勞金等ニ付キ争テ生シタルトキハ規則第四條ニ依リ處分スヘシ

第七條 得者ニ於テ入費並ニ報勞金ヲ辭シ又ハ物主ヨリ例外ノ謝物ヲ與ント欲スル等ハ總テ双方ノ隨意ニ任スヘシ

第八條 物主得者價額ヲ争フヨリ評價人ヲ雇入タルトキ雇料ハ一日五十錢ヲ越超スヘカラス

第九條 遺失金品拾得届出ノ日ヨリ一ケ年間所有主分明ナラサルハ拾得者ヲ喚出シ領收證ト引替

ニ其金品ヲ給與スヘシ拾得者所在不明等ニシテ物品ヲ給與スルニ由ナキトキハ之ヲ拾得者居住地ノ市長又ハ町村長ヘ引繼クヘシ(明治廿七年四月訓令) 乙第二二〇號改正

第十條 官ハ徽章アル物品又ハ印判等得者ニ給與スルハ其徽章ハ必ス除去シ印判ハ文字ヲ磨滅ス

第十一條 總テ物品ヲ賣却スルトキハ賣買代付スヘシ

第十二條 分署長ニ於テ拾得ニ係ル金錢若クハ物品ノ賣却代金ヲ領收シタルハ直ニ之ヲ本屬署長ヘ送付スヘシ(明治廿七年四月訓令) 乙第二二〇號改正

第十三條 埋藏物ニシテ古代ノ沿革ヲ徵スルモノト認メタルトキハ其旨本人ニ説キ示シ其顛末模樣等詳細警部長ニ(分署ハ所屬警察ヲ經由)具申シ押據ヲ受クヘシ

第十四條 凡價額五圓以上ノ物品又ハ金五圓以上及ヒ貴重ノ物品ト認ムル届出アリタルハ最寄警察署分署ヘ通知スルモノトス

第十五條 逃走シタル畜類ヲ捕獲シテ届出タル者アルトキハ適宜之ヲ本人又ハ他人ヘ預ケ置キ八日ヲ經過スルモ尙其所有主分明ナラサルニ於テハ之ヲ賣却シ代金ハ保管金取扱規程ニ依リ取扱フヘシ

但飼料ハ賣却代金ノ内ヨリ支辨スヘシ(明治廿七年四月訓令) 乙第二二〇號改正

第十六條 得遺失物ノ届出人部外ノモノナルハ下渡方便利ノ爲メ部内ノモノヲシテ成ルヘク代人ヲ立置カシムヘシ

第十七條 官沒シタル物品ハ每六ヶ月(一月ヨリ六月マテ)(七月ヨリ十二月マテ)ニ取纏メ警察署保



管物品取扱規程ニ依リ取扱フヘシ(明治廿七年四月訓令)

乙第二二〇號改正

第十八條 官沒金若クハ官沒物品ノ賣却代金ハ總テ諸收入收納取扱順序ニ依リ取扱フヘシ(全上)

領置品彙帳記載例

- 一 遺失物ヲ拾得届出ルトキハ別ニ書面ヲ要セス其拾ヒ得タル事由ノ大略ヲ起原ノ欄ニ記入シ届人ノ欄ニ住所氏名ヲ記載讀聞セ本人ヲシテ捺印セシムヘシ
- 一 前項領置品ノ物主分明ナルトキハ別ニ書面ヲ要セス其分明ナル事由ノ大略及ヒ還付又ハ給與シタル旨ヲ終結ノ欄ニ記入シ受取人ノ欄ニ住所氏名ヲ記シ本人ヲシテ捺印セシムヘシ
- 一 受渡ノ欄ハ其取扱主任者署名認印スヘシ
- 一 番號ハ領置彙帳ノ號ト物品領收証ノ號ト同一ニ付フヘシ
- 一 代人ヲ立置クトキハ終結代人ノ欄ニ其住所氏名ヲ記入スヘシ
- 一 物主判明ニシテ物品ヲ還付スルトキハ双方ヲ喚出シ出願シタルトキハ受取人届人トモ証印ノ欄ニ住所氏名ヲ(届人ハ氏名而已)記載証印セシムヘシ若シ届人出頭セス一方而已ニ下渡シタルトキハ備考ノ欄ニ其旨記入スヘシ
- 一 物品下渡ノトキ報勞金入費其他故障アリタルトキハ其旨備考ノ欄ニ記載スヘシ
- 一 物品ヲ賣却シタルトキハ其旨備考ノ欄ニ記載シ置クヘシ

用紙半紙

第 號		品 目		金 錢	物 品	賣 却 代 金
考 備	合 計 金 圓 何 錢	一 銀 行 壹 圓 紙 幣 一 枚	一 皮 茶 色 財 布 一 ッ	一 金 何 圓 何 錢	一 金 何 圓 何 錢	一 金 何 圓 何 錢
	合 計 金 圓 何 錢					

受	起	原	結	渡
明治何年何月何日 主任官名何某印 表面ノ金品明治何年何月何日何時何郡何町村何某前ニ於テ拾得タルニ付御届仕候(代人ヲ立テタルトキハ)但終結代人右ニ相定置候	明治何年何月何日 主任官名何某印 表記ノ金品明治何年何月何日何所ニ於テ遺失(又ハ拾得)届出タル品ニ付遺失物取扱規則ニ依リ還付又ハ給與ス	何縣何郡町村番地 何 某 印	何縣何郡町村番地 何 某 印	明治何年何月何日 主任官名何某印 前記之趣承知候也 何 某 印



第何號	領收証	屈人心得
明治何年何月何日拾得届出タル金額正ニ領收候也	明治何年何月何日	届出ノ日ヨリ一ケ年間經過ノ後三十日 内ニ本人又ハ代人此證書持參出頭スヘシ
茨城縣何々警察署	何 分 署	但事故アリ出頭スルコト能ハサル時 ハ此証ヲ添ヘ郵便ニテ届出ルモ若シ カラス

○拾得物取扱ノ件

明治二十七年五月五日訓令甲第七號

警察署又ハ警察分署ヨリ拾得者所在不分明等ニ係ル拾得物ヲ引繼キタル場合ハ失踪者遺留財産ニ準シ取扱フヘシ

○得遺失金賭場置去金賊置去

明治二十五年四月十四日訓令第四九號

(警)

得遺失金賭場置去賊置去金ニシテ數日內其交付又ハ拂出ノ見込ナキモノハ收入官吏へ送付スヘシ

○拾得金預金局へ寄托ノ件

明治二十六年一月十二日官第二號

人民拾得金ニシテ一年內主ナキ所得者ニ給セントスルモ得者ノ所在不分明ニテ交付スル能ハサルモ

ハ一旦預金局ヨリ拂戻ヲ受ケ受取人所在不明ニ付未渡金トシテ更ニ預金局へ寄托スヘシ

○茨城縣違警罪

明治二十六年四月一日縣令第三號

本縣違警罪左ノ通り改正ス

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 正當ノ理由ナクシテ官署公署ノ呼出ニ應セサル者
- 二 宿屋雇人受宿又ハ貸座敷ニ於テ屬籍氏名ヲ詐稱シタル者
- 三 届ナク外國人ヲ止宿セシメシ者
- 四 強テ合力ヲ申掛ク又ハ諸物品ヲ押賣スル者
- 五 竹木ヲ打立又ハ簀網ノ類ヲ張り舟行水流ヲ妨害スル者
- 六 神佛祭事ニ托シ強テ出費ヲ促ス者
- 七 堤塘又ハ畦畔ヲ毀損シタル者
- 八 新聞紙又ハ雜誌ノ類ヲ讀賣スル者
- 九 夜十二時後歌舞音曲ヲナシ制止ヲ肯セサル者
- 十 田野園圃ニ禽獸ノ死屍ヲ棄擲シタル者



十一毒藥劇藥其他ノ氣發物ヲ用ヒ鳥獸又ハ魚ヲ捕フル者  
十二墓地及埋葬取締規則第三條第四條第五條第六條第七條ニ違背シタル者

○河豚ノ販賣ヲ禁止ス

明治十三年九月六日  
日乙第百二十六號

河豚ヲ食フ其毒ニ中リ爲メニ非命ノ死ヲ致ス者往々有之趣相聞候ニ付自今該魚販賣之儀禁止候條此  
旨布達候事

○違警罪即決手續

明治廿一年八月十日  
八日官第六十三號

違警罪即決手續別冊之通改正ス

但明治十八年十二月本乙第百七十九號ハ廢止ス

(別冊)

違警罪即決手續

第一條 警察署長及分署長ニ於テ告訴發現行犯其他ノ原由ニ因リ違警罪アルヲ認知シ若クハ思  
料シタルトハ被告人ヲ召喚シテ事實ヲ訊問シ言渡ヲ爲スヘシ其言渡ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得  
但引致シタル被告人ハ即時ニ處分スヘシ  
第二條 犯罪ノ証憑明白ニシテ被告人ノ陳述ヲ要セスト確認シタル事件ハ被告人ヲ召喚セスシテ直  
ニ言渡書寫ヲ送達スルヲ得

第三條 再犯加重ハ違警罪裁判所ノ管轄ヲ以テ區域トス

第四條 即決例ニ依リ刑法第四百二十七條第十及明治十九年內務省令第十九號第一條乃至第四條ノ  
違反者ヲ處分シ其言渡確定シタルトハ被告人ノ族籍氏名年齢罪質刑期及言渡ノ年月日等被告人本  
籍地ノ市役所町村役場ヘ其都度通知スヘシ (明治廿二年七月十一日官第五十七號改正)

第五條 言渡書寫ハ巡查巡回ノ序ヲ以テ送達シ警察署分署所在ノ地ニ於テハ其時々小使ヲ以テ送達  
スヘシ

但送達シタルノ証ヲ取り置クヘシ

第六條 被告人家ニ在ラス又ハ同居ノ親族若クハ雇人ナクシテ言渡書寫ヲ送達スルコト能ハサル時  
ハ之ヲ其地ノ戸長ニ渡シ本人ニ送達スルノ處分ヲ囑托スヘシ

第七條 送達書ヲ受クヘキモノ他ノ管轄内ニ在ルトキハ其所轄警察署又ハ分署ニ送付シテ送達ノ囑  
托ヲ爲スコトヲ得

第八條 召喚狀ハ郵便ヲ以テ發付シ警察署分署所在ノ地ハ小使ヲ以テ送達スヘシ

第九條 拘留ハ警察署又ハ分署ノ留置場ニ入レ未決者ト別異スヘシ

但便宜最尙監獄ニ送付スルコトヲ得

第十條 科料金ハ言渡確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシメ一ヶ月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ警察本部ニ



送致スヘシ

第十一條 科料金假納金及保証金ヲ領收シタルトキハ証書ヲ付與スヘシ  
第十二條 即決ニ關スル書式ノ一班ヲ示スコト左ノ如シ

告發書

何府縣郡町村番地

身分職業

何

某

何年何ヶ月

右ハ明治年月日午前午後時巡回ノ際何ノ所ニ於テ何々タルヲ撞見シタルニ付住所氏名ヲ聽キタル  
上之レヲ放還シタリ其處爲刑法何條ニ該ル違警罪ナリト思料スルヲ以テ告發候也

何警察署又ハ分署ニ於テ

巡查 氏

名印

年月日

何警察署長又ハ分署長官氏名殿

此ノ告發ニ因リ(喚出引致)シタル被告人ニ對シ左ノ訊問ヲ爲シタリ

問 氏名年齢身分職業住所及出產ノ地ハ如何

答

問 曾テ違警罪ノ刑ヲ受ケタルコトナキヤ

答

問 何々ヲ犯シタル事實ハ相違ナキヤ

答

右讀聞ケタルニ相違ナキ旨申立(左ニ共ニ署名捺印セリ手署能ハサルニ付本職代書共ニ捺印セリ)

何警察署又ハ分署ニ於テ

官 氏

名印

被告人 氏

名印

召喚狀

何府縣郡町村番地

身分職業

何

某

右何々事件ニ付尋問ノ筋有之候條即刻(又ハ何日前后何時)此呼出狀持參當署へ出頭可致者也

但代人ニテモ苦シカラス



明治何年月日時署印

何警察署長又ハ分署長  
警部 何

某印

言渡書

何府縣郡町村番地

身分職業

何

某

何年何月

右明治何年月日午前后何時頃隣家何某方ノ招キニ應シ兼テ知り合ナル何某ト出合ノ末何某カ汝ニ對シ失言セリトテ遽カニ怒氣ヲ發シ遂ニ手ヲ以テ何某ノ頭部ヲ毆打シタルコトハ現場ニ於テ認メタル巡查ノ告發書汝カ任意ノ白狀ニ依リ証憑明了ナリトス  
右所爲ハ刑法第四百二十五條第九項ヲ犯シタルモノニ付三日ノ拘留ニ所シ何々ノ物件ハ犯罪ノ用ニ供シタルヲ以テ刑法第四十三條ニ依リ沒收スルモノ也  
但此ノ言渡ニ對シ何日内ニ正式ノ裁判ヲ請求スルヲ得

何警察署長又ハ分署長

警部 何

某印

明治何年月日

免訴言渡

右何年月日何々シタル事件取調ヲ爲ス所期滿免除ニ係ルヲ以テ免訴ヲ言渡ス者也

年月日

無罪言渡

右何年月日何々シタル事件取調ヲ爲ス所證憑充分ナラス又ハ犯罪ノ證憑ナキヲ以テ無罪ヲ言渡ス者也

年月日

管轄違言渡

何々事件ハ管轄違ナルヲ以テ何警察署又ハ分署ハ移ス者也



年月日  
命令書

何府縣郡町村番地身分職業

何 某

右明治何年月日科料金何圓何錢ノ言渡ヲ受テ其言渡確定ノ日ヨリ十日以内ニ納完セサルヲ以テ金壹圓ヲ一日ニ折算シ拘留何日ニ換フルモノ也

年月日

科料金假納セサル者留置命令書

右科料金若干假納セサルニ付違警罪即決例第九條ニ依リ何日間留置スルモノ也

年月日

保證金差出ザル者留置命令書

右拘留何日ニ處シ其刑期相當保證金若干出サ、ルニ付違警罪即決例第十條ニ依リ何日間留置スルモノ也

年月日

保證金ヲ本刑ニ換フル命令書

右拘留何日ノ言渡ヲ受保證金若干ヲ差出タル處其言渡確定シタルモ出庭シテ執行ヲ受サルニ付違警罪即決例第十一條ニ依リ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フル者也

年月日

違警罪裁判所檢察官へ書類送致書



右當者ニ於テ何々事件ニ付即決ヲ爲シタル所正式ノ裁判ヲ求メタルニ付一件書類及御送致候也  
但(科料金若干假納保證金若干領收)有之候也又ハ(科料金若干假納セサル保證金若干差出サ、  
ル)ニ付刑期間留置シタル者也

年 月 日

第十三條 即決ニ關スル書類ハ三日以内ニ之ヲ整頓シ每件番號ヲ附シテ保存スヘシ

○郵便脚夫違警罪處分ノ件

明治十三年十月六日  
日乙第九十八號

(警)

郵便脚夫郵便物遞送途中違警罪ヲ犯シ候節拘引致シ夫レカ爲メ郵便物遞送ノ時間ヲ妨ケ候テハ公衆  
ノ便チ欠キ候儀ニ付以來右等ノ場合ハ其氏名ヲ聞置キ追テ本犯取調候様可致此段相違候也

○富興行類似ノ業禁止ノ件

明治十五年九月廿二日  
日乙第四百一十一號

富興行類似請會ノ儀ニ付テハ屢々相違置候儀モ有之處近來種々ノ名義ヲ掛ヘ財物ヲ醜集シ僥倖ノ利  
ヲ以テ民心ヲ誘惑スルノ所爲有之哉ニ相聞不都合ノ次第ニ付向後右様ノ所業一切不相成候條此旨布  
候事

○無盡賴母子講處分心得

明治十九年六月三十日  
日本乙第九十四號

(警)

無盡賴母子講所分心得

無盡賴母子講ノ性質ハ親戚朋友等ノ情誼ヲ以テ結約シ滿期ニ至ル迄會員増減セス遺漏ナク金額ヲ所  
得スヘキ方法ニ外ナラザルナリ故ニ警察本分署ニ於テ左ノ所爲アリト認ムル者ハ之レヲ差止ムヘシ

一無盡賴母子講又ハ富興行類似會員ノ増減又ハ籤ノ當否ニ依リテ金員所  
得多寡アルモノ、類ノ所業ヲ爲スモノ

二講會ノ方法ヲ廣告シ會員ヲ募リ其他ノ方法ニ據リ遍ク誘導及僥倖ノ利ヲ圖ルモノ

三糶圖ニ依リテ生スル利益ヲ目的トシ講會ノ期限ヲ假定スル如キ總テ僥倖ノ利ヲ目途トシ其規則

方法ノ實着ナルモノト確認スハカヲサル者

無盡賴母子講之儀ニ付縣達ノ趣モ有之候所尙其利益ヲ僥倖シ該達ニ違背ノ所業ト認ムヘキ摘要左ニ  
列記候條其實際ニ依リ利害ヲ審按シ不都合ノ点アリト認ムルハ急度説諭ヲ加ヘ彼等ヲシテ可成的  
法網ニ罹ラザル様深ク注意可有之此段及御達候也

違背摘要

一會數ヲ確定セス糶圖又ハ糶金ノ法ヲ設ク掛金合額滿會ヨリ非常ニ超過スルノ金員ヲ取ルヲ得  
ルヲ目的トシ或ハ圖數ヲ確定セス每會之ヲ増減シ其間ニ利益ヲ僥倖スルヲ圖ルモノ

假令ハ掛金壹圓ツ、圖百本集金百圓内當圖六拾圓糶金貳拾圓雜費拾圓トシ糶金ヲ僅四五圓又

ハ六七圓ニテ每會數十本糶出サシメ會數ヲ減ス會數減スルニ從ヒ掛金ノ度數減スルカ故ニ僅

六二十圓又ハ二十五圓ヲ掛クテ當圖六十圓ヲ得ラル、ノ方法ヲ立テ利益ヲ僥倖セシメ或ハ規



則ニハ圖數ノ概略ヲ定メ置キ每會之ヲ増減シ其間ニ會主世話人等カ不正ノ利ヲ圖ラントスルノ數ヲ云フ

一引札或ハ廣告書ヲ願テ周旋人ヲ設ク加入ヲ誘導スルモノ

假令ハ一人ヲ加入セシムレハ周旋料何程トシ或ハ何本ヲ加入セシムレハ圖一本ヲ周旋料トシ

テ掛金ナシニ周旋人ニ與ヘ加入ヲ勸誘シ其實富籤ヲ賣ルニ均シキノ類ヲ云フ

一會主或ハ世話人等ニ於テ加入者ノ郷貫氏名ヲ詳記シ置カス或ハ加入者ト確實ナル契約ヲナサ、ルモノ

假令ハ何某周旋方何本トノミニテ加入者ノ誰タルヲ知ラス或ハ事故アリテ滿會ニ至ル能ハサルモハ掛金ハ如何シテ償還スルトガ誰ノ損失トカノヲ明定セサルノ類ヲ云フ

○司法警察仮手續

明治二十三年十一月  
四日官第百三十號 (警)

司法警察仮手續別冊ノ通相定ム

司法警察仮手續

第一章 総則

第一條 司法警察官犯罪ヲ捜査シ及ヒ仮豫審ヲ行フニハ此手續ニ依リ可シ

第二條 司法警察官犯罪事件ヲ檢事ニ送致スルニハ左ノ區別ニ從フヘシ

區裁判所へ送致ス可キ犯罪事件

第一 違警罪

但即決例ニ依リ即決ニ付スヘキ刑事ヲ除ク

第二 左ニ記載スル輕罪

刑法第三百廿二條

全 第三百廿六條 第二項

全 第三百四十三條

全 第三百三十二條

全 第二百七十六條

全 第三百一一條 第三項

全 第二百四十九條

全 第二百四十八條 罰金ノ刑ニ處スル分

全 第二百五十條

全 第二百五十四條

全 第二百五十六條

重禁錮十一日以上二月以下

附加罰金二圓以上二十圓以下

重禁錮十一日以上一月以下

附加罰金二圓以上五圓以下

輕禁錮十五日以上二月以下

附加罰金二圓以上二十圓以下

輕禁錮十一日以上一月以下

重禁錮十一日以上二月以下

輕禁錮十一日以上二月以下

附加罰金二圓以上二十圓以下

全 全 全



刑法第二百七十二條 全 全  
 全 第三百十八條 全 罰金五圓以上五十圓以下  
 全 第三百八十一條 全 全  
 全 第二百四十九條 全 罰金貳圓以上五十圓以下  
 全 第三百十九條 全 罰金四圓以上四十圓以下  
 全 第七十九條 全 全  
 全 第八十條 全 全  
 全 第二百五十九條 全 全  
 全 第二百六十三條 第二項 全 全  
 全 第二百五十條 全 罰金三圓以上三十圓以下  
 全 第二百五十三條 全 全  
 全 第二百五十八條 全 全  
 全 第四百十九條 罰金ノ刑ニ 〇  
 處スル分 〇  
 全 第四百二十一條 全 〇  
 但附和 隨行者 罰金貳圓以上二十圓以下  
 全 第三百二十七條

全 第二百五十條 第一項 全  
 全 第六十條 全  
 全 第七十六條 全  
 全 第九十九條 全  
 全 第二百三十一條 全  
 全 第二百六十三條 第一項 全  
 全 第三百八十五條 罰金ノ刑ニ 全  
 處スル分 全  
 全 第三百八十六條 全 全  
 全 第四百九條 全 全  
 全 第四百十八條 罰金ノ刑ニ 全  
 處スル分 全  
 全 第四百二十三條 全 全  
 但附和 隨行者 罰金二圓以上五圓以下  
 全 第三百三十六條 全 全  
 第三 左ニ記載シタル輕罪ニシテ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セズト  
 認メタルモノ  
 刑法第一百五十七條 第一項 重禁錮二年以上二年以下  
 附加罰金二十圓以上二百圓以下



全 第二百八十五條 第一項	重禁錮二月以上二年以下 附加罰金五圓以上五十圓以下
全 第二百八十六條 全	重禁錮二月以上二年以下 附加罰金四圓以上四十圓以下
全 第二百四十七條	重禁錮二月以上二年以下 附加罰金三圓以上三十圓以下
全 第二百六十五條 第一項	全
全 第二百二十三條	重禁錮二月以上二年以下 附加罰金二圓以上二十圓以下
全 第二百六十二條	全
全 第二百六十三條	重禁錮一月以上二年以下 附加罰金二圓以上二十圓以下
全 第四百十三條	重禁錮一月以上一年以下 附加罰金十圓以上百圓以下
全 第二百五十七條 第二項	重禁錮一月以上一年以下 附加罰金五圓以上五十圓以下
全 第二百二十三條	全
全 第二百二十三條	重禁錮一月以上一年以下 附加罰金四圓以上四十圓以下
全 第二百八十四條	全
全 第七十八條	重禁錮一月以上一年以下 附加罰金三圓以上三十圓以下

全 第二百十五條	全
全 第二百四十四條	全
全 第二百十條 第二項	重禁錮一月以上一年以下 附加罰金貳圓以上貳十圓以下
全 第二百十八條 第二	全
全 第二百六十四條	全
全 第二百四十六條	全
全 第二百五十四條	重禁錮一月以上一年以下 附加罰金貳圓以上拾圓以下
全 第四百一號	重禁錮十一日以上一年以下 附加罰金貳圓以上十圓以下
全 第二百六十一條	重禁錮一月以上六月以下 附加罰金五圓以上五十圓以下
全 第二百六十二條	全
全 第二百六十七條	重禁錮一月以上六月以下 附加罰金三圓以上三十圓以下
全 第二百七十條	全
全 第二百七十一條	全
全 第二百二十六條 第一項	重禁錮一月以上一年以下 附加罰金貳圓以上貳拾圓以下
全 第三百五十二條	全



全 第四百二十條 重禁錮一月以上六月以下  
 全 第四百二十二條 附加罰金貳圓以上二十圓以下  
 全 第三百五十八條 第二 重禁錮十五日以上六月以下  
 全 第二百十四條 重禁錮十五日以上六月以下  
 全 第三百六十四條 第一項 附加罰金五圓以上五十圓以下  
 全 第二百二十九條 第一項 重禁錮一月以上三月以下  
 全 第二百二十條 第三 附加罰金二圓以上十圓以下  
 全 第二百六十八條 重禁錮一月以上三月以下  
 全 第二百六十九條 附加罰金二圓以上十圓以下  
 全 第二百七十八條 全 重禁錮十五日以上六月以下  
 全 第二百七十九條 全 附加罰金五圓以上五十圓以下  
 全 第三百五十八條 第一 重禁錮十一日以上三月以下  
 全 第三百六十條 附加罰金三圓以上三十圓以下  
 全 第三百七十七條 輕禁錮二月以上二年以下  
 全 第二百三十四條 附加罰金五圓以上五十圓以下  
 附加罰金三圓以上三十圓以下

全 第二百三十三條 輕禁錮一月以上一年以下  
 全 第二百五十一條 附加罰金二圓以上二十圓以下  
 全 第二百七十三條 輕禁錮二日以上六月以下  
 全 第二百五十二條 附加罰金十圓以上五十圓以下  
 全 第二百八十三條 輕禁錮十日以上六月以下  
 全 第二百七十七條 輕禁錮十五日以上三月以下  
 附加罰金十五圓以上三十圓以下  
 全 第三百七十四條 第一 重禁錮二月以上二年以下  
 全 第三百七十四條 第一 重禁錮二月以上二年以下  
 全 第四百七條 全  
 全 第三百八十九條 重禁錮一月以上二年以下  
 全 第三百九十五條 全  
 全 第三百七十三條 重禁錮一月七日以上一年三月以下  
 全 第三百七十二條 重禁錮一月以上一年以下  
 全 第二百四十二條 全  
 全 第三百一一條 第二項 全



- 全 第三百三十六條 全
- 全 第三百七十二條 全
- 全 第三百七十三條 全
- 全 第三百七十二條 第一項 重禁錮一月以上六月以下
- 全 第三百三十條 全
- 全 第三百九十六條 全
- 全 第三百五十五條 重禁錮十五日以上六月以下
- 全 第三百四十條 全
- 全 第三百七十一條 重禁錮十一日以上六月以下
- 全 第四百十九條 禁錮ノ刑ニ處スル分 全
- 全 第四百二十一條 全
- 全 第三百八十五條 全 重禁錮十一日以上三月以下
- 全 第三百八十六條 全
- 全 第四百十八條 全
- 全 第二百四十六條 全 輕禁錮一月以上一年以下

- 全 第二百四十八條 全 輕禁錮十五日以上六月以下
- 全 第二百四十六條 全 罰金二十圓以上二百圓以下
- 全 第二百九十條 全
- 全 第三百十七條 全

他ノ法律規則ニ罰例アルモノハ總テ右ノ例ニ準ス可シ

地方裁判所へ送致ス可キ犯罪事件

第一 區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ輕罪ヲ除キ其他總テノ輕罪

第二 重罪

第三條 司法警察官ノ作ル可キ書類ハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ自カラ署名捺印シ且ツ每葉ニ契印ス可シ若シ官署ノ印ヲ用ルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ

第四條 人民ニ於テ司法警察官ニ差出ス可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ司法警察官ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除ク外立會人代署シ且ツ其事由ヲ記載スヘシ

第五條 司法警察官其他何人ニ限ラス書類ノ正本謄本ヲ作ニルハ文字ヲ改竄ス可ラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印スヘシ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字体ヲ存シ其



數ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタルトキハ變更増減ノ効ナカル可シ

第六條 巡查ノ作ル可キ書類ハ司法警察官ノ作ル可キモノニ同シ

但シ官署ノ印ヲ用ヒルコトヲ要セス

第七條 司法警察官ノ蒐集シタル訴訟記録ハ左ノ順序ニヨリ之ヲ綴ル可シ

第一 送致狀〔附錄第一〕  
〔號參考〕

第二 送致目錄

第三 意見書

第四 告訴告發ニ關スル書類

第五 証人參考人調書若クハ始末書

第六 臨檢調書家ノ搜索書及物件差押目錄若クハ仮下請書及保管書

第七 被告調書

第八 令狀及令狀執行ニ關スル書類

第九 原籍表

第八條 司法警察官ハ左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ地方裁判所檢事ニ報告ス可シ

第一 刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ニ關スル罪

第二 皇族ノ犯シタル罪

第三 官吏及公吏ノ犯シタル重輕罪

第四 華族及ヒ帶勳有位者ノ犯シタル重輕罪

第五 貴族院衆議院及府縣會ノ議員ノ犯シタル重輕罪

第六 外國人ノ犯シタル罪及外國人ニ對シ犯シタル罪

第二章 非現行犯

第九條 司法警察官告訴告發其他ノ原因ニ依リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキ

ハ第十條乃至第十四條ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 書面ヲ以テ告訴告發ヲ受ケタル場合ニ於テ其書面ニ明瞭ナラサル廉アルキハ本人ニ付キ訊

問ヲ爲シ其調書ヲ作ル可シ

第十一條 口述ヲ以テ告訴告發ヲ受ケタル場合ニ於テハ司法警察官其口述ヲ筆記シ本人ニ讀聞セ共

ニ署名捺印スベシ

前項ノ筆記ニ明瞭ナラサル廉アルキハ本人ニ付キ訊問ヲ爲シ別ニ其調書ヲ作ル可シ

第十二條 前二項ノ規定ハ代人ヲ以テスル告訴告發ニモ亦之レヲ適用ス



第十三條 司法警察官前數條ノ手續ヲ爲シタルトハ巡查ヲシテ一應其事實ヲ捜査セシムヘシ  
捜査ノ命ヲ受ケタル巡查ハ犯罪ノ起因其實行及其結果ニ付キ詳細ノ捜査ヲ遂ケ其事實ヲ具狀書ニ  
認メ之ヲ司法警察官ニ差出ス可シ

第十四條 司法警察官巡查ノ具狀書ヲ受取リタルトキハ訴訟記録ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送  
致ス可シ

但意見アリトキハ意見書ヲ添付ス可シ

第十五條 前條ノ送致ヲ爲シタル後ト雖モ必要ノ捜査ハ尙ホ之ヲ續行スヘシ

但檢事ヨリ起訴又ハ棄却ノ通知アリタルトハ此限ニアラス

第十六條 前條但書ノ場合ト雖モ檢事ヨリ指揮アルトハ更ニ捜査ヲ續行ス可シ

第十七條 新聞其他世間ニ喧傳シタル原因ニ依リ犯罪アリタルコトヲ知リタルトキハ又前三條ノ手  
續ヲ爲スヘシ

第三章 現行犯

第十八條 重罪輕罪違警罪ヲ問ハス現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際發覺シタル罪ヲ現行犯ト云フ

第十九條 重罪輕罪ニ付左ノ場合ハ現行犯ニ準ス

第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、ト

第二 兇器贓物其他ノ物件ヲ攜帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キ  
ト

第三 家宅ニ於テ犯シタル罪ヲ檢証スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キモノヲ逮捕スル爲メ戸主ヨ  
リ官吏ニ其處分ヲ求メタルト

第二十條 巡查其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルト  
ハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕シ司法警察官ニ引致ス可シ

罪金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトハ被告人ノ氏名住所ヲ手帖ニ錄  
取シ地方裁判所ニ屬ス可キ事件ニ付テハ地方裁判所檢事ニ區裁判所ニ屬ス可キ事件ニ付テハ區裁  
判所檢事ニ即決ニ付ス可キ事件ニ付テハ警察署又ハ分署ニ告發ス可シ且其氏名分明ナラス又ハ逃  
亡ノ恐レアルモノハ同時ニ引致スルコトヲ得

第二十一條 司法警察官ハ巡查又ハ其他ノ者ヨリ現行犯ノ被告人ヲ受取リタルトハ逮捕及告發ニ付  
テ調書ヲ作ル可シ

第二十二條 司法警察官ニ於テ豫審判事及ヒ檢事ニ先立テ重罪輕罪違警罪ノ現行犯罪アルコトヲ知  
リ且ツ其事件急速ヲ要スルトハ一面檢事ニ急報シ一面依豫審ニ着手ス可シ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ其事件重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ナルトハ令狀ヲ待タスシテ



被告人ヲ逮捕スヘシ

第二十四條 司法警察官ハ現行犯ノ場合ニ於テ犯所ノ臨檢ヲ必要トスルモ直ニ現場ニ出張シ巡査若クハ相當ノ立會人ヲ得テ檢證調書ヲ作ル可シ

檢證調書ニハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ模様ヲ記載ス可シ  
〔附錄第二〕又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ付テモ亦同シ  
〔號參考〕

第二十五條 前數條ノ場合ニ於テ必要ナルモ拘引狀ヲ發スルヲ得 刑事訴訟法第七十二條參看

第二十六條 被告人證人若クハ參考人ノ訊問ヲ必要トスルモ之ヲ訊問スルヲ得

但シ宣誓ヲ命ジ又ハ罰金及ヒ費用倍償ノ言渡ヲ爲スヘカラス

第二十七條 鑑定人ノ鑑定ヲ必要トスルモ亦前條ニ同シ〔附錄第三〕但死体ヲ解剖シ及ヒ墳墓ヲ發掘スルヲ得ス  
〔號參考〕

第二十八條 被害人又ハ證據物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身体若クハ此者等ニ屬スル物件ニ付キ搜索ヲ必要トスルモ之ヲ搜索スルヲ得

第二十九條 被告人ノ住所又ハ證據物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住所ヲ搜索スルヲ得必要トスルモ之ヲ行フヲ得但家人又ハ市町村長ノ立會ヲ要ス

家宅搜索ハ日出前日没後之レヲ爲スヲ得ス但旅店割烹店其他夜間ト云ヘル衆人ノ出入スル場所

ニ付テハ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ搜索ヲ爲スヲ得

第三十條 臨檢又ハ搜索ニ據リ發見シタル物件又ハ被告人ノ携帶シタル物件ニシテ犯罪ノ事實ヲ証明スルニ足ル可シト思料シタルモ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ差押ヘシ被告人ノ保有ニ係ル贓物モ亦同シ

第三十一條 物件ヲ差押ルニハ搜索調書及ヒ差押目錄ヲ作ル可シ〔附錄第四〕  
〔號參考〕

第三十二條 差押タル物件ニシテ送致ヲ必要ト認メサルモノハ仮下受書ヲ徵シ占有者若クハ所有者ニ下付シ又ハ保管書ヲ徵シテ相當ト見認ムル者ニ保管セシムルコトヲ得

第三十三條 司法警察官ハ何レノ場合ニ於テモ被告人カ犯罪ニ依リ得タル金圓物件ニシテ既ニ他人ニ交付シタル者若クハ其交付シ若クハ仮下クヲ爲スヲ得ス

第三十四條 犯所ノ臨檢家宅ノ搜索證據物件ノ差押ニ關シ一日ニ處分ヲ終ラサルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヲ得

第三十五條 被告人ニ於テ犯所ノ臨檢家宅ノ搜索物件ノ差押ニ立會又ハ代人ヲシテ立會セシムルヲ請フ場合ニ於テ司法警察官差支ナシト思料スルモ其求メテ許ス可シ

第三十六條 司法警察官前數條ノ處分ヲ終リタルモ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ管轄裁判所ノ檢事ニ送致シ且逮捕シタル被告人又ハ差押タル物件アルモ其ニ之ヲ送致ス可シ



第三十七條 被告人ヲ送致スルニハ巡查ヲ以テシ物件ヲ送致スルニハ便宜ノ處分ニ依ル可シ  
第三十八條 前條ノ送致ヲ爲ス巡查ハ其裁判所閉廳中ハ檢事局員ニ引渡シ閉廳後ハ宿直員ニ引渡ス可シ但シ檢事ヨリ令狀執行ノ命ヲ受ケタルトハ直ニ之ヲ執行ス可シ

第三十九條 司法警察官前條ノ送致ヲ爲シタル後云ヘモ未ダ取集セサル證憑又ハ未ダ逮捕セサル被告人アリトハ引續キ其捜査ヲ爲ス可シ但シ檢事ヨリ起訴又ハ棄却ノ通知アリタルトハ此限ニアラス

第四十條 前條但書ノ場合ト雖モ檢事ヨリ指揮アルキハ更ニ捜査ヲ續行ス可シ

第四章 令狀執行

第四十一條 司法警察官ハ檢事ヨリ令狀執行ノ指揮アルキハ部下ノ巡查ニ命シテ之ヲ執行セシム可シ即時執行シ能ハサルトキハ一面ハ其事由ノ檢事ニ報告シ一面ハ其令狀ノ執行ヲ續行ス可シ

第四十二條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ令狀ヲ受ク可キ者ノ所在ヲ精密ニ捜査シ成可ク之ヲ執行ス可シ

第四十三條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ之ヲ執行シタルキハ執行シタルトキ又執行スル能ハサルトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ但シ執行シ能ハサルキハ巡查ノ復命書ヲ添付ス可シ  
令狀執行ニ關スル總テノ書類ハ令狀ノ正本ト共ニ司法警察官ノ手ヲ經テ之ヲ檢事ニ差出ス可シ

第四十四條 令狀ヲ受ク可キ者其家宅若クハ他人ノ家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其他ノ市町村長又ハ其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ  
前項ノ場合ニ於テハ令狀ヲ受ク可キ者ヲ發見シタルト否トニ拘ハラヌ搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

第四十五條 家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅店割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 巡查令狀ヲ受ク可キ者ヲ追跡シ他管内ニ入りタルトキハ其地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ差出シテ即時ニ其令狀ノ執行ヲ求ム可シ

第四十七條 令狀ヲ受ク可キ者現役ニ服スル下士以下ノ軍人軍屬ナル時ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示シ其承諾ヲ得テ執行ス可シ

第四十八條 巡查令狀ヲ執行シタルトキハ其者ヲ所屬警察署若クハ分署ニ引致シテ司法警察官ノ指揮ヲ請フ可シ

第四十九條 司法警察官巡查ヨリ令狀ノ報行ヲ受ケタル者ヲ受取タルトキハ巡查ヲシテ其ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致セシム可シ

第五十條 前條ノ送致ヲ爲ス巡查ハ其裁判所閉廳中ハ檢事局員ニ引渡シ閉廳後ハ宿直員ニ引渡ス可シ



シ更ニ令狀執行ノ命アルトキハ直ニ之ヲ執行ス可シ  
附録第一號

備	送 致 狀 第 號	
	罪 名	現 狀
告 白	右及御送致候也	
	年月日 水戸 檢事 殿 茨城縣何警察署 警部	
	被 告 人	

考

附録第二號

檢證調書

明治何年何月何日茨城縣何郡何村大字何平民氏名ハ自宅ニ於テ強盜犯者ノ爲メ殺害サレタリトノ報  
告ニ接シタルヲ以テ本職ハ同日午後何時何分該地ニ臨ミ何ノ某何ノ某立會ノ上檢證スル左ノ如シ  
被害者氏名ノ住宅ハ茨城縣何郡何村大字何々番地ニシテ該村落ノ中央ニ位シ南方ニ何街道ヲ控ヘ  
東西及北方ハ人家ニ接シ間口何間奥行何間屋根ハ萱葺家屋ノ構造ハ平屋造ナリ家中間數ハ六疊ノ間  
三間四疊ノ間二間及疊所等ニシテ別紙圖面ノ通ナリ而シテ屍体ハ右住宅奥ノ六疊間ト厠間トノ間ナ  
ル四疊敷ノ小室内ニ在リテ屍体ノ周圍及奥六疊ノ間等ノ疊ニ血液ノ甚ク附着スルヲ見ル  
屍体ハ頭首ヲ北ニシ仰臥セリ左手上肢ハ屈折シテ胸部ニ措キ手掌ヲ緊握シ下肢ハ左右共展伸併行セ  
リ頭部ハ異狀ナク顔面ハ蒼白ニシテ双眼半開ス結膜ハ左右共ニ蒼白色ヲ呈シ瞳孔散大セリ鼻腔ハ僅  
微ノ血液漏洩スルノ他異狀ナク口腔ハ齒牙緊閉スルヲ以テ腔内檢査スルニ由ナシ



傷部ハ前頸部中央線喉頭ノ上部ニ於テ長サ五仙迷深サ甲狀軟骨ノ前壁ヲ斷テ刺創一ヶ所右胸部第三肋骨ト第四肋骨トノ中央ニ於テ長サ五仙迷深サ肺ニ達セル刺創一ヶ所アリテ前頸部以下腹部ニ至ル間血痕ノ付着シアルヲ見ル茲ニ於テ醫師某ニ鑑定ヲ命ス

右死休傷所ノ景狀及ヒ醫師某ノ鑑定書等ニ依ルニ兇行者ハ被害者前部ヨリ何レモ銳利ナル刀刃ノ呼キ物件ヲ以テ創傷シ胸部刺創ノ爲メ窒息ニ依テ死ニ至リタルモノト思料セリ

次ニ各室ヲ檢スルニ奥六疊ノ間ニ於テハ北ノ方壁ニ接シ差置アル桐箆笥抽斗悉キ抜ク出シアリテ衣類等其内外ニ散乱シ且ツ諸所ニ血痕ノ印セル足跡ヲ見ル中六疊ノ間ニ於テハ奥六疊ノ間ト同ク血痕ノ印セル足跡ヲ見且ツ奥六疊ノ間ト境スル敷居ニ接シタル疊ニ刀劔ヲ穿キ立タル痕跡何ク所アリ其傍ニ於テ麻繩二筋ヲ發見ス表六疊ノ間ニ於テハ僅一血痕ノ散付シアルヲ見且ツ南ノ方表三枚建雨戸中央ナル一枚ヲ破壞シアリテ此所ヨリ賊ノ出入シタル形蹟アリ表四疊ノ間及臺所等ニハ別ニ異狀ヲ見ス

因テ家人ヲ訊問スルニ別紙調書ノ如ク最初賊ハ表六疊ノ間表雨戸ヲ破リ押入ントスル模様ナルヲ以テ被害者ハ寢所ナル奥六疊ノ間ヨリ立出テ之ヲ防カントスルニ既ニ賊三人ハ雨戸ヲ破リ抜刀ヲ携ヘ押入來リ中六疊ノ間ニ於テ被害者カ盜賊入りタリト聲立テタル所突然賊ニ頭部胸部等ヲ刃傷サレタル爲メ被害者ハ奥四疊ノ間ニ逃ケ入りテ斃レ續テ賊三人ハ奥六疊ノ間ニ來リ被害者妻及雇人某等ヲ

麻繩ニテ縛シ聲ヲ立ルニ於テハ斬リ殺スベシト脅迫シタル上箆笥抽斗ヲ搜索シ衣類何点及小抽斗ニ入レ置タル紙幣何十圓ヲ奪取リ最初入りタル表口ヨリ立去リタル旨且中六疊ノ間ニ於テ發見シタル麻繩ハ賊カ家人ヲ縛シタル品ナリト申立タリ

右麻繩二筋ハ證據物件トシテ之ヲ差押ヘ其目錄ヲ調製シタリ

以上檢證スル所ニ依ルニ賊ハ三人ニシテ刀劔ヲ携ヘ表雨戸ヲ破壞シテ家内ニ押入り被害者ニ刃傷タル上財物強奪シ逃走シタルモノト思料セリ

檢證ノ時間ハ明治何年何月何日午前何時何十分ニ始マリ同何時何十分ニ終ル

因テ此調書ヲ作り本官等共ニ署名捺印スルモノナリ

但出張先ニ係ルヲ以テ廳印及官印ヲ用ヒス明治何年何月何日何縣何郡何村大字何々ニ於テ

官 氏 名  
 立會人 氏 名  
 同 氏 名

附錄第三號

茨城縣常陸國東茨城郡西方村大字  
 酒門十一番地平民農



明治廿二年八月廿四日豫審判事檢事並警察官立會ノ上同日午前六時二十分右南條北八ノ死体檢査ニ着手シ同十二時二十分ニ終ル左ニ其症狀及結果ヲ明記ス

一 屍体近傍ノ狀況 屍体存在ノ場所ハ茨城縣東茨城郡常磐村字榎本ナル地所即チ前澤某ノ稻田内ニシテ此所ヨリ北凡ソ一丈八尺ヲ隔テ一條ノ細路アリ路上ハ短芝ヲ密生ス此芝ノ上ニ濃厚且ツ凝固セル動脈性ノ大血斑アリ而積殆ト四十仙迷ノ不正方形ニシテ深サ三仙迷半芝ヲ通シテ地下ニ侵入シ此血斑ト屍体ノ間ハ足跡ノ連絡ヲ通ス且ツ該田ノ水量二寸有餘アリ

二 衣服ノ狀況 屍体ノ着セル一枚ノ單衣ハ不整錯乱シテ七個ノ切痕ヲ呈ス其位置長短及方向ハ共ニ殆ト肩背腰部ノ切傷ニ符合ス且此等ノ切痕ノ周縁ハ悉ク血染ヲ呈ス

三 屍体ノ模様 死体ハ頭ヲ北(大血斑所在ノ方向)ニ向ケテ伏臥シ顔面及鼻尖ハ壓平シ左右上肢ハ開放シテ手ヲ握リ下肢ハ直伸併行セリ(十字形)

四 死後ノ變化 全身ノ後半分ハ蒼色ヲ呈シ前而即チ水中ニ浸淡セシ部ニシテ四肢殊ニ手掌足趾ハ白色粟起ヲ呈ス胸腹ハ腐敗瓦斯ニ依テ稍々膨脹シ下腹ノ一部淡綠色ヲ現ハシ胸部ニ大ナル綠紫淡色ノ腐敗斑点ヲ存ス顔面モ又白色ヲ呈シテ少ク膨大シ所々ニ表皮ノ剝奪ヲ視ル此死体ノ軀幹及四肢

ハ尙ホ中度ノ強直ヲ存ス

五 軀幹ノ切傷 此切傷ノ總數八個アリ此場各個ニ就テ觀察スルキハ左程ノ重傷ニアラスト雖モ各傷ヲ總合シテ傷度ヲ推測スレハ隨分重傷ト云ハサルヲ得ス皆チ背後ノ左側ニ在リテ其方向軀幹ノ縱線ニ一致ス或ハ斜位ヲ呈シテ左上右下ノ方向ヲ取ルモノアリ創口一般ニ哆開シテ多クハ凝血ヲ含ミ傷部ノ筋肉及蜂窩組織ニ血液滲出シテ赤褐色ヲ呈シ傷部平等ニシテ不正ナラス且各傷ノ周圍ニ腫起及變色(皮下溢血)ヲ視ル則チ八個切傷部位及傷度左ノ如シ

- 甲 左肩棘上部 切傷 一 長二仙迷半 深サ一仙迷半
- 乙 左肩棘上部 同 五 長三仙迷半 深サ一乃至二仙迷
- 丙 左腰部 同 二 長三半乃至四仙迷 深サ一乃至二仙迷

右三部ノ切傷ハ何レモ殆ト併死シ又其創口ノ下端(足ニ向フタル方)ハ淺ク上端比較的深シ外見上ノ檢査ニ依レハ此等創傷ハ一個ニシテ眞ニ生命ヲ落スノ價值ナシ然レモ若シ果シテ此等ノ切傷ハ強大ノ重器(斧又ハ鉈)類ヲ以テ成シタルモノニセンカ縱令外見の傷度ハ輕キモ其直下ニ存スル内臓ハ爲メニ非常ノ激動ヲ受ク依テ以テ死ヲ致シタルヤモ測ルヘカヲス然レモ開驗セサリシヲ以テ内臓ノ變化ヲ知ルニ由ナシ

六 頭部ノ切傷 此ニ存スル四個ノ切傷中三個ハ後方ニ在テ一個ハ側方ニアリ何レモ最モ危度ノ創傷



ニシテ皆十頭蓋骨ヲ截割シテ深ク腦髓内ニ達シ或ハ其骨面ニ數個ノ破碎ヲ呈ス故ニ頭腔ハ開放シテ此處ヨリ腦膜ノ切片ト軟化崩壞セル腦髓ヲ漏出ス左ニ各部ノ傷位及方向傷度ヲ記ス

(甲) 後頭部中央ノ切傷縱經ニシテ顛頂骨失狀縫合ノ左側ニ達ス長サ十四仙迷ニシテ深サ骨ヲ通シテ腦髓内ニ入ル

(乙) 右ノ乳頭部ノ後方ヨリ矢狀縫合ニ達ス長サ十五仙迷深サ同前

(丙) 右乳頭部ノ後方ヨリ同側顛頂隆起ニ達ス長サ十五仙迷深サ同前

(丁) 左耳前ヨリ同側ノ額隆起ニ達ス長サ十三仙迷深サ骨ヲ通シ其一部腦髓ニ達ス

鑑定

以上列記シタル狀況ニ依テ見レハ

- 一 南條北入ノ創傷ハ総テ後方ヨリ受ケタルモノナリ
- 二 北入致命ノ原因ハ頭部ニ存スル四傷ノ一ナリ爾餘ノ三傷ハ致命ニ要ナシ
- 三 軀幹後方ノ切傷ハ悉ク生活間ニ受ケタルモノナレモ外見上ノ検査ニ於テハ直ニ生命ヲ殞スノ價値ナキモノナリ
- 四 此屍体ノ創傷ハ重器(斧又ハ鈍ノ類)ヲ以テ強擊シタルモノナラン
- 五 北入ノ屍体上ニ於テ生活間ニ抗爭シタル證跡ヲ發見セス

六 致命ノ場所ハ屍体現在ノ所ニアラスシテ却テ細路ノ大血斑部ナラン  
右鑑定致候也

醫師 白井 黒庵

附錄第四號

搜查調書

茨城縣何郡何村大字何々神社ニハ誰某ノ強盜事件ニ關スル證憑物件ヲ藏匿シタリトノ疑アルニ付本官ハ巡查誰ヲ伴ヒ該地ニ出張シ神官誰ノ立會ヲ求メタル上巡查及ヒ村民誰々ニ命シテ同社ヲ搜索セシメタルニ果シテ拜殿ノ床下凡ソ五尺許リ這込タル所ニ枯葉ヲ搔キ寄セアル其内ヨリ別紙目錄ノ通り証憑トナル可キ物件ヲ發見セシテ以テ神官誰ニ對シ此物件ハ誰某ノ強盜事件ニ付キ必要ノ証憑ト認ムルニ付差押ル旨ヲ告知シ即時之ヲ差押ヘテ別紙目錄ヲ調製シタリ

明治何年何月何日

何縣何郡何村何神社境内ニ於テ

但出張先ニ係ルヲ以テ官署印ヲ用ヒス

何警察署詰

警部

誰印



巡查

誰印

何神社祠掌

立會人

誰印

差押目録

一刀 貳本

内壹本其形状ハ左ノ如シ

欄紐ハ茶色ノ絹絲ナレモ垢染ミタル爲メ黒光リヲ爲ス○鏢ハ鉄地ニ銀ノ波形ヲ置キ其ニ金ヲ以テ千鳥ヲ四個所ニ描ク○切羽及刃ハ鋼地ニ金ヲ鍍シ而シテ鋸ノ方ハ刀室ニ摩擦セシ爲メカ半ハ地質ヲ顯ハセリ○鞘ハ黒塗ナレモ所々剝脱シテ地質ヲ顯ハセリ○縁頭及鏝ハ脱落セリ○目釘ハ竹ナリ○刀ノ中ハ二尺一寸ニシテ錠子ヨリ三寸許リノ所ニ少シク刃ノ毀レタルヲ見ル且ツ其邊ニ血液ノ如キモノ薄ク付着セリ○刀質ハ無銘ニテ新刀ナリ

他ノ一本ハ其形状左ノ如シ

裸刀ニシテ長サ二尺五寸ナリ○欄ノ所ニハ古手拭ノ裂ケヲ卷付タリ○粗礪ヲ以テ錆ヲ落シタルノ形跡アリ○刀質ハ前者ニ比スレハ稍古ク銘ノ如キモノアレモ鏝ノ爲メニ分明ナラス

一麻繩 一筋

長サ六尺ナリ○ニク所ニ結目アリ○古ク垢染ミタル故ニ確ニ知レサルモ血痕ノ如ク見ユルモノ所々ニ附着セリ

一蠟燭 五本

紙蠟ニ入レタリ○紙蠟ニハ何町何屋誰某製トノ印刷アリ○蠟燭ハ何挺掛ナリ

一寫眞

若キ女ノ半身像ナリ○裏ニ何町何屋誰某ト記セリ○半紙ニ包ミアリ

以上

○在郷諸兵犯罪者取締手續

明治十八年七月廿八日乙第八十一號 (警)

一 在郷諸兵犯罪アリ縣駐在官懲罪ノ處分ヲナシタルハ郡駐在官ニ達シ全官ハ所屬郡役所ヲ經テ(戸長)ニ移シ(戸長)ハ其罰文ヲ本人ニ達シ而シテ其達シタル年月日ハ速ニ郡役所ヲ經テ郡駐在官ニ報告スヘシ

一 縣駐在官ヨリ犯罪處分ノ達アルハ郡駐在官最寄警察署警察分署ニ處分ノ趣直ニ通牒スヘシ亦通牒ヲ受ケタル警察署長(分署長)ハ部下巡查ヲシテ本人所在地ノ(戸長)ニ付罰文申渡ノ月日ヲ調査セ其服罰中ハ時々之ヲ視察セシメ而シテ若シ禁足心得書ニ背キ謹慎ノ意ヲ表セサルト見認メシトハ視察巡查其實事ヲ詳記シ所屬長ヲ經テ郡駐在官ニ報知スヘシ亦郡駐在官其報知ヲ受クルハ本